南方(済生会)遺跡2

介護老人保健施設たちばな苑建設に伴う発掘調査

2007

岡山県済生会
岡山市教育委員会

南方(済生会)遺跡2

介護老人保健施設たちばな苑建設に伴う発掘調査

2007

岡山県済生会
岡山市教育委員会

序

中四国のかなめ岡山市は、2007年1月に建部町・瀬戸町と合併いたしました。2005年3月の御津町・灘崎町とあわせて、790k㎡と広大な面積を持つこととなり、かつての吉備4国のうち備前・備中・美作の古代の3国にまたがる全国でもまれな市となりました。同時に市域の遺跡数は約3600遺跡となり、このなかには縄文時代の彦崎貝塚・弥生時代の津島遺跡・古墳時代の造山古墳・古代の大廻小廻山城・賞田廃寺・万富東大寺瓦窯など、西日本あるいは全国を代表する遺跡も少なくありません。

このたび報告いたします南方遺跡もこうした遺跡のひとつです。南方遺跡は戦前から知られた遺跡でありますが、山陽新幹線建設に関連する調査で弥生時代中期を代表する遺跡として注目され、国立岡山病院施設建設に伴う調査ではその重要性が確かめられました。さらに、岡山県済生会ライフケアセンター建設に伴う調査では、多数の木製品をはじめとする有機質遺物が発見され全国的な注目を集めるとともに、南方遺跡が中部瀬戸内を代表する中核的な遺跡であることが再認識されました。

このたびの発掘調査では弥生時代中期の集落の有様だけではなく、あらたに弥生時代前期の集落を取り囲む環濠の存在が明らかとなり、南方遺跡は長く集落が営まれていたことがわかり、その重要性もさらに増しました。

調査にあたっては、社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会をはじめ多くの方々に、ご協力やお教えをいただきました。あらためて感謝申し上げますとともに、本書が埋蔵文化財の理解の手助けとなり、教育をはじめさまざまな形で皆さんに活用いただけることを願ってやみません。

平成19年3月

岡山市教育委員会
教育長　山根文男

例　言

1．この報告書は、岡山市教育委員会文化財課が、社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会(以下、岡山県済生会)が計画した介護老人保健施設たちばな苑建設に伴い、平成17年9月8日から平成17年10月24日にかけて発掘調査し、平成17年12月9日から平成17年12月12日に立会調査した、岡山市国体町3-12に所在する南方遺跡に関するものである。

2．発掘調査・報告書作成は扇崎　由が担当し、文化財課諸氏の援助を得た。

3．発掘調査・報告書作成に関わる人件費及び印刷費等は岡山県済生会が負担した。

4．弥生前期土器中のプラント・オパール分析については、宮崎大学助教授　宇田津徹朗氏に玉稿をいただいた。石器石材については、岡山大学助教授　鎗木茂之氏にご教示いただいた。

5．この報告書に用いている高度は、標準海抜高度である。

6．この報告書に用いている方位は、磁北である。

7．報告書の遺構配置図に示す以下の遺構名は、原則として次のとおり略称を用い種類によらず通し番号を付した。

竪穴住居：SH　　土坑：SK　　溝：SD　　柱穴：SP

8．遺物番号のうち土器以外のものについては、その材質を示すため、番号の頭に次に示す略号を付した。なお、遺物番号は、種類ごとに1から通し番号を付した。

土製品：D　　石器：S　　木器：W　　骨角器：B

9．石器に示すスクリーントーン表示は摩滅、木器に示すスクリーントーン表示は樹皮を表す。

10．遺物・図面・写真等は岡山市埋蔵文化財センター（岡山市網浜834-1）にて保管している。

目　次

巻頭図版
序
例　言
目　次
第１章　南方遺跡の立地と周辺の弥生集落……1
第２章　調査の経緯と経過……5
　１．調査に至る経緯……5
　２．調査の経過と概要……6
第３章　遺構と遺物……8
　１．竪穴住居……9
　２．柱列……20
　３．土坑……23
　４．溝……53
　５．柱穴……86
　６．包含層……97
小　結……103
南方遺跡から出土した土器のプラント・オパール分析……105
遺物観察表……114
図　版
報告書抄録
奥　付

挿図目次

第１図　南方遺跡の位置(1/2,000,000)……1
第２図　南方遺跡と周辺の弥生集落(1/25,000)……2
第３図　発掘区位置図(1/1,000)……6
第４図　内壁土層図(1/40)……7
第５図　調査区全体図(1/200)……8
第６図　発掘調査全体図(1/120)……9
第７図　SH53(1/60･1/30･1/4･1/2)……10
第８図　SH58(1)(1/60･1/30･1/4･1/2･2/3)……11
第９図　SH58(2)(1/4･1/1)……12
第10図　SH142(1/60･1/4･1/2･2/3)……14
第11図　SH144(1)(1/60)……15
第12図　SH144(2)(1/4･2/3)……16
第13図　SH151(1)(1/60･1/4)……17
第14図　SH151(2)(1/4･2/3)……18
第15図　SH151(3)(1/4･1/2)……19
第16図　柱列1(1/60･1/30･1/4･2/3)……21
第17図　柱列2(1/60･1/30･1/4)……22
第18図　SK48(1/40･1/4･1/2)……23
第19図　SK51(1/40･1/4･2/3)……24
第20図　SK63(1/40･1/4･1/2)……24
第21図　SK64(1/40･1/4)……26
第22図　SK69(1/40･1/4)……27
第23図　SK70(1/40･1/4･1/2)……29
第24図　SK71(1/40･1/4･1/2)……30
第25図　SK72(1/40･1/4･1/2)……32
第26図　SK76(1/40･1/4･2/3)……33
第27図　SK87(1/40･1/4)……33
第28図　SK93(1/40･1/4)……34
第29図　SK95(1/40･1/4)……35
第30図　SK96(1)(1/40･1/2)……36
第31図　SK96(2)(1/4)……37
第32図　SK97(1/40･1/4･1/2)……38
第33図　SK99(1/40･1/4･1/2)……39
第34図　SK106(1/40･1/4･1/2)……39
第35図　SK113(1/40･1/4･1/2)……40
第36図　SK114(1/40･1/4･1/2)……41
第37図　SK138(1/40･1/4)……42
第38図　SK153(1/40･1/4)……43
第39図　SK155(1)(1/40･1/4)……44
第40図　SK155(2)(1/2)……45
第41図　SK157(1/40･1/4)……45
第42図　SK158･SK188(1/40･1/4)……46
第43図　SK167(1/40･1/4･1/2)……47
第44図　SK192(1/40･1/4)……47
第45図　SK196(1/40･1/4)……48
第46図　SK202(1/40･1/4)……49
第47図　SK203(1/40･1/4･1/2)……50
第48図　SK205(1/40)……51
第49図　SK206(1/40･1/4)……51
第50図　SK301(1/40･1/4)……52
第51図　環溝平･断面図(1/120)……53
第52図　SD94(1)(1/40･1/4)……54

第53図 SD94(2)(1/4)……57
第54図 SD94(3)(1/4)……58
第55図 SD94(4)(1/4)……59
第56図 SD94(5)(1/4)……60
第57図 SD94(6)(1/4)……63
第58図 SD94(7)(1/4·1/2)……64
第59図 SD94(8)(1/2)……65
第60図 SD94(9)(1/4·1/2)……66
第61図 SD145(1)(1/40)……67
第62図 SD145(2)(1/4)……69
第63図 SD145(3)(1/4)……70
第64図 SD145(4)(1/4)……71
第65図 SD145(5)(1/4)……72
第66図 SD145(6)(1/4)……74
第67図 SD145(7)(1/4)……75
第68図 SD145(8)(1/4)……76
第69図 SD145(9)(1/4)……77
第70図 SD145(10)(1/4·1/2)……78
第71図 SD152(1/4)……79
第72図 SD11·12(1)(1/100·1/40)……80
第73図 SD11·12(2)(1/4·1/2·2/3)……81
第74図 SD13(1)(1/100·1/40·1/4)……83
第75図 SD13(2)(1/4·1/2)……84
第76図 SD13(3)(1/2·2/3)……85
第77図 SP14(1/4)……86
第78図 SP15(1/4)……87
第79図 SP24(1/4)……87
第80図 SP25(1/4)……87
第81図 SP26(1/4)……87
第82図 SP27(1/4·2/3)……88
第83図 SP30(1/4)……88
第84図 SP31(1/4·2/3)……88
第85図 SP35(1/4)……89
第86図 SP37(1/4·1/2)……89
第87図 SP38(1/4)……89
第88図 SP46(1/4)……90
第89図 SP49(1/4·1/2)……90
第90図 SP50(1/4)……90
第91図 SP52(2/3)……91
第92図 SP56(1/4)……91
第93図 SP60(1/4)……91
第94図 SP67(1/4·1/2)……91
第95図 SP68(1/4)……92
第96図 SP79(1/4)……92
第97図 SP83(1/4)……92
第98図 SP90(1/4)……92
第99図 SP101(2/3)……93
第100図 SP115(1/4)……93
第101図 SP117(2/3)……93
第102図 SP119(2/3)……93
第103図 SP120(1/4)……94
第104図 SP122(1/4)……94
第105図 SP123(1/4·1/2)……94
第106図 SP130(1/4)……94
第107図 SP132(1/2)……95
第108図 SP139(1/4)……95
第109図 SP146(1/4)……95
第110図 SP147(1/4)……96
第111図 SP169(1/2)……96
第112図 SP183(1/4)……96
第113図 SP191(1/30)……97
第114図 SP199(1/4)……97
第115図 SP216(1/2)……97
第116図 包含層(1)(1/4)……98
第117図 包含層(2)(1/2·2/3)……99
第118図 包含層(3)(1/2)……100
第119図 包含層(4)(1/2)……101
第120図 弥生前期環濠範囲想定図(1/2,000)……103

図版目次

図版1 1.調査区全景(北から)
2.環濠と人型土坑群(北から)
3.SH58(東から)
図版2 1.SH141(北から)
2.SK48(西から)
3.SK69(西から)
図版3 1.SK70(北西から)
2.SK206(東から)
3.SD94(南から)
図版4 1.SD145(南から)
2.調査風景
3.見学風景
図版5 SH142·SH144·SH151A·SK64·SK71·SK202 出土土器
図版6 SK69·SK155·SK192·SK206·SK301 出土土器
図版7 SD94 出土土器
図版8 SD145 出土土器
図版9 SP25·SP67·SP90·SD94·SK71·SK72·SK203·包含層 出土土器·土製品·骨角器·木製品
図版10 出土石器

第1章　南方遺跡の立地と周辺の弥生集落

南方遺跡はＪＲ岡山駅から北東に１km ほどの市街地中心部で、岡山市南方から国体町にかけて所在する弥生時代中期の拠点的集落である。鳥取県境近くに源流を持つ旭川は、龍ノ口山塊と半田山山塊との間で山間部の制約から抜けて、海岸部へ大きな沖積平野を作り出す。南方遺跡の立地する旭川西岸地域では北東から南西方向に微高地が形成され、沖積化の進んでいない弥生・古墳時代にあっては、集落は微高地の大小の差はあれこの地形的制約の中で展開している。旭川の大きな流路は現在の東岸地域にあったようで、この点は地形的観察とともに百間川遺跡群などで見られた洪水砂が、西岸地域ではほとんど見られないことも関係していよう。

岡山平野西岸地域の弥生集落は、津島岡大遺跡、津島東遺跡、北方長田遺跡、津島遺跡、津島江道遺跡、上伊福遺跡、鹿田遺跡、大瀬遺跡などで発掘調査がされている。次に見るように、長期にわたり継続される弥生集落はなく、短期または断続的に集落が営まれているようだ。

津島岡大遺跡では、竪穴住居そのものの確認はされていないものの、前期と後期前葉の土坑や貯蔵穴などから近接した居住域も想定できる。しかし、特に前期には広範囲に水田が検出されていて、生産域ないしその近接地の広がりが大きい。

北方長田遺跡では、岡山市水道局水質試験所建設に先立ち発掘調査が行われ、小面積ながら中期後葉の竪穴住居・溝や後期前葉の竪穴住居・土坑などを検出している。

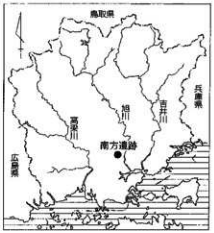
津島江道遺跡では岡北中学校の校舎等の建て替えに伴う調査で、弥生前期の水田、後期の竪穴住居・土坑・溝などを検出している。後期の住居・土坑は散発的で集落端部の様相を示している。岡山県青年館建設に伴う発掘調査では弥生時代末から古墳時代前半の竪穴住居、弥生時代の土器溜まり、前期の土坑などを検出している。

津島遺跡では武道館当初予定地で前期の竪穴住居・掘立柱建物・壁立建物・土坑や後期の土坑・溝などが、北池・南池で後期の竪穴住居や土坑などが調査されているが、中期は武道館当初予定地で溝が検出される程度で希薄である。なお、岡山県総合グラウンド南東部の新体育館建設に伴う調査で、中期の住居や土坑が検出されている。観音寺用水の北に位置する点は気がかりではあるが、絵図遺跡との関連で捉えた方がよかろう。

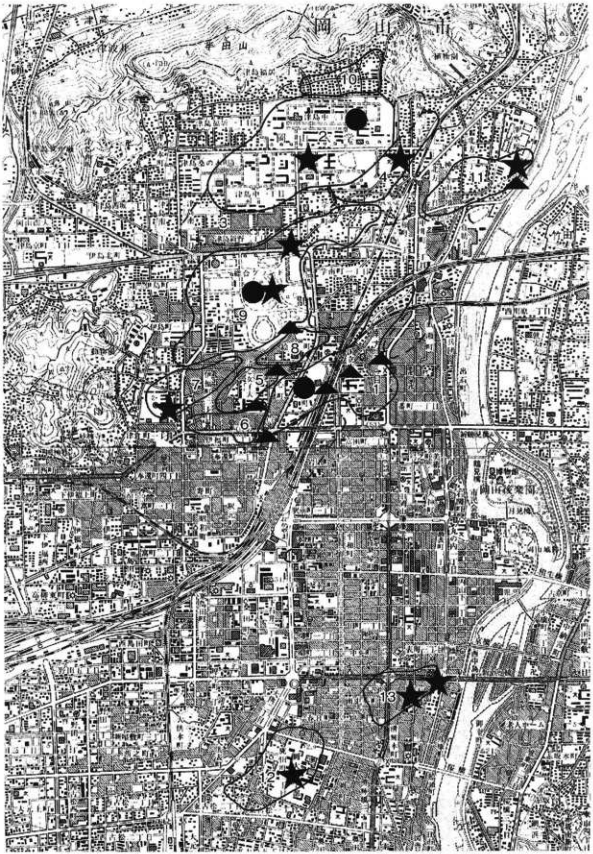
伊福定国前遺跡では県立岡山工業高校校舎等の建設に伴う発掘調査で、後期後半の竪穴住居・井戸・土器棺・土坑などを密集状態で検出している。

鹿田遺跡では 1983 年からの調査で、中期後半～後期の竪穴住居・井戸・溝・土坑などが確認されている。

天瀬遺跡では岡山市立市民病院建設に伴い弥生後期の竪穴住居・柱穴・土坑・井戸・溝などを、共同溝建設に伴う調査では新京橋西詰交差点付近で中期の土器棺や後期の竪



第1図　南方遺跡の位置



1.南方遺跡　2.津島岡大遺跡　3.津島術野遺跡　4.津島江道遺跡　5.上伊福遺跡　6.上伊福（立花）遺跡　7.上伊福遺跡・伊福定国廃遺跡
8.絵図遺跡　9.津島遺跡　10.津島東遺跡　11.北方芸田遺跡　12.鹿田遺跡　13.天瀬遺跡　（発掘調査された集落に限る）
●：前期、▲：中期、★：後期

第2図　南方遺跡と周辺の弥生集落

穴住居・土坑・溝などを検出している。

これに対し南方遺跡では、新幹線建設に伴う市道建設調査や旧国立岡山病院施設建設・マンション建設・病院施設建設などに伴い発掘調査が行われ、弥生中期の住居・灰の詰まった大型を含む土坑・土坑墓・木棺墓などが密集状態で確認されている。済生会病院ライフケアセンター建設に伴う調査では集落の北端と旧河道を検出し、そこに投棄された土器・石器・木器・骨角器は質・量ともに拠点的集落たることを示していた。また、同調査や国道53号電線地中化に伴う調査や新幹線建設に伴う市道建設調査で、墓域を確認している。人骨の残りもよく、この地域の中期人骨が南方遺跡にほぼ限られる点は、人類学的にもこの遺跡の重要性を物語っている。裁判所庁舎建設に伴う調査では、低湿状で東南端に近いものと思われる。一方で、住居や倉庫などは部分的ないし単発的に確認されているにすぎず、居住域の様相については不明のままである。中期の遺構が著しく重複する反面、後期の遺構は極めて希薄で、次に住居等が営まれるのは古墳時代前期になってからである。こういった点は近接する絵図遺跡や上伊福九坪遺跡でも同様である。今回の調査で南方遺跡内で前期の環濠が確認されたことにより、もちろん出土した土器から想定はされていたが、南方遺跡は前期から中期まで継続される集落であることが判明した。

旭川西岸での弥生集落の変遷を概略すると、前期の津島岡大遺跡・津島遺跡・南方遺跡から中期には南方遺跡・絵図遺跡・上伊福九坪遺跡へと移り、中期後葉には北方長田遺跡や鹿田遺跡などへ、後期にはさらに津島江道遺跡・津島岡大遺跡・津島遺跡・伊福定国前遺跡・天瀬遺跡などが加わり、南方遺跡・絵図遺跡・上伊福九坪遺跡が空白となる一方で、山際や海浜部など周辺域へ展開する様相を示している。前期のあり方は不明な点が多いが、単純に図式化すれば、前期：分散？→中期：集中→後期：分散、といった流れでつかむこともできよう。

上記は部分的にしろ発掘調査がなされた遺跡を対象として包蔵地は除外している。ずいぶんと乱暴ではある。ただ、中期に集中する点を肯定的に見るならば、西岸域全体で一つの共同体を形成していたと考えることもでき、対峙すべきは東岸集落となろう。

参考文献

津島岡大遺跡

吉留秀敏ほか 1986 『岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第２冊　岡山大学埋蔵文化財調査室
山本悦世ほか 1992 『津島岡大遺跡３』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第５冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
阿部芳郎ほか 1994 『津島岡大遺跡４』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第７冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
富樫孝志ほか 1995 『津島岡大遺跡５』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第８冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
土井基司ほか 1995 『津島岡大遺跡６』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第９冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
阿部芳郎ほか 1996 『津島岡大遺跡７』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 10 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
光石鳴巳ほか 1997 『津島岡大遺跡８』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 12 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
横田美香ほか 1997 『津島岡大遺跡９』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 13 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
小林青樹ほか 1998 『津島岡大遺跡 10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 14 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
山本悦世ほか 2003 『津島岡大遺跡 11』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 16 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
野崎貴博ほか 2003 『津島岡大遺跡 12』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 17 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
高田浩司ほか 2003 『津島岡大遺跡 13』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 18 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
山本悦世ほか 2004 『津島岡大遺跡 14』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 19 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
光木　順ほか 2005 『津島岡大遺跡 15』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 20 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岩崎志保ほか 2005 『津島岡大遺跡 16』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 21 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
野崎貴博ほか 2006 『津島岡大遺跡 17』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 22 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

北方長田遺跡

岡山市教育委員会 2001 「北方長田（水質試験所）遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1999（平成 11）年度』

津島遺跡

岡山市教育委員会 1997　「津島新野(下水立坑)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1995(平成 7)年度』
渡邊恵里子ほか 1999　『津島遺跡 1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 137　岡山県教育委員会
杉山一雄 1999　『津島遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 145　広島高等裁判所・岡山県教育委員会
岡山県教育委員会 1999　「7. 確認調査概要　(6)国家公務員宿舎建設に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告 29』
岡山県教育委員会 1999　「9. その他の調査　(1)津島遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告 29』
平井勝ほか 2000　『津島遺跡 2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 151　岡山県教育委員会
岡山市教育委員会 2000　「津島(電線地中化)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1998(平成 10)年度』
氏平昭則ほか 2001　『津島遺跡 3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 160　岡山県教育委員会
岡山市教育委員会 2001　「津島(電線地中化)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1999(平成 11)年度』
岡本泰典ほか 2004　『津島遺跡 5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 181　岡山県教育委員会
岡山県教育委員会 2004　「7. 試掘確認調査概要　(1)財務省官舎建て替えに伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告 34』
團奈歩ほか 2005　『津島遺跡 6』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 190　岡山県教育委員会

津島江道遺跡

岡山県教育委員会 1988　「津島江道遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告 18』
岡山市教育委員会 1998　「津島江道(岡北中)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1996(平成 8)年度』
神谷正義・草原孝典 1998　「岡北中学校内遺跡の発掘調査」『岡北中学校五十年の歩み』岡北中学校創立 50 周年記念事業実行委員会
岡山市教育委員会 1999　「津島江道(岡北中)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1997(平成 9)年度』
岡山市教育委員会 2000　「津島江道遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1998(平成 10)年度』
岡山市教育委員会 2004　「津島遺跡」『岡山市埋蔵文化財センター年報 3　2002(平成 14 年度)』

上伊福遺跡

中野雅美・根木　修 1986　「上伊福九坪遺跡」『岡山県史　考古資料編』
岡山市教育委員会 1996「上伊福・南方(済生会)遺跡(上伊福立花調査区) 2」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1994(平成 6)年度』
岡山市教育委員会 1998「上伊福・南方(済生会)遺跡(上伊福立花 3 調査区)」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1996(平成 8)年度』
岡山県教育委員会 1999　「9. その他の調査　(2)上伊福遺跡・南方遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告 29』
岡山県教育委員会 2000　「10. その他の調査　(2)上伊福遺跡・南方遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告 30』
岡山県教育委員会 1996　「9. 立会調査　[4] 津島遺跡・絵図遺跡(電線地中化工事)」『岡山県埋蔵文化財報告 26』

絵図遺跡

岡山県教育委員会 1994　「国道 53 号キャブシステム建設に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財報告 24』
内藤善史 1996　『絵図遺跡　南方遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 110　岡山県教育委員会
岡山市教育委員会 2006　「絵図遺跡」『岡山市埋蔵文化財センター年報 5　2004(平成 16 年度)』

伊福定国前遺跡

杉山一雄ほか 1998　『伊福定国前遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 125　岡山県教育委員会
金田善敬ほか 2005　『伊福定国前遺跡 2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 188　岡山県教育委員会

鹿田遺跡

山本悦世ほか 1988　『鹿田遺跡 I』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 3 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
松木武彦ほか 1993　『鹿田遺跡 3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第 6 冊　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

天瀬遺跡

出宮徳尚 1986　「天瀬遺跡」『岡山県史　考古資料編』
杉山一雄ほか 2001　『天瀬遺跡・岡山城外堀跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 154　岡山県教育委員会
岡山県教育委員会 2001　「10. その他の調査　(2)京橋電線共同溝工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告 31』
岡山市教育委員会 2001　「天瀬(共同溝)遺跡の立会調査」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1999(平成 11)年度』

南方遺跡

出宮徳尚・伊藤晃 1971　『南方遺跡発掘調査概報』　岡山市教育委員会
柳瀬昭彦・岡本寛久 1981　『南方遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 40　岡山県教育委員会
出宮徳尚ほか 1981　『南方(国立病院)遺跡発掘調査報告書』　岡山市教育委員会・岡山市遺跡調査団
岡山市教育委員会 1993　「南方(国体開発)遺跡現地説明会資料」
岡山市教育委員会 1994　「南方(国体開発)遺跡－第二回－現地説明会資料」
岡山市教育委員会 1996「上伊福・南方(済生会)遺跡(南方蓮田調査区) 1」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1994(平成 6)年度』
岡山市教育委員会 1996「上伊福・南方(済生会)遺跡(南方蓮田調査区) 2」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1994(平成 6)年度』
岡山市教育委員会 1997「上伊福・南方(済生会)遺跡(南方蓮田調査区 2)」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1995(平成 7)年度』
岡山市教育委員会 1997「南方(中電)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1995(平成 7)年度』
岡山市教育委員会 1997　「南方(岡山牛乳)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要　1995(平成 7)年度』
澤山孝之ほか 2006　『南方遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 196　岡山県教育委員会
下澤公明ほか 2006　『南方遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 200　岡山県教育委員会

第2章　調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯

社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山県済生会(以下、岡山県済生会)は、ライフケアセンターに南接する岡山市国体町3番12号に、介護老人保健施設建設を計画し、平成16年12月3日付で埋蔵文化財等の存在状況確認調査の依頼が提出された。岡山市教育委員会では12月6日付で確認調査が必要の旨回答し、確認調査を平成17年1月14日に行った。その結果、東西2箇所の試掘坑の内、東の試掘坑において地表下1mで遺物包含層を 1.4mで微高地基盤層を確認し、弥生時代から古墳時代の集落遺跡の存在が明らかとなり、事業の計画・施工にあたり埋蔵文化財の保護・保存の協力を要請した。

しかし、当該事業は平成16年11月30日に、岡山市社会福祉法人設立認可及び社会福祉施設整備等審査会で補助金交付対象事業に採択されており、岡山県済生会からは平成17年7月19日付で、埋蔵文化財緊急発掘調査実施依頼が提出された。岡山市教育委員会では、「開発事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて」(平成13年1月4日付教文埋第1335号　岡山県教育委員会教育長通知)による判断基準に該当し発掘調査の措置を講じる必要のあること、試掘調査の結果地表下1m以下に埋蔵文化財が存在し、建物の規模や構造上、設計変更による現状保存が困難なことから、平成17年7月20日付で緊急調査の実施を決定した。調査は試掘で埋蔵文化財包蔵層を確認し、かつ大型基礎が集中する東側300㎡を対象とした。近現代のゴミ穴が存在し基礎の浅い西側については、基礎掘削時ないしその事前に掘削範囲を掘削深度や遺構の状況などに応じて記録保存することとした。調査期間は1ヶ月を予定したが、遺構の密集度が予想を上回り結局約2ヶ月を要した。

発掘調査組織

発掘調査主体者	岡山市教育委員会教育長　山根文男
発掘調査担当者	根木　修(岡山市教育委員会文化財課長)
	山宮徳尚(岡山市教育委員会文化財課文化財専門監)
	神谷正義(岡山市教育委員会文化財課文化財副専門監)
	草原孝典(岡山市教育委員会文化財課主任)
	安川　満(岡山市教育委員会文化財課文化財保護主事)
	柿本貴子(岡山市教育委員会文化財課主事)
(調査員)	扇崎　由(岡山市教育委員会文化財課主任)

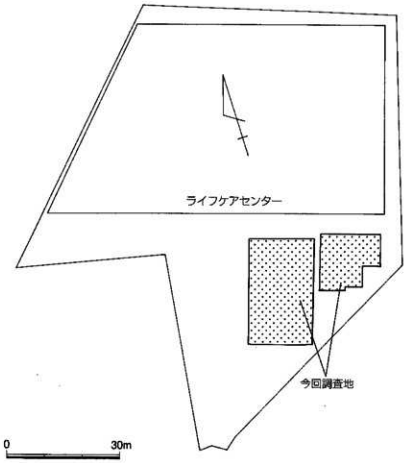
発掘調査・報告書作成にあたり、多くの方から助言・指導を受けました。記して感謝します。
秋山浩三・石黒立人・伊藤　晃・稲田孝司・岩崎志保・小沢佳憲・上村俊雄・亀田修一・河合　忍
小林青樹・小林謙一・設楽博巳・柴田昌児・島崎　東・高田寛太・田崎博之・中野雅美
西本豊弘・馬場伸一郎・濱田竜彦・平井典子・広瀬和雄・福田さよ子・福田正継・藤尾慎一郎
間壁忠彦・間壁葭子・村上由芠子・安　秀樹・山本悦世・若林邦彦　　(五十音順)

2. 調査の経過と概要

遺構の検出は重機による上層水田層の除去後、包含層上面から行った。古代後半の溝３条は包含層上面で検出している。出土物の量はあるものの大半が弥生土器であり、溝の時期を確実に示すと思われる遺物は少ない。包含層中で確認し得た遺構は、**柱列1・柱列2**及びいくつかの柱穴と **SH144** の一部に限られ、**SH151** に代表されるようにその存在は予期しつつも、結果的には基盤上面での検出に至った遺構が大半であった。また、土色が緑灰色や橙灰色に変化して遺構検出を困難にしている箇所もあった。包含層中には古墳後期末の土器もわずかに出土しており、この時期にも集落域の一部を形成していたようだ。

弥生中期の遺構は調査区全面に展開し、足の踏み場のない状態であった。複数が切り合う遺構は基盤面上で複数遺構の輪郭は容易に認識しうるものの、どの遺構も似たような埋土のため、個別切り合い関係については見間違う事もたびたびあった。中期前葉の住居が前期環濠を切って築かれているので、環濠埋没後まもなく集落の拡大が始まっていると見られる。

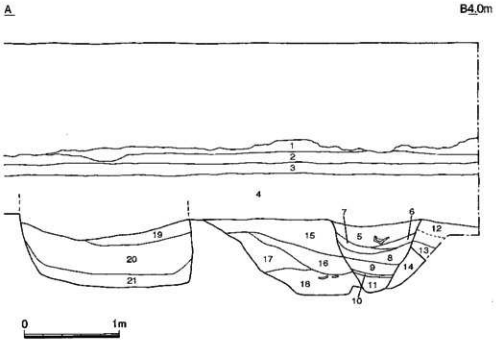
調査地点の現在の標高は 3.7mである。造成土下の旧水田層（1層）上面の標高は 2.7mで、旧水田層はグライ化している。２層は近世水田層で淡黄灰色を呈し、層中にマンガン粒が集積し、鉄分の水平集積が幾筋も見える。包含層は褐灰色の細砂で、厚さが 40cm あり、この下が淡黄褐色細砂、所によっては粘質微砂の基盤土である。包含層上面の標高は 2.3mで、基盤土上面の標高は 1.9mである。



第3図　発掘区位置図

発掘日誌抄

平成17年9月8日	表土掘削開始
9月12日	包含層上面でSD11検出
9月16日	包含層中で柱列1・2検出
9月28日	基盤面で竪穴住居数軒検出
10月6日	弥生前期環溝検出
10月19日	全体写真撮影
10月20日	器材撤収
10月22・23日	岡山国体にあわせ現場公開

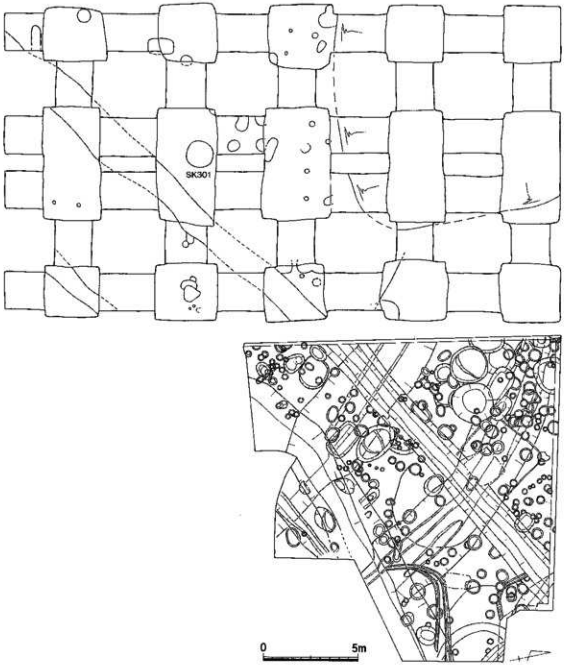


1 暗灰緑色細砂
2 灰青色細砂
3 青緑色細砂
4 褐灰色細砂
5 灰黒色微砂、黒灰・白灰、焼土含む
6 暗灰黄色粘質細砂
7 黒灰色微砂、黒灰層
8 暗灰黄色粘質微砂
9 暗灰色粘質微砂
10 炭層
11 灰黄色粘質微砂
12 灰黒色微砂、上半部は黒灰・白灰、下半部は焼土
13 暗灰黄色細砂、地山ブロックまじり
14 暗黄灰色細砂
15 暗黄灰色細砂
16 暗灰黄色細砂、地山ブロックまじり
17 暗灰黄色細砂
18 暗灰黄色粘質微砂・細砂
19 暗灰色微砂、炭・白灰、焼土まじる
20 暗灰黄褐色細砂
21 黒灰・白灰の薄層

第4図 西壁土層図

第3章　遺構と遺物

弥生前期の溝３・土坑１・柱穴３、弥生中期の住居３・土坑29・柱穴211、弥生後期の住居１、古墳後期の土坑１、古代の溝３などを検出している。弥生前期の溝３条は同心円状にあり、集落を囲む環濠と考えられる。この時期と考えられる遺構は、環濠の内側で少数検出しているが、住居は検出していない。集落最盛期の弥生中期の遺構は環濠間に密集して形成されており、集落の拡大の様相が窺



第5図　調査区全体図

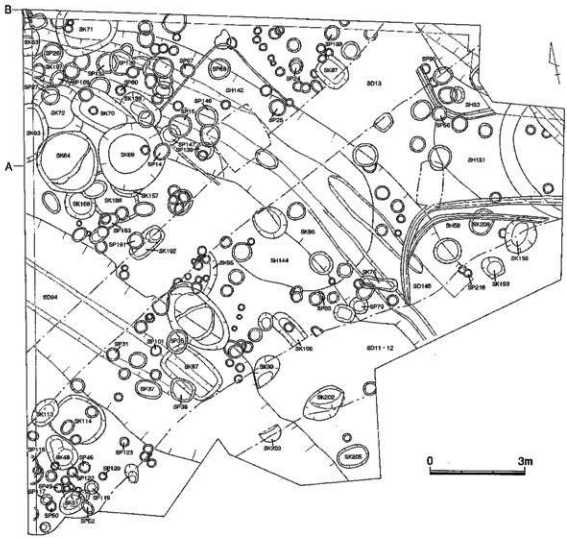
える。白灰や黒灰が捨てられた大型土坑は、調査区北西部に築かれ、この一帯は他の土坑や柱穴も密集している。反面、弥生後期の遺構は数少ない。これは南方遺跡他地点の調査とも符合するが、古墳前期の遺構が見られない点は、一定程度住居の築かれる国立病院地点とは様相が異なっている。弥生中期後半もその可能性があるが、南方遺跡内での中心地が移動している可能性が考えられる。

1. 竪穴住居

竪穴住居は、弥生中期前葉から後期後葉までの４軒を検出している。平面形は、円形・隅丸方形・方形の３者がある。焼失住居は１軒で、建て替えにより拡大している住居は２軒ある。

SH53(第7図)

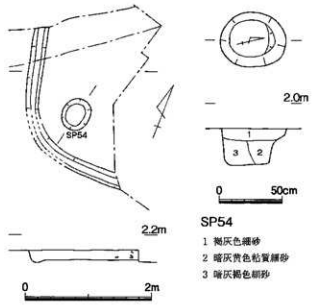
SH53 は調査区の北東端で検出した、隅丸方形の住居である。東は調査区外に続き、北は **SD13** に切られているため、検出したのは南西部のコーナーを含む 1/4 ほどである。南北 2.9m東西 1.9mを確認した。床面は検出面からの深さ 16cm で、壁面に沿って幅 24cm 深さ 4 cm の壁体溝がめぐっている。埋



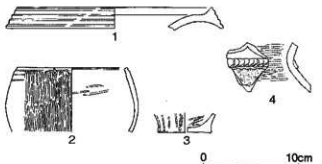
第6図　発掘調査全体図

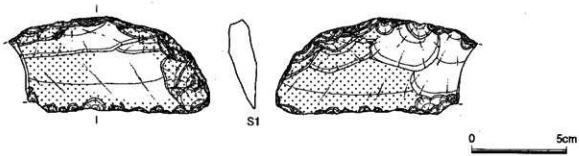
土は単層で、褐灰色細砂である。SP54がこの住居に伴う柱穴と思われる。住居床面では51×45cmの楕円形で、底面では直径35cmの円形である。深さは29cmあり、柱痕跡は明瞭には検出されなかった。埋土は単層で褐灰色細砂である。SP7・56・57はSH53に先行してSP89・90・91・92は住居床面掘り上げ後に検出した。

遺物は弥生中期土器・石器があるが、覆土中に散在し床面からは出土しなかった。土器は小片が多く、図示できる個体が少ない。1は広口壺口縁部の破片で、口径は26.0cmである。上下に拡張してやや内に傾く口縁端部には4条の凹線紋が施されている。3は底径5.6cm、立ち上がり2cmほどで甕底部の小片である。外面のヘラミガキは底部下端に及んでいるが、一部はナデにより消されている。外底面にはナデが施されている。2は杯部がやや深い椀形の高杯の口縁部と見られる。口径は11.5cmで、杯部中央がややふくらみ口縁部は内傾する。口縁部外面には浅い凹線紋が施されていて、最上段以外はヘラミガキによりほとんど消されているが、わずかに3条を見ることができる。4はSP54から出土した広口壺頸部の小片で、頸部には低い指頭圧痕紋突帯[1]が1条貼り付けられている。内面の調整はヘラミガキである。SP54からはほかに小片が2点出土しているにすぎない。

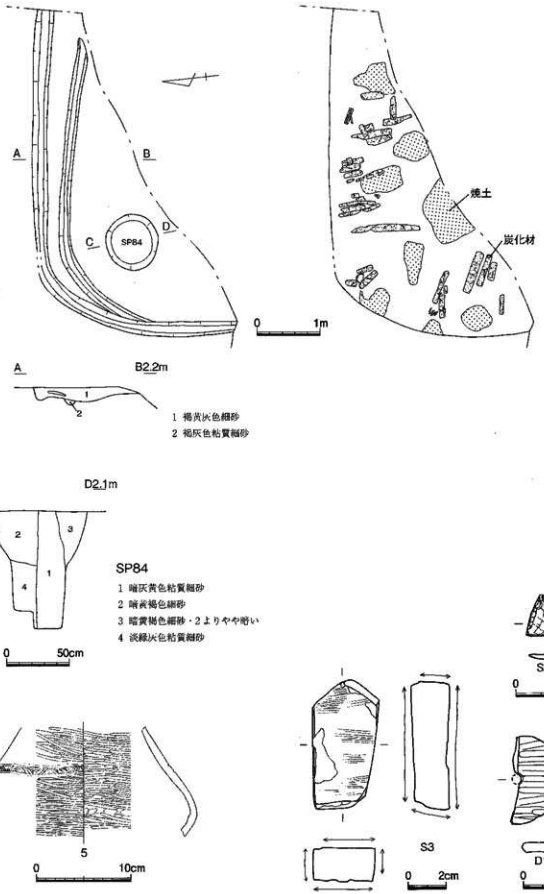


石器は打製石庖丁と元は大型石庖丁と思われる剥片の2点が出土している。打製石庖丁S1は左側部を欠いており全体の4/5程度が残っている。使用痕は摩滅が顕著に見られ、表面には刃部や右側部・右背部および左休部・左背部に、裏面には体部中央にみられるが表面ほど顕著ではない。また、摩滅後に行われた剥離の稜にも新たな摩滅が観察される。右側縁及び左背部には自然





第7図 SH53


A
B
C
D
SP84
0
1m
焼土
炭化材
A
B2.2m
1
2
1 褐灰色細砂
2 褐灰色粘質細砂
C
D2.1m
SP84
1 暗灰黄色粘質細砂
2 暗黄褐色細砂
3 暗黄褐色細砂・2よりやや暗い
4 淡緑灰色粘質細砂
0
50cm
S2
0
2cm
5
0
10cm
S3
0
2cm
D1
0
2cm

第8図 SH58(1)

面が残っている。

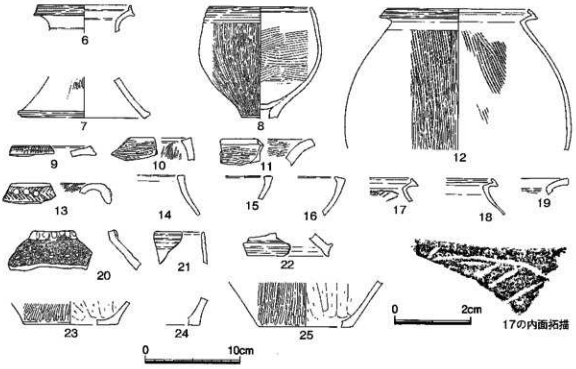
この住居の時期は、出土物から弥生中期後葉と考えられる。

SH58(第8・9図)

SH58は調査区南東部に位置する隅丸方形の住居で、東が調査区外に延び南は**SD11**に切られている。このため検出したのは北西コーナーを含む全体の1/4ほどである。建て替えが一度行われており、新・旧は**A・B**で呼称する。**SH58A**は南北3.1m東西5mで、検出面から床面までの深さは15cmである。壁面に沿って幅20～28cm、深さ6cmの壁体溝がめぐっている。平面検出後すぐに炭化材や焼土があらわれ、焼失住居と判明した。炭化材の状態はあまり良くないが辺やコーナーに直交気味に検出され、焼土は炭化材と炭化材の間などで数箇所にわかれて検出している。炭化材を取り除くとすぐに北辺で内側の壁体溝を検出したため、建て替えが行われたことがわかったが、新旧では床面はほぼ変わらず、西辺や柱穴**SP84**も共用していたと見られる。埋土は単層で褐黄灰色細砂である。

SH58Bは南北2.7m東西4.6mで、北辺にそって幅16cm深さ10cmの壁体溝が付属する。壁体溝の埋土は褐灰色粘質細砂であった。**SP84**は直径75cm深さ93cmで、径40cmの底面は径23cmが13cmほど1段深くなり、土層断面ではこの部分で暗灰黄色粘質細砂の柱痕跡を確認している。壁面は検出面から40cmまでは上方に開いているが、それより下方ではほぼ垂直に近い。埋土は上半が暗黄褐色細砂で、下半が淡緑灰色粘質細砂である。**5**は**SP84**から出土した弥生前期の壺の頸・胴部片である。頸・胴部境に沈線を2条引き、沈線間に3条1端の山形紋を配している。この柱穴からは他に弥生前期壺底部片や弥生中期土器小片が出土している。

SH58Bの出土物は弥生中期土器・石器・土製品がある。小片が多く直径の復原できる土器は6点にすぎない。壺の口縁部は**6**のように上方に拡張させたもの、**9**のように端部が下方にやや拡張し内傾している個体、**13**のように垂下口縁のものとがある。**6**は壺の口頸部の破片で、口径10.0cmの口縁部に



第9図 SH58(2)

は3条の凹線紋が施されていて、頸部には1条分が観察できる。9は口縁部に3条の凹線紋ののち、へら状工具による圧痕を施している。13はへら状工具で羽状紋刺突をした上から、3個1単位の円形浮紋を貼っている。20は壺の頸・胴部境に厚みのない指頭圧痕紋突帯を、肩部には豆粒紋が押捺されている。外面のハケメは一部突帯紋上に及んでいる。14は無頸壺の口縁部小片で、外面は刺落が著しいが、わずかに凹線紋が観察できる。23・25は甕底部片である。薄作りの甕23は底径10.0cmで、立ち上がり2.5cmしか残っていないが、内面にヘラケズリが観察できる。外面のヘラミガキは下端まで施されている。25も底径10.0cmで、外面のヘラミガキは下端部に及んでいるが、部分的にナデ消されている。内面はヘラケズリが行われている。外底面の調整は23がヘラケズリで、25がヘラミガキである。甕は口縁部が「く」の字口縁の19と、端部折り曲げ口縁の12・17・18の2者がある。19の口縁端部はほとんど拡張しない。12は口径15.0cmでロ縁端部が内傾している。内面は風化しているが、ハケメが観察でき、胴部中位までの残存部にはヘラケズリは及んでいない。17は上下にやや拡張する口縁をもち、肩部内面にヘラ描き絵画がある。魚か動物のようにもみえるが、何かは不明である。24は甕の底部小片だが、内外面ともナデが施されている。なお口縁部の小片ではあるが、前期の壺11も出土している。高杯は杯部が鉢形と深椀形の2者がある。10・15・16は杯部鉢形の高杯で、15は口縁部の拡張がほとんど見られないが、10はわずかに肥厚し、16はやや大形で端部が内側に拡張している。8・21は深椀形高杯の杯部で、8は杯部中央がややふくらむ。口径11.0cmの口縁部外面には4条の凹線紋が施されている。脚部は大半が欠損しているが、残存部分で2条の沈線が観察できる。21は深椀形高杯の口縁部小片で、外面には凹線紋が4条ある。7は径13.0cmの高杯脚部片で、透孔は一部が残っているが、形状や数は不明である。高杯脚部22は、脚端部のやや上に凹線紋が1条見られる。

石器は小剥片も含め31点出土している。S2は薄手の剥片を利用したほぼ完形の小型の平基式石鏃である。一部に光沢がみられ、先端をわずかに欠いている。流紋岩製砥石S3は平面五角形で長さ70.1mm幅35.6mm厚さ21.2mmの小型品で、7面全てが使用され、線状の使用痕が顕著に残っている。このほかにサヌカイト製の石核小片や剥片などが29点ある。土製品は紡錘車が1点出土している。D1はほぼ1/2の破片で、厚さ5.5mmの甕胴部片を利用している。直径は4.8cmに復原でき、中央に直径約4mmの円孔を両面から穿孔している。

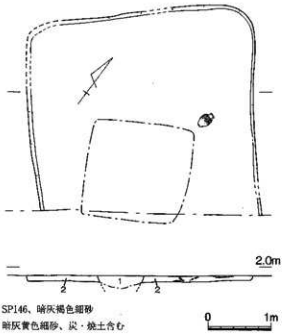
出土物よりこの住居の時期は弥生中期後葉と考えられる。

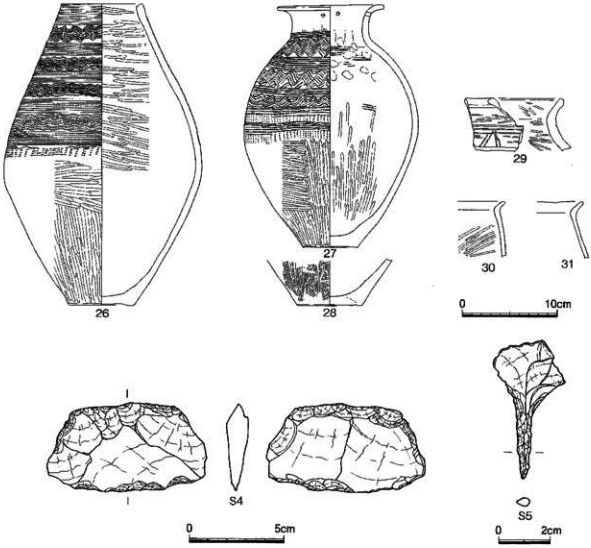
SH142(第10図)

調査区中央北西よりに位置する。東西3.54×南北3.36m以上の隅丸方形ないし長方形の住居で、南東部をSD13に中央部を試掘坑に切られている。埋土は暗灰黄色細砂の単層で、炭や焼土を含んでいる。壁体溝や柱穴は不明である。SD13の壁面や試掘坑壁面などで床面の一部を確認したものの、平面の検出に手間取り、検出面からの深さは8cmほどしかない。しかし、この住居の床面は標高1.76mで、北東部のコーナーで住居埋没後に形成された、屋外炉と考えられる焼土硬化面を標高2.0m付近で検出していることや、床面に横倒しになっていた壺27の胴部径が18.5cmであることなどからすると、この住居の深さは20cm程度の浅いものであったと考えられる。SP146はこの住居床面で検出したが、土層観察によりこの住居に先行することが明らかとなった。

出土物は弥生前期土器・中期土器・石器などがある。土器は覆土中からの出土が大半であるが、先述のように27のみ床面上で検出した。

26 は胴部卵形の細口無頸壺で、高さ 32.0cm 口径 8.6cm で、胴部中央で最大径となり 20.5cm ある。口縁端部は肥厚していない。口縁部下には櫛描直線紋と波状紋が交互に 5 単位施されているが、最下段は波状紋が列点紋に替わっている。外面がやや上げ底気味の底部は直接接合しないものの同一個体とみてよい。内面には被熱によると思われる傷みが見られ、外面は指押さえの後ヘラミガキで仕上げられている。また、同一個体片は **SH142** を切る **SP58** や **SP146** からも少数出土し、**SH142** 出土片と一部接合している。**27** は卵形の胴部に短く直立する頸部が付き、口縁は短く水平に開いている。高さ 25.7cm 口径 11.3cm、最大径は胴部中央で 18.0cm である。頸部上端に 2 孔 1 対で対向して





第10図 SH142

小孔をあけている。胴部上半には櫛描直線紋と波状紋を交互に５単位施しているが、下段の２単位は波状紋が列点紋に替わっている。直線紋と波状紋は上から順に施紋されているが、２単位の列点紋は最下段の直線紋施紋後に行われている。外底面はナデ仕上げである。**29** は弥生前期の壺の口頸部の小片で、３条の沈線紋のドに２本１単位で山形紋を施している。**28** はやや上げ底気味の壺の底部で、外底面には粘土接合痕が明瞭に残っている。**30・31** は甕の口縁部の小片である。短く「く」の字に折り曲げた口縁部は、指頭による凹凸が残り、状態の良い **30** では内面に部分的にヘラミガキが見られる。このほか、弥生中期中葉でも後出する要素を持つ上器片が数点出上している。これは先述のように**SP146** の検出が遅れた事による可能性がある。

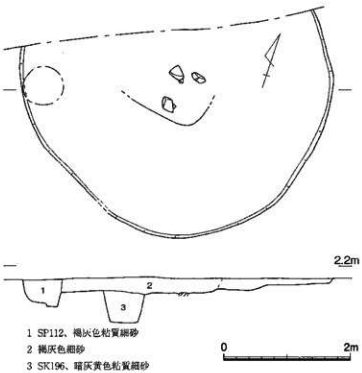
石器は打製石庖丁や石錐など４点が出土している。**S4**は小型の打製石庖丁で、左側縁は薄く背つぶしを行っておらず、使用痕は全体に顕著には認められない。**S5**は剥片を利用した完形の石錐である。長さは 54.9mm あり、幅 28.8mm の基部は端部に摩滅使用痕がある。軸部は長さ 30.3mm 幅 7.2mm である。軸部先端はわずかに摩滅している程度で丸みはほとんど帯びていない。ほかにサヌカイト剥片が２点出土している。

この住居の時期は中期中葉に下る可能性もあるが、床面出土の壺 **27** を尊重し、弥生中期前葉と考えておきたい。

SH144(第 11・12 図)

調査区中央で検出した直径約 4.9mの円形住居で、北側約 1/3 を **SD13** に切られている。平面は一部で包含層中で確認できた箇所もあったが、結果的に全体を捉えることができたのは基盤面上であった。検出面からの深さは 10〜20cm であるが、一部ではさらに 10cm 程度深くなる箇所もあった。埋土は褐灰色細砂の単層である。明瞭な壁体溝や柱穴は検出できていない。これは検出部分の約 2/3 が **SD145** と重なっていることと関係しているとも考えられる。住居中央で礫が集中する箇所が部分的にしかプランの検出ができなかったこともこの点と同様であろう。

出土物は土器と石器があるが、いずれも覆土中からで床面から出土したものはない。土器は弥生中期の小片が大半で、前期土器片や完形に近い後期上器２点も入っている。**32**は広口壺の口縁部小片で、端部は下方にやや拡張している。端面には２条の横線の上から斜め方向にへら状工具を押し当てている。**38** はやや大型の壺の底部で、外面下端には横方向のナデが見える。**36・37** は甕の底部で、**36** はやや厚手、**37** は薄手で内外面とも丁寧に平滑に仕上げられている。また、**36** は内面が黒化している。**33**



第11図 SH144(1)

は大型鉢の口縁部の小片である。わずかに内傾する口縁部外面には粘土を貼り付けて肥厚させ、沈線紋を4条施している。**34・35**は水漉し粘土を使った小型の鉢である。**34**は高さ8.1cm口径18.0cmで、**35**は口縁部を欠くが肩部で最大径となり14.4cmである。石器は打製石鏃や加工痕のある剥片などが16点出土している。打製石鏃**S6**は、剥片を利用した薄手の凸基式石鏃で、左基部とわずかに先端を欠損している。長さ30.2mm幅12.9mm厚さ2.8mmである。このほか加工痕のある剥片2点、石匙状の刃器の基部と思われる破片が1点、サヌカイト剥片11点と敲打痕のある安山岩[2]剥片1点が出土している。

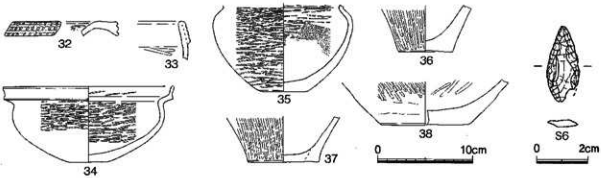
出土物からこの住居の時期は弥生後期後半と考えられる。

SH151(第13ー15図)

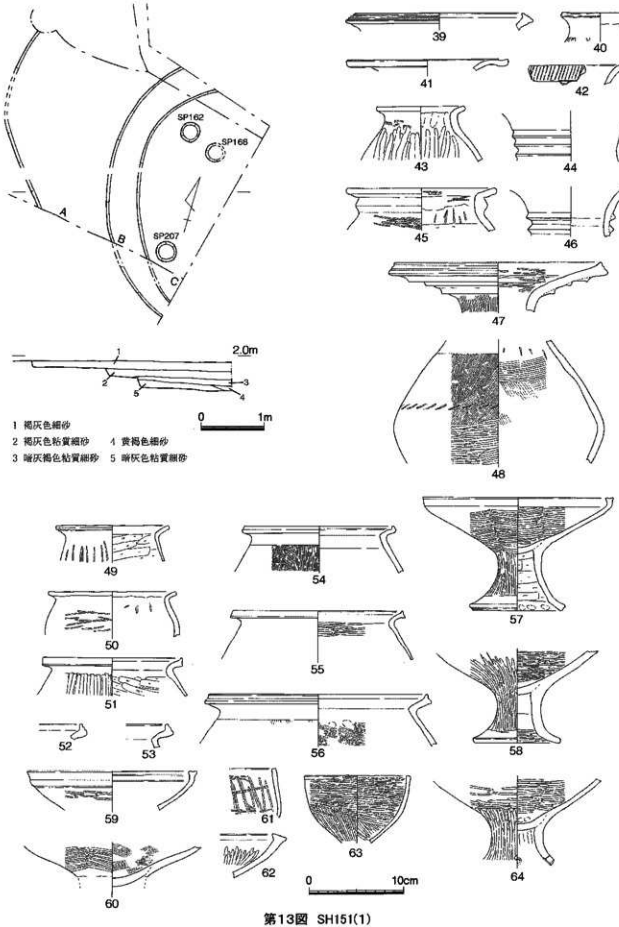
調査区東端で検出した円形ないし隅丸方形の住居で、2度の建て替えが行われている。北を**SH53**に南を**SH58**に切られ、東と北の一部は調査区外となる。付近は包含層の段階から土器や石器が多数出土しており、遺構の存在が想起されていたが、地層のグライ化や鉄分の筋状の集積のため平面の検出が最終的に基盤面上まで遅れた。新しい方から順に**A・B・C**としたが、いずれも壁体溝や柱穴の検出には至っていない。ただし、**SH151B**と**SH151C**は30cm～50cmしか離れていないので、柱穴を共有していた可能性もある。なお、**SH151C**の床面で**SP162・SP163・SP207**を検出しているが、いずれも直径30cmと小さくこの住居の柱穴にはならないだろう。また**SH151A**と**SH151B・SH151C**では、**A**が隅丸方形、**B・C**が円形で平面形が異なる上、接近している**B・C**とはやや離れているので、**SH151A**は別の遺構である可能性も考えられる。

SH151Aは南北4m東西4.2mで、楕円形ないし長方形に近い隅丸方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは10ー16cmで、東側で沈み込みがみられる。堆土は褐灰色細砂である。遺物は土器・石器があって、床面からの出土はないものの、量的には**B・C**と比べ多く出土している。

広口壺は口縁端部を上や下に拡張させたものと拡張させないものとがある。口径17.6cmの**39**は口縁を上下にわずかに拡張し、内傾する端部には3条の回線紋が施されている。広口壺**41**は口径が17.0cmあって、口縁端部は拡張しない。**42**は垂下する口縁を持つ広口壺である。口縁端部にはへら状工具による斜め方向の圧痕が密に施されている。**52**は広口壺の口縁部の小片で、端部には回線紋の上から貼られた棒状浮紋が1条確認できるが、ほとんどはがれている。**40・43**は手づくね土器の壺である。口径は**40**が8.0cm、**43**が11.4cmである。**45**は短い頸部いっぱいに太い断面三角形の貼付突帯が施されている。内面頸部下にはヘラケズリが見られ、作りはやや粗い。口径は15.8cmである。**44・46**は広口壺の頸部である。**46**には2条**44**には3条、断面三角形の突帯が貼り付けてある。**46**は内外面とも

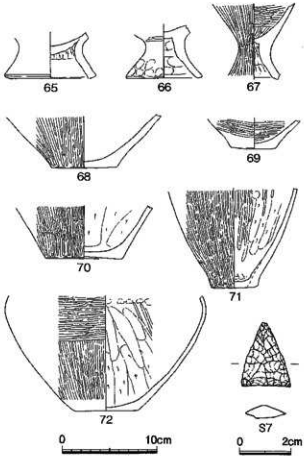


第12図 SH144(2)


SP162
SP168
SP207
A
B
C
2.0m
1
2
3
4
5
0
1m
1 褐灰色細砂
2 褐灰色粘質細砂
3 暗灰褐色粘質細砂
4 黄褐色細砂
5 暗灰色粘質細砂
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
0
10cm

第13図 SH151(1)

に丁寧なナデが施されている。47は口縁が大きくラッパ状にひらき、頸部は細い。口径は21.8cmで頸部は7.6cmになる。口縁端部には2条の凹線紋、外面には3条の貼付突帯を施している。石英・長石とともに赤色粒がはいる特徴的な胎土である。48は広口壺の胴部片で、肩部にヘら状工具で刺突紋を施している。残存部分は焼成不良のためもろくなっている。68・69は壺の底部で、68は外面のヘラミガキは下端にまでおよび、内面も丁寧になでられている。72は壺胴部下半の破片で、外面のヘラミガキは下端にまで及んでいるが、端部は大部分がナデ消されている。61は台付無頸壺の小片で、内外面とも丁寧にヘラミガキがされている。

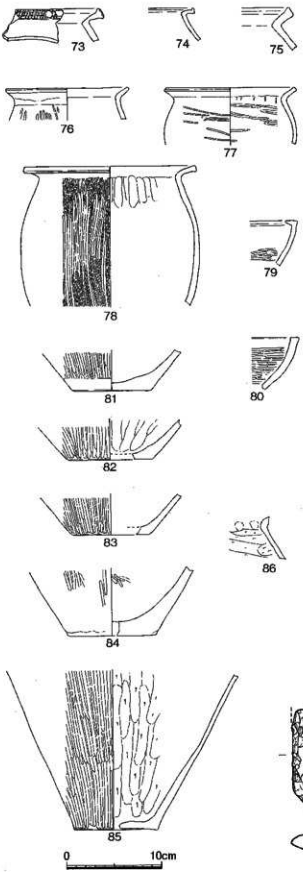


第14図 SH151(2)

49・50は手づくね土器の甕で、口径は49が11.8cm、50が13.4cmである。51・54・55は口縁端部をわずかに上方に拡張させた甕である。内面にヘラケズリを残したままの51は作りが雑で、頸部は分厚いが下方に極端に薄くなっている。口径は54が15.8cm、51が14.8cm、55が18.0cmである。52・53は口縁を上方に拡張させ、端部に回線紋を施した甕で、回転成形により仕上げられている。56の甕は口径23.0cmあり、口縁端部をつまんで上方に拡張させている。70は大型の甕の底部で、外面のヘラミガキは下端にまで及んでいるが、内面はヘラケズリが施され薄く仕上げられている。71は小型の甕の底部である。内面の調整は雑で、しぼりや指頭による凹凸が顕著に残っている。

59・62は高杯の口縁部の破片で、62は端部が内外に拡張している。59は口径18.0cmで、外面の口縁部下に幅7mmの削出突帯状の低い張り出しがある。60は大型の高杯の杯部片で、内面にはハケメが施されている。63・67は深椀形の高杯である。67は杯部口縁と脚端部を欠くが、内外面とも丁寧にヘラミガキが施されている。63も内外面に粗くヘラミガキが行われ、先行するヘラケズリが残る箇所がある。口径は11.3cmある。57は高さ12.0cm口径20.0cmの高杯で、口縁端部は短く直立し、外面に稜は持たない。口縁端部は焼けて黒化している。透孔は施されていない。58・64は短脚の高杯で、口縁部をともに欠く。脚部内面のヘラケズリが明瞭な58は脚部の器壁が厚い。透孔は58にはなく、64は小孔が四方にある。65・66は短脚高杯の脚部で、66には指押さえや強いナデの痕跡が良く残っている。杯部はほとんど残存していないが、内面にはヘラミガキがわずかに観察される。透孔はどちらにも施されていない。

石器は打製石鏃S7が出土した。長さ25.0mm幅19.0mm厚さ5.2mmで、重さは1.65gある。わずかに内湾する平基式で、側辺は直線的というよりも中央部がわずかに突出し屈曲している。石鏃中央は



厚みがあるが周縁に向け薄く剥離している。ほかに、2次加工のある剥片1点、サヌカイト石核・剥片等47点、石材未同定剥片2点が出土している。石核・剥片の大きさは9.0ー94.7mmまであり、表面に光沢や摩滅が観察される物が一定程度ある。

SH151B は直径約4.8mの円形に復原できる。深さは12ー14cmである。**151A**とは1.1mー2.0m離れている。埋土は2層に分かれ、上層が褐灰色粘質細砂で下層は暗灰褐色粘質細砂である。埋土中からは土器と石器が出土していて、土器は壺・甕・高杯がある。床面から出土した遺物はない。

73 は広口短頸壺の口縁部で、上方に拡張させて広がった端部には2条の凹線紋の上から密に斜めのへら状工具による圧痕紋を重ね、円形浮紋をおいている。**81** は壺の底部の破片で、外面下端は浅いナデが施されている。**74・76・77** は小型の甕の口縁である。**76** は指頭による凹凸が顕著で、**74** は口縁端部を短く上方に拡張させている。口径14.0cmの**77**は丁寧な作りで、内外面ともヘラミガキを施している。**76** の口径は13.0cmである。**75** は口縁端部を上方につまんで拡張させた甕である。**78** の甕は口縁部外面が未調整であったり、胴部内面に指頭による凹凸が顕著に残るなど、整形が雑で重量も重い。口径は18.2cmで、胴部は口縁から14.8cmまで残っているが、外面は口縁から4cm以下が煤により

第15図 SH151(3)

黒化している。85は大型の甕で、内面は底部から上に15cmまでが黒化し一部に炭化物が付着している。底部には径約1.3cmで外側からの穿孔がある。79・80は高杯の口縁部の破片で、79は内に80は外に端部を拡張させている。石器は、擦切石器が1点と、剥片が2点出土している。S9は長さ25.8mm幅42.5mmのサヌカイト小剥片を利用した擦切石器で、刃縁が摩滅している。

SH151Cは直径約4mの円形ないし楕円形に復原でき、深さは約20cmである。埋土は暗灰色粘質細砂であるが、東端ではこの上に黄褐色細砂の堆積が見られる。遺物は土器と石器がわずかに出土している。82—84は壺の底部で、82・83には外面下端に部分的なナデが認められる。86は甕の胴部上端の破片で、内面は頸部下までヘラケズリが行われている。S8は打製石剣の茎部で、残存部長57.9mm幅28.0mm厚さ10.5mmである。穂に摩滅が認められ打製石庖丁の背部を残した転用品と見られる。このほかに焼石片が1点出土している。

以上の出土物からSH151の時期は建て替えを含め、弥生中期後葉と考えられる。

2. 柱列

柱列は弥生中期と古墳後期の2基を検出している。いずれも鉤状で掘立柱建物の一部とも考えられるが、対となる2辺の柱穴が検出されなかったので、ここでは柱穴列としておく。

柱列1(第16図)

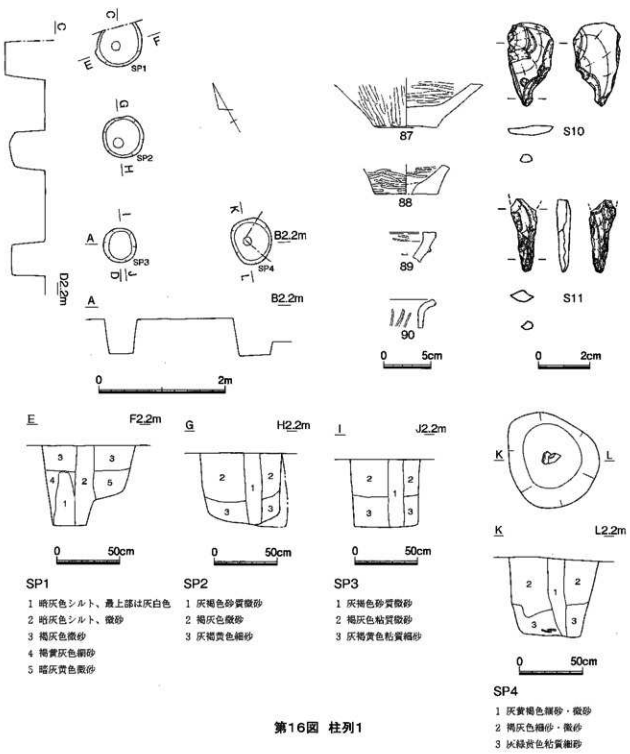
調査区北西部に位置し、南北方向2間東西方向1間分を検出した。柱穴はいずれも直径65cm以上で深さも50cmを越えるが、SP3は直径52cmとほかに比べやや小さい。全ての柱穴で柱痕を確認している。柱間は南北方向が1.5—1.6m、東西方向が約2mである。包含層中での検出ではあるが、埋土は褐色気味で粒子が細かく、鈍く光るように浮き立って見え、検出は比較的容易であった。

SP1は直径約85cm深さ65cmで、断面形は東側で中位に幅30cmの段がある。出土物は少なく、弥生中期上器と石錐・サヌカイト剥片2点である。上器は細片ばかりで図示できるものがない。石錐S10は長さ19.9mm幅32.3mm厚さ4.7mmで、長さ7.1mm幅4.2mmの短い軸部を持つ。軸部先端には顕著な摩滅は見られない。

SP2は直径65cm深さ55cmで、底面は丸底に近い。土器は細片が多く図示できる物は少ない。89は壺口縁部の小片で、口縁端部外側に刻みを施し、頸部には刻み目突帯を貼り付けている。口縁部はわずかに内側に拡張が見られる。88は壺の底部片で、内外面ともにミガキ仕上げであり、外面のミガキは下端に及んでいる。石器はサヌカイト剥片1点が出土している。

SP3は平面52×55cmの楕円形で、深さは55cmである。出土物は土器と石器があるが、土器は細片ばかりで図示できる物はない。石器は剥片を利用した基部の小さな石錐が出土している。S11は長さ29.1mm幅10.3mm厚さ5.2mmの石錐で、軸部は長さ16.5mm幅6.5mm厚さ3.8mmである。軸部先端には摩滅が見られる。

SP4は現代坑に一部を切られているが、直径約80cm深さ62cmである。底部中央付近には弥生前期の壺底部片87が2分して横並びに置かれており、柱の礎盤にしていたと思われる。出土物はわずかで、弥生前期上器の小片が出土している。87は上げ底気味の壺底部片で、内外面・外底面いずれもヘラミガキ仕上げである。90は如意状口縁甕の小片である。端面を持たせた口縁端部外側に刻みを施して、口縁端部内面直下には強いナデが入っている。外面の口縁部下には2条以上の沈線が引かれている。

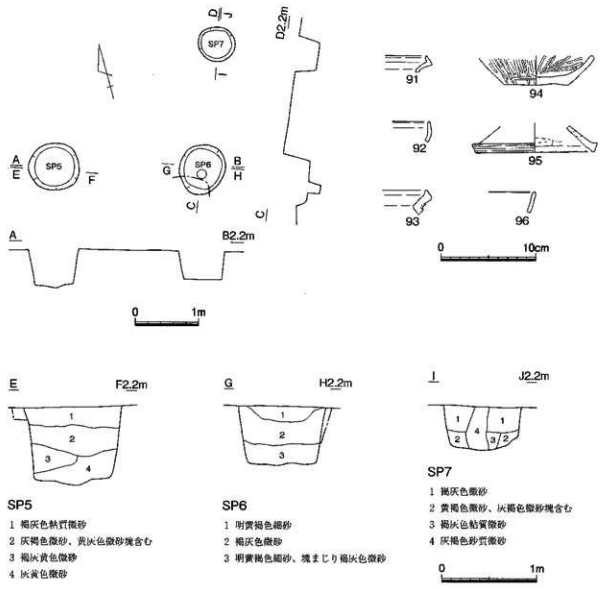


第16図 柱列1

この柱列の時期は、時期を明確に示す土器が出土していないが、包含層中で他の遺構に先駆けて検出されたことから、弥生中期後葉ないし弥生後期と考えられる。

柱列2(第17図)

調査区東部中央で、南北方向・東西方向とも1間分を検出した。SD13をはさんで**柱列1**の延長とも考えられたが、東西方向がややずれること、**柱列2**では須恵器小片が伴うが、**柱列1**には見られないことから別の遺構と思われる。柱穴は**SP5・SP6**が直径70−80cm、深さ45−60cmあるのに対し、**SP7**



第17図 柱列2

は直径 55cm 深さ 33cm とやや小さく浅い。柱間は南北 2.1m 東西 2.3m である。

SP5は直径 80cm 深さ 63cm で、底部中央がやや窪んでいる。遺物は弥生土器とともに須恵器杯片が1点出土している。**91** は端部を上方に折り曲げて拡張した口縁を持つ甕小片である。**92** は須恵器杯の口縁小片、**94** は上げ底の壺底部、**95** は端部に凹線紋を持つ高杯脚部である。

SP6は南側が一部現代に破壊されているが、71×80cm のやや楕円形を呈し、深さは 45cm である。底面には直径 18cm 深さ 20cm の小穴があり、柱が沈みこんだ筒所と思われる。土器は細片ばかりだが、弥生土器とともに須恵器甕片もある。ほかにサヌカイト剥片が1点出土している。

SP7は **SH53** に先行する。遺物は弥生土器・須恵器小片がわずかに出ている。**93** は広口短頸壺の口縁部小片で、端部は内側に拡張している。**96** は須恵器杯の小片である。ほかに細部加工痕のある剥片とサヌカイト剥片1点が出土している。

この柱穴列の時期は、出土した須恵器から古墳時代後期末と考えられる。

3. 土坑

土坑は弥生前期から古墳後期までの 30 基を検出しているが、大半は弥生中期のものである。弥生前期・古墳後期がそれぞれ1基あるが、弥生後期のものはない。弥生中期の大型土坑は、埋土に炭や白灰・黒灰を多量に含むいわゆる灰穴で、調査区北西部に集中している。

SK48(第 18 図)

調査区南西部で検出した平面楕円形の土坑で、底面は東側で2つの円が幅 10cm のわずかな高まりをはさんで並んだような形だが、西側では高まりが明瞭でなく一体化している。断面は南で緩く北で急に立ち上がる。埋土には炭層や焼土層がはいるが、床面は焼けていない。

土器は弥生中期上器小片の中に前期土器片が数点入っている。**97** は壺の底部片で外面のヘラミガキは下端にまで届き、内面は粘土が比較的柔らかい内に荒くハケメが施されている。**99** は甕の胴部中央から下半部の破片で、外面は底部から 15cm の位置まで薄く煤が付着し、内面は底部から 14cm 上までヘラケズリが及んでいる。**98** は高杯脚部上端の破片で、外面には断面三角形の突帯が2条施されている。図示していないが、口縁端部をわずかに内側に拡張させる壺・甕の口縁部細片も出土している。

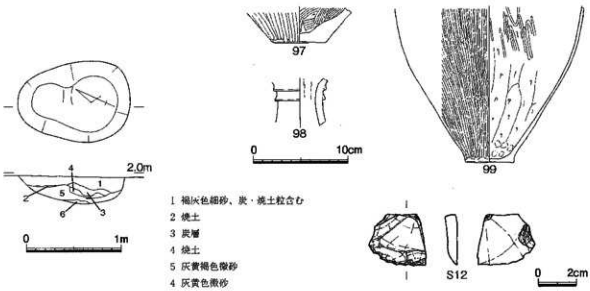
石器は7点出土している。刃部に細部加工痕のある剥片 **S12** は、長さ 27.2mm 幅 31.3mm 厚さ 6.5mm で、表面の稜に摩滅が認められる。ほかにサヌカイト剥片が5点、安山岩剥片が1点出土している。

この土坑の時期は、弥生時代中期中葉(新)と考えられる。

SK51(第 19 図)

調査区南西端で検出した、長軸 85cm 短軸 69cm 深さ 28cm の楕円形土坑で、底部では直径約 40cm の円形となる。断面は逆台形であるが、西側では底部から 10cm ほどは緩く立ち上がる。北側では複数の柱穴と切り合い、しかもそれぞれは埋土の差がほとんどなく先後関係の把握を困難にしていた。

土器は小片ばかりが約 30 点出土しているが、図示できるものはわずかである。**101** は大型甕の口縁部小片で、端部はほとんど肥厚せず、内外面ともに丁寧になでられている。**100** は口径 16.0cm の深椀形高杯で、口縁部内面には浅く指頭による凹凸が残っている。**S13** は剥片を利用した打製石鏃で、長



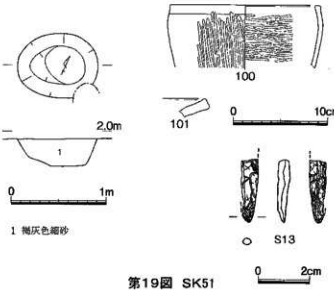
第18図 SK48

さ 25.0mm 幅 6.9mm 厚さ 4.0mm あり、基部は欠損している。軸部先端には顕著な使用痕が見られない。このほかにサヌカイト剥片が3点出土している。

この土坑の時期は、弥生時代中期中葉(新)と考えられる。

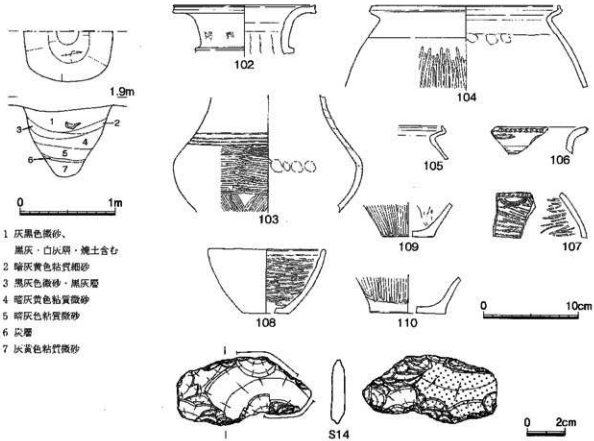
SK63(第20図)

調査区北西角に位置する平面方形で、尖底の土坑である。西側は調査区外のため全長は不明だが、幅が94cm 深さは 76cm ある。埋土には炭層や、黒灰や白灰の層が粘質の土層の間に入っている。



第19図 SK51

土器は弥生前期の土器とともに中期の土器が約 40 点出土している。広口壺 102 は口径 15.0cm で、短く水平に伸びる口縁部はわずかに上下に拡張している。頸部には断面三角形の突帯が付いている。103・107 は前期の壺胴部片で、103 には肩部に4条の沈線紋がある。107 には2条の沈線紋間に豆粒



第20図 SK63

状の刺突を施し、沈線下に３重弧紋をへら描きしている。甕 104・105 は口縁端部を上方に折り返して拡張しており、このため折り返しの部分は外面に丸みが付いている。ともに内面はハケ状の工具でなでられている。104 の口径は 20.0cm である。前期の甕 106 には口縁端部の下端よりに刻み目をほどこしている。甕底部 109・110 はともに内面のヘラケズリがナデを受けず残されている箇所がある。椀 108 は口径 12.4cm 高さ 6.8cm あり、内外面にはともに器面に細かい凹凸があるので、内面ではヘラミガキが及ばない箇所が見られる。

S14 は打製石庖丁を転用した擦切石器で、刃縁の摩滅は刃部左側でより顕著に、それと背部中央やや左寄りにあり、対応する表面には摩滅はみられない。なお、表面裏面とも石庖丁の使用痕摩滅が顕著に残っている。長さは 36.4mm 幅 70.3mm 厚さ 7.9mm である。ほかにサヌカイト微細剥片が１点出土している。この土坑の時期は、弥生中期中葉(新)である。

SK64(第 21 図)

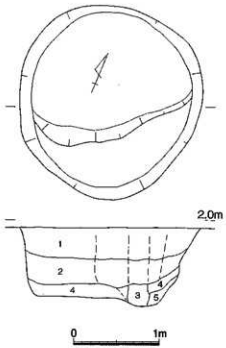
調査区北西部の大型土坑が集中する一郭にある。短軸 191cm 長軸 206cm のほぼ円形の土坑で、底面からは直立に近く急に立ち上がるが、南側では底部付近に幅１mで三日月状の緩傾斜面がある。埋土中の２層・４層は白灰と炭の薄層からなっている。北側で SK72・SK93 を南側で SP66・SK158・SK188 などを切るが、断面写真を見ると３層は柱痕状で検出面近くまで立ち上がっている様子が写っている。さらに左右の十層の乱れも見えるので、平面で検出もれの柱穴があったようだ。

土器は弥生中期前葉の比較的大型片とともに、中期中葉の小片が一定程度出土している。広口壺 111 は下方に拡張した口縁端部に、３条の直線紋の上からへら状工具による刺突を密に施している。115 は前期の壺口縁部の破片で、内面上部には直径２～３mm の円形刺突が２段に施されている。卵形の胴部を持つ短頸壺 122 は、口縁部下に櫛描波状紋と直線紋を交互に５単位繰り返し、最下位の直線紋の下位には波状紋の棒わりに列点紋を１条めぐらせている。口縁部は櫛描紋施紋後、ヨコナデによりわずかに外に拡張させている。106 は前期の小型の甕口縁で、口縁端部全面に刻みを施した口縁下に、沈線３条を施している。器壁は４mm と薄く、熱を受け赤変している。112 は上端部に粘土を貼り付けたＬ字状の口縁を持つ甕で、口径は 20.0cm ある。口縁部下には櫛描直線紋を施していて、櫛描直線紋の間に１条波状紋を配している。なお、直接は接合しないが同一個体と思われる口縁部片が SK69・SP183 からそれぞれ１点ずつ出土している。甕 113 は口径 16cm で、「く」の字の口縁の内面をヘラミガキしている。最大径は胴部中位よりやや上にあり、その部分に刺突紋を施している。口縁部から 15cm 以下で強く被熱し、破片は細片化している。甕 114 は口径 17cm で、「く」の字に曲げた口縁をほんのわずか外反させ、端部を丸く収めている。口縁部内面はナデ調整である。甕 117 は口縁端部をわずかに上方に拡張している。小片であるが、全体に薄く丁寧な作りである。121 は甕の底部片で、内外面とも丁寧に仕上げられている。118 は高杯口縁部の破片で、端部をわずかに外に拡張させて口縁端部外面に刻み目を施している。119 は低脚の高杯脚部片で、透孔の数は不明だが、貫通直前で止まり内面に盛り上がりがある。高杯脚部 120 には形状不明だが透孔の一部が残っている。

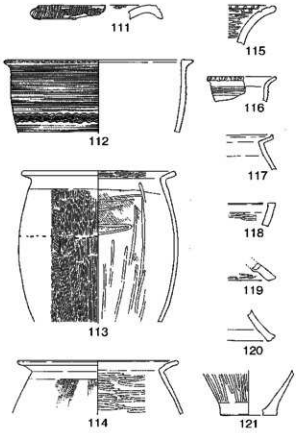
石器は 11 点出土していて、刃部に摩滅使用痕がある剥片１点、サヌカイト剥片が９点、石材未同定剥片が１点ある。この土坑の時期は、弥生中期中葉(新)である。

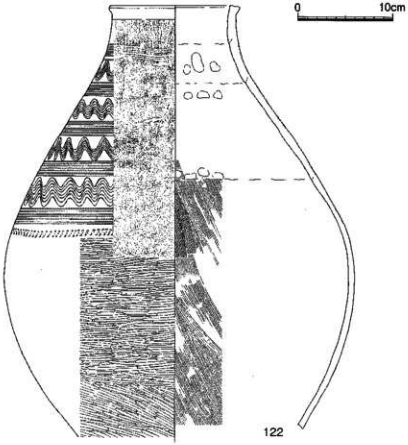
SK69(第 22 図)

SK64 の東に隣接した円形の大型土坑で、直径約 2.1m底面での直径約 1.3m、深さは 81cm ある。埋土は SK64 と同様に白灰や黒灰の薄層の堆積を基本としている。SP3・SP14・SP59 に切られ、SK70・

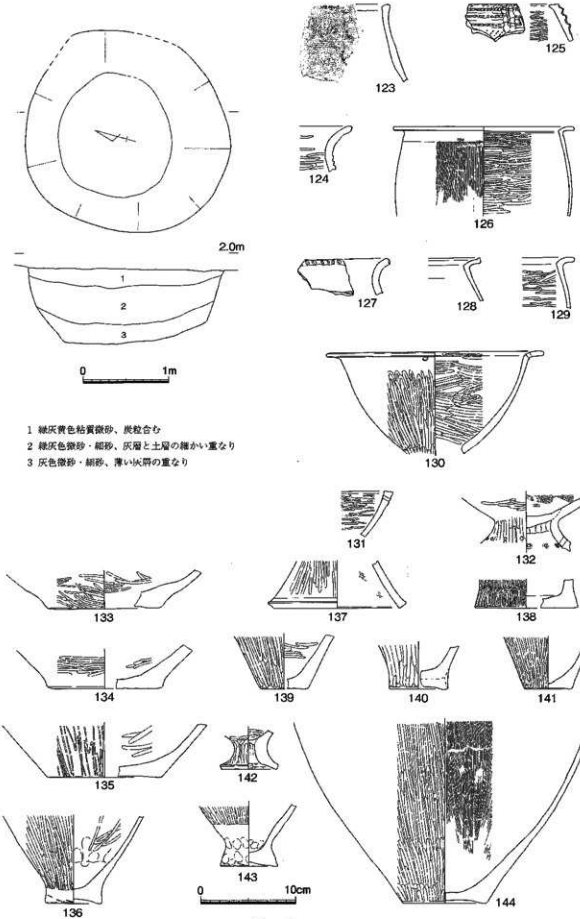


1 暗緑灰色粘質微砂、炭・焼土粒含む
2 暗緑灰色粘質細砂、灰と炭の薄層からなる
3 暗緑灰色粘質シルト
4 灰白色粘質細砂、灰と炭の薄層からなる
5 暗緑灰色粘質微砂





第21図 SK64


2.0m
1
2
3
0
1m
1 緑灰黄色粘質微砂、炭粒含む
2 緑灰色微砂・細砂、灰層と土層の薄かい重なり
3 灰色微砂・細砂、薄い灰層の重なり
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
0
10cm

第22図 SK69

SK138・SK157・SK188 などを切る。

土器は 30 点あまり出土していて、弥生中期中葉の土器とともに、前期や中期前葉の土器も入っている。123 は直立気味の頸部がわずかに付く短頸壺で、口縁端部は拡張せず丸めに仕上げている。壺 124 は外反する口縁端部を丸く収め、直立気味の頸部には3条以上の削出突帯を施す。125 は無頸壺で、口縁部は内側に拡張させている。口縁部外側と3条の貼付突帯に刻み目を施し、棒状浮紋を3条以上貼っている。突帯の下位には列点紋を施している。133～135 は壺の底部片で、134 は底部外縁を残しわずかに上げ底気味である。壺 139 の底部は外縁を残し上げ底気味に仕上げている。器表面の調整は丁寧である。144 は壺胴部下半で、外面のヘラミガキは下端にまで及んでいる。底部外面はやや上げ底気味で外周がわずかに高く、円盤の接合痕跡が観察できる。

126・128・129 は「く」の字口縁の甕で、口径 19.2cm の 126 は、口縁部内面をヘラミガキし、端部を丸く収めている。胴部はあまり張らない。128 の口縁部内面はヨコナデで、端部は肥厚しない。129 は口縁端部を上方にわずかに拡張させている。127 は口縁部を強く外反させた甕で、口縁端部の外よりに刻み目を施している。136 はやや高い底部を持つ甕で、内底面の立ち上がり部分は凹凸があって厚みにばらつきがあるが、表面は丁寧に仕上げられている。甕 140 の底部には焼成後両面から穿孔されている。内底面には円盤状に作った底部の継ぎ目が明瞭に残っている。甕 141 は内外面とも丁寧に仕上げてある。甕 143 は低い台状の底部を持ち、器表面は丁寧に仕上げられている。130 は水平近く外反した口縁部を持つ高杯で、杯部はやや深い。透孔は2孔1対で口縁屈曲部に対向して施されている。孔の直径は破損部にあるため定かではない。器表の仕上げはきわめて丁寧である。

高杯 131 は口縁端部がほとんど拡張せず、内外面ともに丁寧に仕上げられている。132 は低脚の高杯で、脚部には2cm 間隔で円形透孔をあけている。高杯脚部 137 は脚端をわずかに上方に広げ、内面は丁寧になでている。手づくねの高杯 142 は、脚部外面を比較的に粘土が柔らかい内にヘラミガキを行っている。138 は筒型容器の底部である。

石器は周縁に摩滅のある擦切石器と楔形石器の2点が出土している。

この土坑の時期は小片からではあるが、弥生中期中葉(新)と考えられる。

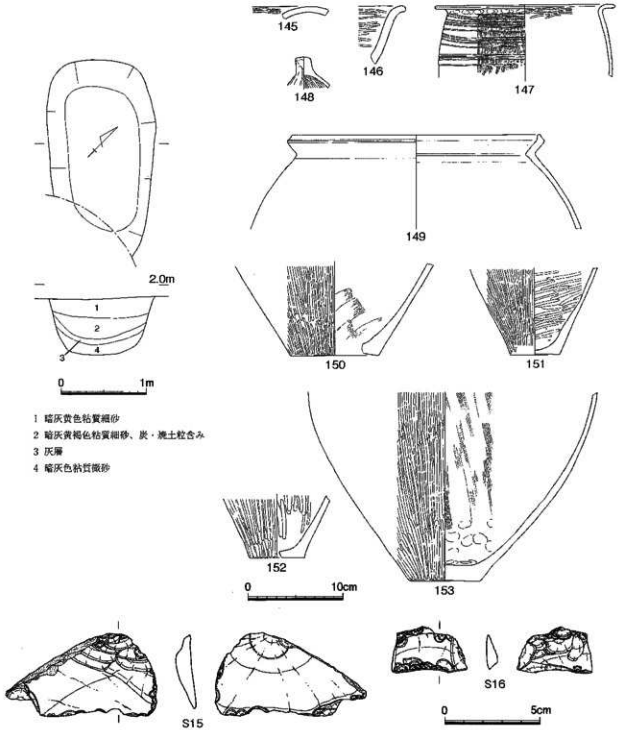
SK70(第 23 図)

SK64・SK69 の北に位置する長方形の土坑で、南東側の短辺は SK69 に切られているが、残存部で長さ 210cm 幅 115cm 深さ 63cm である。埋土は、3層が炭層として顕著であるが、ほかは灰を含むものの SK64 や SK69 のように薄層となって重なる状況ではない。

土器は弥生前期から中期中葉までの壺・甕・鉢・蓋が出土している。145 は広口壺の口縁で、端部は拡張していない。内面はヘラミガキ、外面はハケメの上から端部付近のみヘラミガキを施している。壺 150 は外面のヘラミガキが下端まで及んでおり、内面には粘土が柔らかい内になでられた痕跡が残っている。153 は壺の下半部で、外面のヘラミガキは下端に及んでいる。底部は上げ底ぎみに外縁をわずかに残し、内面には円盤接合部で亀裂が見られる。器表の仕上げは、一部荒れていて不明の箇所もあるもののおおむね丁寧に施されているが、底部内面には指頭による強いナデ痕跡が残っている。甕 147 は器壁が3～4mm と薄く堅緻である。水平に折り曲げた口縁下にはハケメののち櫛描紋を浅く施し、その下に列点紋を押している。内面の仕上げも平滑で、口縁部までヘラミガキしている。大型甕 149 は口縁端部をつまんで上方に拡張させている。直接接合しないが、同一個体と思われる胴部中央から下方にかけての破片がある。胴部最大径付近の内面には指頭圧痕がのこり、すぐ下はヘラケズ

リである。指頭圧痕とヘラケズリの境あたりから下は、黒色化している。**151・152** は甕底部片で、ともに内面に凹凸は残るものの器表面は丁寧に仕上げられており、内面の黒化は底部まで及んでいる。**152** には底部中央に直径約1cmの孔が外面からあけられている。**148** は手づくねの小形の蓋である。鉢 **146** は如意状に曲げた口縁下に1条沈線紋を施している。

石器は使用痕のある石器が2点出土している。長さ44.5mm 幅79.7mm 厚さ14.0mm の**S15** は裏面の稜及び表面の刃部左側に摩滅が認められる。**S16** は長さ24.6mm 幅39.5mm 厚さ5.6mm で、表面下端左側



第23図 SK70

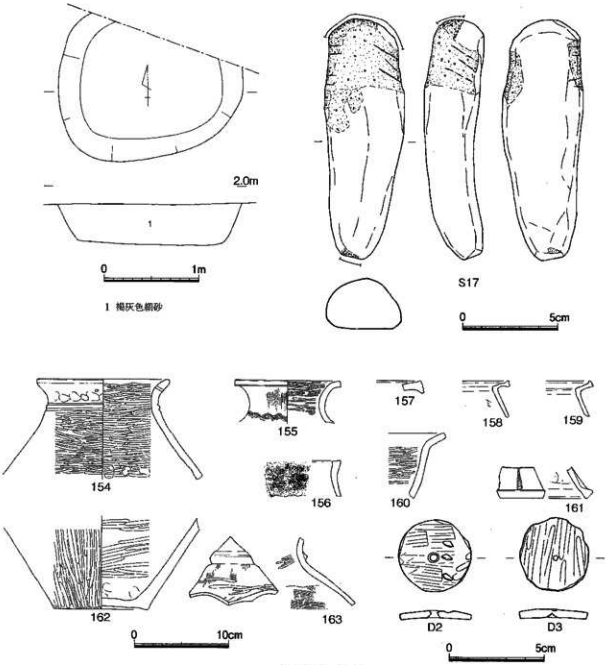
に使用痕が認められる。

この土坑の時期は、図示できた個体は古手の様相の土器が多いが、**149** や図示できなかった小片などから弥生中期中葉(新)である。

SK71(第 24 図)

調査区北西端で検出した楕円形土坑で、北側が調査区外になるが、現状で長さ 194cm 幅 153cm 深さ 43cm である。断面形は逆台形であるが東側がやや深い。

土器は弥生前期土器も出土しているが、三角形透かしの高杯や胴部中位付近までヘラケズリする甕など新しい様相を示す土器もある。**154** は弥生前期壺の上半部片で、短く外反する口縁部の端部は丸く収めている。屈曲部やや上に小孔２つが対向してあけられている。頸部上端にはしっかりとした沈



第24図 SK71

線が２条施されている。広口壺の口縁 157 は端部を下方に拡張させ、３条の凹線紋を施している。163 は頸部に断面三角形の突帯を持つ壺片である。155 は短頸壺の口頸部の破片で、口縁部はゆるく外反しつつわずかに広がる。肩部にはタテハケののち櫛描波状紋を施している。無頸壺 156 は口縁端部をつまんでわずかに内側に拡張させている。外面には口縁端部直下に櫛描波状紋と直線紋を施している。158・159 の甕は口縁部を折り曲げ上方に拡張している。161 は高杯脚部の小片で、三角形で貫通しない透孔を約２cm 間隔であけている。上端の破断部に沈線が観察できる。162 は大型の甕の胴部下半で、外面下端はヘラミガキを部分的にナデ消している箇所がある。底部には内外面とも指頭圧痕が強く残り、外面はその上からナデを施している。160 は前期の鉢の口縁部片である。

土製品は紡錘車が２点出土している。D2は甕の胴部片を利用した直径3.8cm厚さ4.0mmの紡錘車で、表面には豆粒状の刺突がある。ほぼ中央に直径３mm の小孔が両面穿孔されている。D3も甕の胴部片を利用した紡錘車で、直径は3.9cm 厚さが４mm あり、裏面には甕内面のヘラケズリが観察できる。小孔は両面穿孔であるが貫通しておらず、表面からの穿孔が浅い。未貫通ではあるが穿孔位置に表面と裏面とで位置にずれがあるので、未成品の可能性もあるが、失敗品であろう。図の左半分は外縁部が未調整である。

石器は石鏃と安山岩剥片製擦切石器の２点が出土している。S17 は細長い棒状の自然石を利用した石錘である。上部に敲打により幅２cm の紐かけを作っている。上下両端には叩き石使用痕がみられ、右側部上半は焼けて黒化している。この土坑の時期は弥生中期後葉である。

SK72(第 25 図)

調査区西側の大型土坑群の中にある円形の大型土坑で、SK70・SK64・SK93 に東・南・西を切られる。復原直径約２m深さ 75cm で、断面は弧状を呈する。埋土は細砂を基本とするが、中位に厚さ３ー４cm の炭層（３層）がはいる。

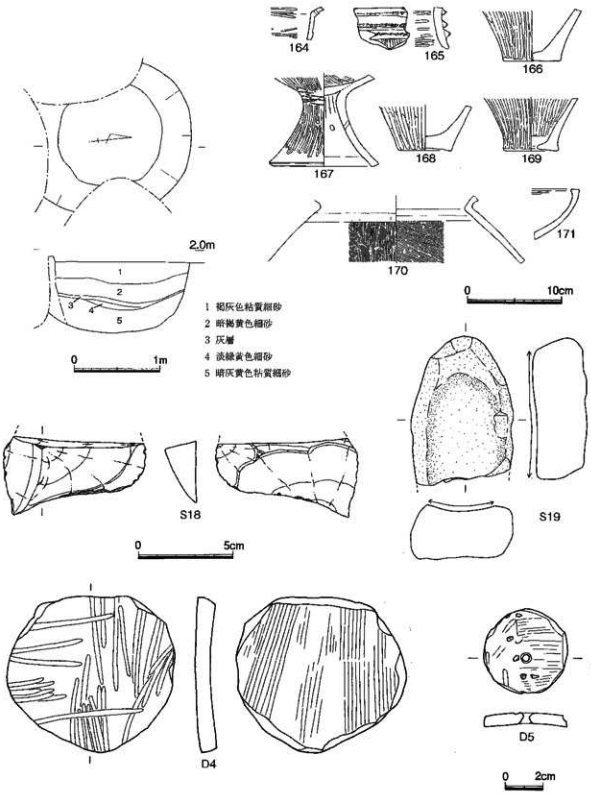
土器は弥生中期の壺・甕・高杯などとともに、前期の壺・甕が少数出土している。165 は壺頸部の小片で、３条以上の刻み目突帯を持つ。170 は広口短頸壺の肩部の破片である。166・168・169 は甕の底部片で、168 の上げ底気味の底部外面には指頭圧痕が明瞭に残り、169 の底部中央には直径７mm ほどの孔が両面からあけられている。164・167・171 は高杯で、164 は口縁屈曲部に径約３mm の透孔が２つある。167 は脚部中位に２孔１対で対向する透孔を持つ。土製品は土製円盤と紡錘車が１点ずつ出土している。D4は大形甕の胴部片を利用した大形の土製円盤で、直径 8.7cm厚さ 9.0mm である。外縁部は未調整で、直線的な割りや角が残っている。D5は壺の胴部片を使った直径 4.4cm 厚さ 6.5mm の紡錘車で、ほぼ中央に２列の刺突紋がある。直径４mm の小孔を両面穿孔しているが、中心からややずれた位置にある。

石器は砥石や使用痕のある剥片などが６点出土している。S19 は砂岩製の小型の砥石で、３面を使用しているが、表面の使用が顕著で中央で３mm くぼんでいる。S18 は刃部と稜に摩滅が見られる。ほかにサヌカイト剥片２点、安山岩剥片２点が出土している。この土坑の時期は弥生中期中葉(新)であろう。

SK76(第 26 図)

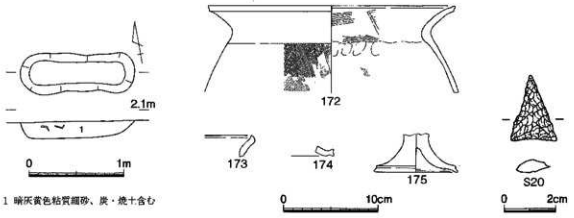
調査区中央やや南よりに位置する楕円形の土坑で、両長辺はやや内湾気味である。長さ 120cm 幅 38ー44cm 深さ 19cm で、埋土は単層であるが炭や焼土を多く含んでいる。

173 は須恵器壺の口縁部の小片で、端部を上につまみ出している。174・175 は須恵器高杯脚部で、



第25図 SK72

175は焼きが大変あまい。172は土師器甕の口縁部で、端部はつまんで細くしている。S20は厚手の剥片から作った平基式打製石鏃で、石鏃中央に厚みを持たせ周縁を薄く剥離している。ほかにサヌカイト剥片が1点出土している。



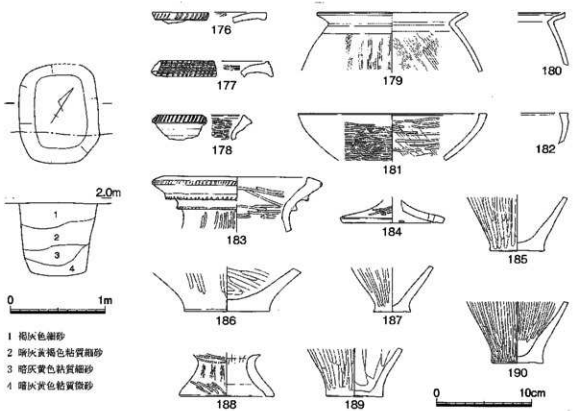
第26図 SK76

この土坑の時期は古墳時代後期末と思われる。

SK87(第87図)

調査区の北側やや東よりに位置する、方形の土坑で南短辺をSD13に切られている。長さ105cm幅84cm深さ77cmあり、底部からの立ち上がりは急で、横断面形はわずかに上に開く箱形である。

土器は弥生中期の壺・甕・高杯などとともに、弥生前期土器片がわずかに出土している。176は広口壺口縁部の小片で、丸く収めた端部には直線ないし、ゆるい弧状のへら状工具による圧痕を施して



第27図 SK87

いる。177 も広口壺口縁部の小片で、下方により大きく拡張された端部には、4条の沈線の上から斜め方向にへら状工具による刺突を行っている。内面の頸部からの立ち上がり部分にはハケメが残っている。178 は短頸広口壺の口縁部小片で、少し拡張させた端部にはへら状工具による斜め方向の刺突が施されている。183 は外に開いた口縁部の外側には刻み目を、頸部には刻み目突帯を施す壺で、口縁端部は内側に拡張させている。口縁部径は 18.0cm である。186 は壺の底部片で、胎土に赤褐色の鉱物粒を含んでいる。

179・180 は甕の口縁部片で、「く」の字に曲げた口縁端部を 179 は丸く収めている。178 は口縁端部を内側につまんでわずかに拡張させ、凹線を1条施している。185・187・189・190 は甕底部である。いずれも外面は下端までミガキが施されており、内面は190がヘラミガキでほかはナデ仕上げである。189 は熱による傷みが見られ、190 は堅緻に仕上がっている。181・182 は高杯口縁部、188 は高杯低脚で、188 には円盤充填がはずれた痕跡がある。184 は壺用の蓋で、直径 11.0cm ある。口縁部には 3.5ー5㎜の楕円形の小孔が2つ並んでおり、2孔1対であけられていると思われる。石器は剥片が1点出土しているだけである。

この土坑の時期は、口縁端部を拡張させた壺や甕、短脚高杯などから弥生中期中葉(新)である。

SK93(第 28 図)

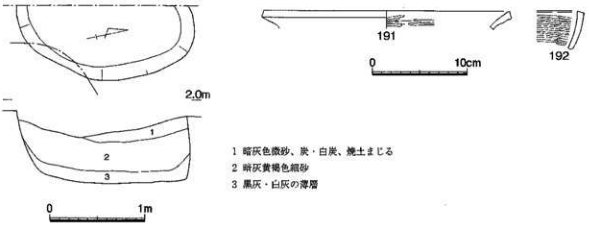
調査区北西端で検出した楕円形の土坑である。西側は調査区外のため残存部は、長さ 190cm 幅 80cm で、深さは 77cm ある。壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は炭・灰・焼土を含み、特に下層は黒灰と白灰の薄層が折り重なった堆積である。

遺物は土器の口縁部片が2点と胴部片が3点の5点出土しただけである。191 は口径 26.0cm の甕の口縁部である。外面には煤の付着が見られるが、屈曲部から 1 cm が特に多い。192 は口縁部外側に刻みを施した高杯で、深みのある杯部を持つと思われる。

この土坑の時期は、わずかな小片からではあるが、弥生中期中葉であろう。

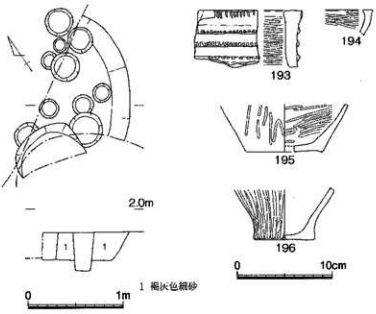
SK95(第 29 図)

調査区中央やや西よりに位置し、北を SD13 に西を SK96 に切られている。また内部も 10 基の柱穴に切られている。円形ないし楕円形の土坑で、深さは 30cm である。



第28図 SK93

出土物は弥生中期の壺・甕・高杯などの小片があるがわずかで、この土坑に後出する柱穴からの出土もない。**193** は口頸部がほぼ直立する壺で、口縁端部外側には長く浅い刻みを、頸部には垂れ下がり気味の刻み目突帯を3条施す。**195** は丁寧に仕上げられた壺底部片で、内外面・外底面ともヘラミガキ仕上げである。**194** は堅緻に仕上げられた高杯口縁部小片である。**196** は甕の底部片で、外面のヘラミガキは下端に及び、内面と外底部はなでられている。内面の立ち上がりから2cmくらい上は、熱のため黒化している。図示していないが、ほかに三角形の透孔のある高杯脚部小片が出土している。



第29図 SK95

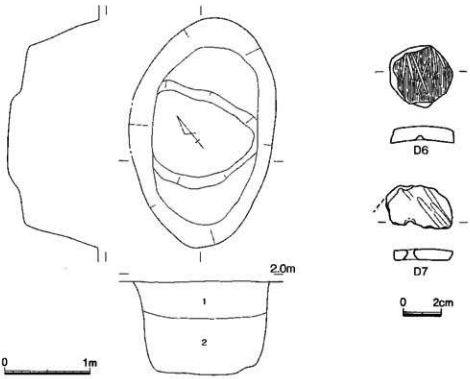
この土坑の時期は、弥生中期中葉(新)と思われる。

SK96(第30・31図)

調査区中央やや南西よりに検出した楕円形の大型土坑である。長さ243cm幅152cmで、深さは99cmである。壁面は長軸・短軸とも急に立ち上がり、特に短軸は断面箱形を呈する。底面は中央部で不定形の深さ20cmほどのくぼみがあり、このため両端部には狭いテラスができている。

出土物は土器と上製品がある。土器は弥生中期中葉を中心として、弥生前期土器・中期前葉の土器も少数出土している。**197**－**201** は口縁部外側に刻み目を施し、頸部に数条の突帯を貼り付ける壺である。**197** は緩く外にひらく頸部に低く細い刻み目突帯を6条と、その上から直交して棒状浮紋を2条貼り付けている。棒状浮紋の配置間隔は不明である。2.8cmに拡張した口縁端部にはへら状工具を押しつけた斜格子紋が施されている。施紋は内側を先に外側が後から行われ、押捺の深い箇所では木目圧痕が読みとれる。胴部には単位は不明だが櫛描波状紋が施紋されている。**198** は口縁部がわずかに外にひらき、端部は1.8cmに拡張している。頸部の刻み目突帯は2条以上ある。**199** は口頸部が大きくひらき、口縁端部幅は1.1cmであまり拡張が見られない。頸部には刻み目突帯を3条以上貼り付けるが、3条目は剥落している。**200** は口頸部がほぼ直立し、口縁端部幅は2.2cmある。頸部には4条以上の低い指頭圧痕紋突帯が貼り付けられている。**201** は口頸部がほぼ直立し、幅1.9cmの口縁端部は外側に拡張させている。頸部には低い指頭圧痕紋突帯を3条貼り付けている。**202** は広口短頸壺の口縁部小片で、上下に拡張させた端部には凹線紋を3条と、直交する棒状浮紋を3条施している。**211** は小型壺の胴部下半で、底部は上げ底である。表面の剥落が見られるが、外面は底面もヘラミガキで、内面はなでられている。**213** は壺の底部片で、外面のヘラミガキは下端に及び、内面はハケメの上から部分的にナデを施している。外底面はヘラミガキである。

204－**207** は「く」の字口縁の甕である。**204** は口縁端部をつまんで内側にわずかに拡張させている。口縁部内面はナデ仕上げである。胴部上半には炭化物が付着している。**205** は端部の拡張はなく、口



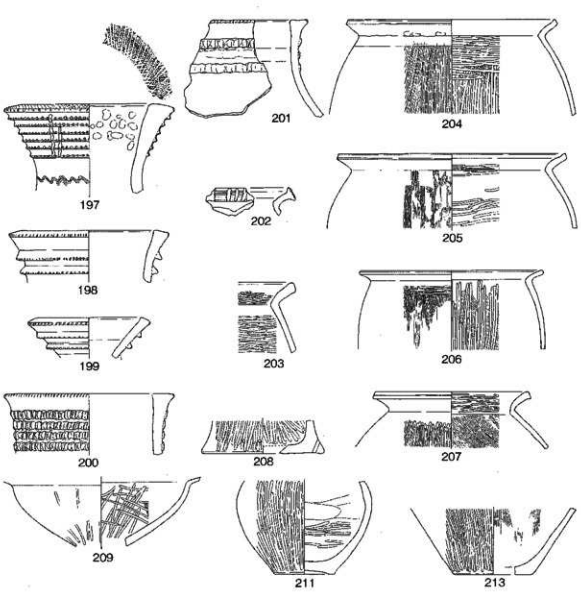
1 暗褐灰黄色粘質細砂、炭・焼土含む
2 暗灰緑色粘質細砂、炭・焼土含む

第30図 SK96(1)

縁部内面までヘラミガキ仕上げされている。**206** は内側の端部がつままれてはいるが、拡張は見られない。口縁部内面はなでられている。外面は被熱により表面が痛んでいる。**207** は口縁端部を外側に小さくつまんで拡張させ、1条の凹線紋を施している。口縁部内面はヘラミガキ仕上げである。外面は部分的に口縁端部まで煤により黒化している。**203** は大型甕の口縁部片で、外反気味に折り曲げた口縁部の端部は、上方につまんでわずかに拡張させている。内面のヘラミガキは口縁部中位までである。**212・214** は甕底部片である。**212** は中型ー大型甕で外面のヘラミガキは下端部分でナデ消されている。底面は上げ底である。**214** は外面のヘラミガキが下端部で部分的にナデ消されている。

209 は高杯杯部片で、外面は被熱により痛んでいるが、内面はなめらかに仕上げられている。**210** は高杯脚部の小片で、表面はなめらかに仕上げられている。残存部上端近くで、器壁に対し斜め上方からあけられた透孔と見られる小孔の一部が残っている。**208** は筒形土器の底部片で、底部外角に小孔を2つ上方からあけている。

土製品は2点あって、ともに壺の胴部片を利用した紡錘車である。**D6**は直径 3.3cm 厚さ 6㎜ の未成品で、裏面からは穿孔しているが、表面からは施されていない。外縁部も未調整である。**D7**は直径 3.2cm 厚さ 5㎜ の 1/2 ほどの破片であるが、一部に外縁部の未調整が観察される。

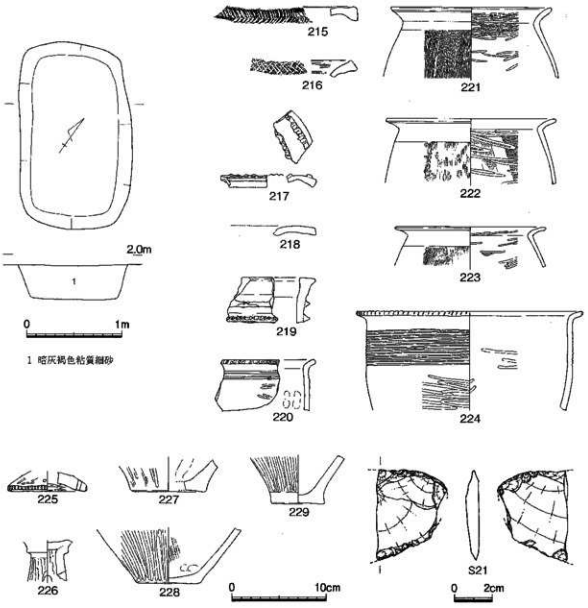


第31図 SK96(2)

この土坑の時期は、図示した以外にも胴部下半にヘラケズリを施す破片があり、弥生中期中葉(新)である。

SK97(第32図)

SK96の西隣に位置する長方形の大型土坑である。長さ198cm幅116cmで、横断面形は逆台形で深さ35cmである。埋土は暗灰褐色の粘質細砂で、検出面から底部までほぼ差がない。



第32図 SK97

出土物は土器と石器がある。土器は弥生中期の壺・甕・高杯・小型筒型容器などとともに弥生前期土器が若干出土している。いずれも胴部片が大半で、図化できるものは限られている。215ー218は広口壺の口縁部片である。215・216は口縁端部に工具を押し当てて施紋していて、215は羽状紋、216は斜格子紋である。217は口縁部内面に指頭圧痕突帯を残存部分では2条施している。218は水平口縁で、端部は肥厚せず、端面にも施紋がない。219の壺は口頸部がほぼ直立し、口縁端部を少しつまんで外側に拡張させている。頸部には断面三角形の刻み目突帯紋を2条以上貼り付けている。228は壺の底部片で、外面のヘラミガキは下端にまで及んでいる。内面にはハケ目と指頭圧痕が観察でき、外底面はなでられている。221ー223は「く」の字口縁の甕で、221・223は口縁部内面をヘラミガキし、222はなでている。220・224は口縁端部に刻み目を施し、口縁直下に220は3条、224は13条の沈線

を引いている。229 は外面のヘラミガキが下端にまでは及んでいない。226 は高杯脚上端部片で、四方に配置される円形透孔は上方からあけられている。225 は小型の蓋で、端部に浅い刻み目がある。1.3cm 離れた2孔で1対と思われ、その上方につまみ？がはがれた痕跡がある。図示していない破片でも、壺や甕の胴部下半にヘラケズリを施す個体は見られない。

石器は4点出土している。S21 は加工痕のある剥片で、刃部・刃縁・稜・背部などに使用による摩滅があり、もとは打製石庖丁と考えられる。ほかにサヌカイト剥片2点と安山岩剥片1点が出土している。

この土坑の時期は、弥生中期中葉である。

SK99(第 33 図)

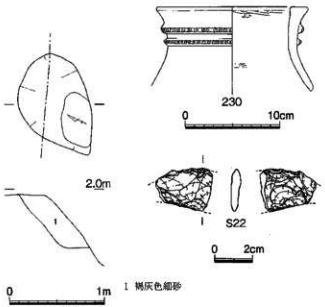
調査区南部に位置する円形の土坑で、南側を SD11 に切られている。断面はすり鉢形で深さ 55cm あり、埋土は単層で褐灰色細砂である。

遺物は少なく、弥生中期の壺や甕の小片と石器4点である。土器は胴部片がほとんどで、図示できるものは1点しかない。壺 230 は外反した口縁の内側をつまんで拡張させ、頸部には刻み目突帯紋を2条貼り付けている。S22 は両長辺に細部加工を施して刃部を形成している。一方の短辺に向け幅を減じており、もとは小型の打製石剣の可能性がある。ほかにはサヌカイト剥片が3点出土している。

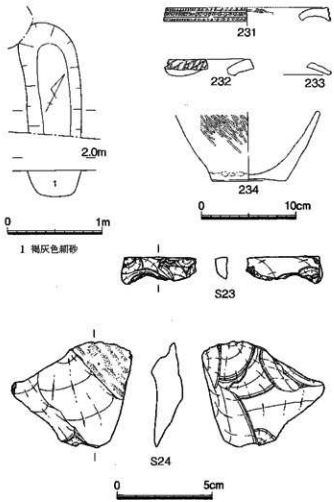
この土坑の時期は、弥生中期中葉であろう。

SK106(第 34 図)

調査区の中央南よりに位置する、細長い土坑である。南側を SD11 に切られて



第33図 SK99



第34図 SK106

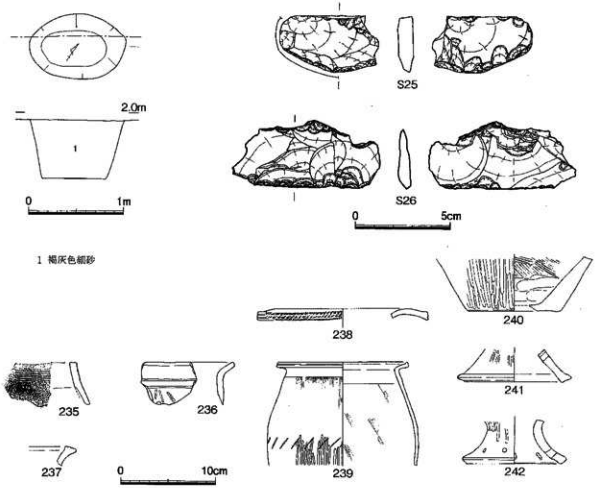
いるが、その南で延長部分が検出されなかったので土坑としている。長さは残存部で118cm、幅58cmで、深さ27cmである。底面中央の**SP107**は掘り上げ後に検出している。

土器は弥生前期・中期の小片ばかりがわずかに出土している。**231**は広口壺口縁部の小片で、下方に拡張させた端部には、2条の凹線紋の上から斜め方向のへら状工具による圧痕紋を施す。**232**は広口短頸壺口縁部の小片で、拡張しない端部にへら状工具による縦と斜めの圧痕紋を施す。**233**は小型の蓋の口縁部小片である。**234**は上げ底気味の壺底部で、外面は剥落が多く部分的にヘラミガキが観察できるが、下端にまで及ぶかはわからない。

石器は3点出土している。**S24**は板状剥片から取られた剥片で、稜に摩滅や主剥離面に光沢が見られる。また、素材面や自然面が残っている。**S23**は抉り加工のある剥片である。ほかに短冊形の磨製石庖丁の背部側の角と思われる小片がある。この土坑の時期は、弥生中期中葉(新)である。

SK113(第35図)

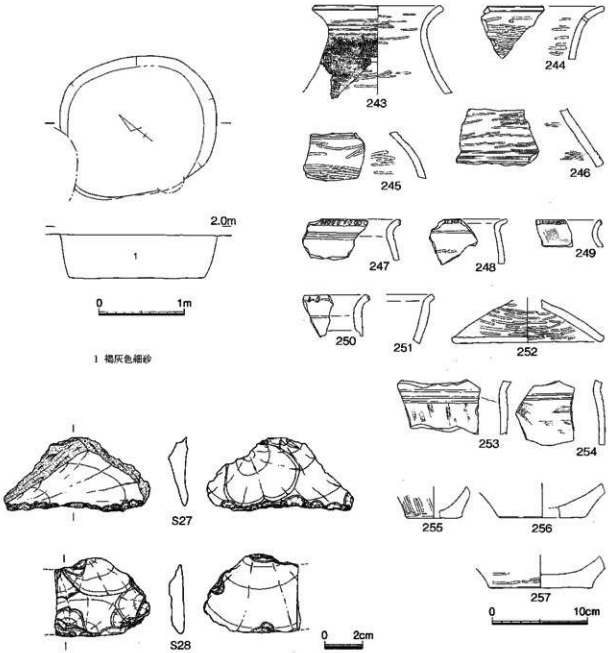
調査区南西端にある楕円形の土坑で、長さ100cm幅69cm深さ62cmである。北西側1/3は**SD11**に切られている。遺物は小片が多く、直径の復原できる個体は少ない。弥生中期土器とともに若干の前期土器も見られる。



第35図 SK113

235 は壺の口頸部小片で、端部の肥厚しない口縁直下には、横方向のハケメ調整の上から櫛描直線紋と波状紋を施紋している。237・238 は広口壺の口縁部小片である。237 は上下に拡張させた端部には3条の凹線紋を施す。238 はわずかに肥厚させた端部に斜めのへら状工具圧痕紋を密に施す。240 は壺底部の小片で、外面は剥落しているがヘラミガキが下端近くまであるのがかろうじて分かる。236 は弥生前期の甕口縁の小片で、口縁下に2条の沈線を施す。239 は端部を上方にわずかに拡張させた口縁を持つ甕で、端面には1条の凹線紋がある。胴部最大径部分にへら状工具による刺突紋がある。内面は胴部上端近くまでハケメが及び部分的にナデ消されている。241・242 は高杯脚部片で、円形の透孔が 241 は四方に、242 は八方にあると見られる。

石器は2点出土している。擦切石器S25 は、左側縁から下縁にかけて摩滅が認められる。表面の稜



第36図 SK114

が摩滅しているので打製石庖丁の転用と考えられる。S26 には上下両縁に細部加工を施している。

出土物からこの土坑の時期は弥生中期中葉(新)と考えられるが、１点のみ水流し粘土を使った弥生後期と考えられる小片が出土している。これは、SD13 の掘り残しによる混入かと思われるが、時期が後期まで下る可能性もある。

SK114(第 36 図)

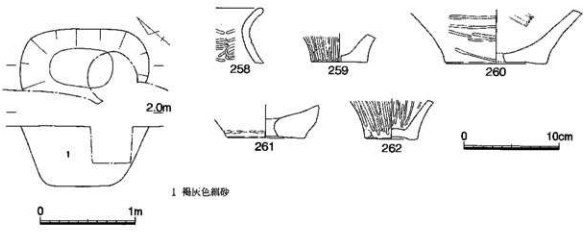
調査区南西部にある円形の土坑で、長さ 166cm 幅 146cm 深さは 46cm である。底面からの立ち上がりは急で垂直に近く、西側ではオーバーハングしている箇所もある。

出土物には弥生前期土器と石器がある。前期土器は壺・甕・鉢・盤などがあるが、小片が多く図示できる個体は限られている。243 は外反する口縁を持つ壺で、口縁端部は丸く収めている。頸部には沈線紋を３条施し、その直下に３本１単位とした縦方向の浅い沈線を施している。この浅い沈線は現状で２単位確認できるので、五方に配置されていると見られる。244 は上に開く頸部と外反する口縁の壺小片で、口縁端部は丸く収めている。口頸部境には直径 3mm の円孔がある。245・246 は壺胴部片で、245 には２条以上の削出突帯が、246 には幅 1.5cm の広い削出突帯上に３条の沈線紋がある。256・257 は壺底部片である。255 は小型の壺底部であるが、鉢の可能性もある。内外面ともになめらかに仕上げられている。247ー250・253・254 は甕口縁部小片である。247・248・249 は強く外反し、端面の刻みも全面にあるが、250 は外反が緩く下端に太い刻みを施す。口縁下の沈線紋は 248・249・250 が１条、247・254 が２条、253 が３条である。251 は鉢の口縁部小片である。口縁部は厚みを体部の 2/3 ほどに薄くして短く外反し、端面を持つ。252 は甕用の蓋である。口縁端部は煤のため外面では１cm 幅で内面では 2.5cm 幅で黒化している。ほかに弥生中期の南九州系の甕と思われる小片も出土している。

石器はスクレイパーや使用痕のある剥片などが３点出土している。S27 は三角形の２辺に自然面を残す横長剥片を素材としたスクレイパーで、刃部は使用による摩滅が認められる。使用痕のある剥片は２点あって、S28 には上下両縁に細部加工痕がある。ほかに安山岩の焼け石が１点出土している。この土坑の時期は弥生前期後半と考えられる。

SK138(第 37 図)

調査区北西部の大型土坑集中部に位置する。長方形の土坑で、西側を SP3・SK69・SK70 に切られ



第37図 SK138

ている。長さは136cm残存幅79cm、深さは63cmで断面逆台形を呈する。遺物は弥生中期の壺や甕とともに弥生前期の土器があるが、ともに出土量が少なく図示できる個体が限られている。

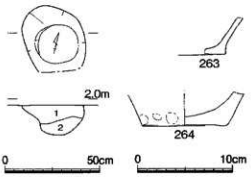
258 は口頸部の外反する壺口縁部で、端部は丸く収めている。口縁下には2条の沈線紋を施している。**260・261** は壺の底部片で、**261** には直径約2cmの穴があけられている。外底面は **260** では外周部の幅1.5cmが特に丁寧にヘラミガキが施され、**261** は部分的にナデが見られるが、不調整の部分も多い。**259・262** は甕底部片で、外面のヘラミガキは **259** では下端にまであるが、**262** は下端で部分的になでられていて上げ底である。図示していないが、弥生中期の壺や甕の口縁は、端部に拡張は認められるものの、凹線紋を施した個体はない。この土坑の時期は弥生中期中葉と考えられる。

SK153(第38図)

調査区東端に位置する円形の土坑で、**SH58** 掘り上げ後に検出した。南側を **SD11** に切られている。直径は約65cmであるが、上面は北西側に緩く広がっており、底部は直径40cm強の円形である。

遺物は少数で図示できる個体がほとんどない。**263** は甕底部の小片で、調整は外面がヘラミガキ、内面がナデで仕上げている。**264** は弥生前期の壺底部で、本来は下位の **SD145** に所属すると思われる。

この土坑の時期は弥生中期中葉と考えられる。



1 褐灰色細砂
2 黄灰色細砂と暗灰色粘質微砂のまざり

第38図 SK153

SK155(第39・40図)

調査区東端で検出した不整楕円形の土坑である。長径120cm短径110cmで、断面形は台形に近く深さは61cmある。**SH58** 床面下で検出している。埋土上層には焼土が入り、**SH58** の埋土が一部落ち込んでいるとも考えられる。

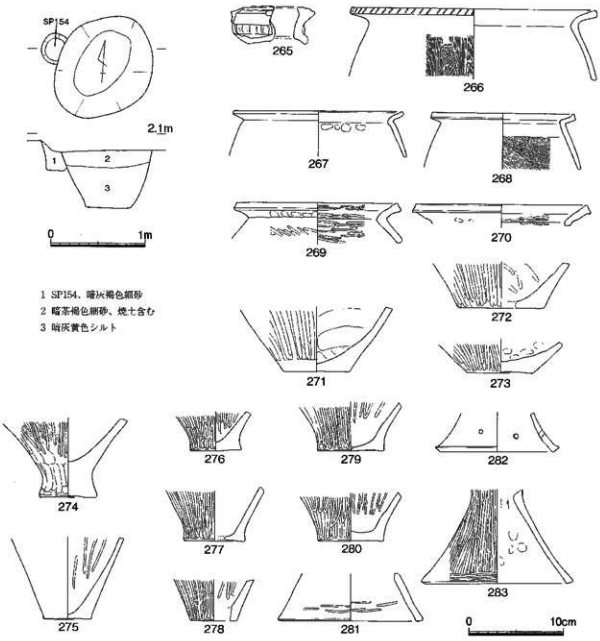
土器は弥生中期の壺や甕が大半であるが、わずかに前期の土器も入っている。**265** は短頸壺口縁部の小片である。上下に肥厚させて幅2cmとなった端部には凹線紋を3条施す。頸部屈曲部に低い指頭圧痕紋突帯を1条貼り付けている。**271－273** は壺底部である。**271** は外底面と外面にはヘラミガキが施されているが、外面のヘラミガキは下端部でナデ消されている。内底面はナデ仕上げで指頭圧痕がよく残り、平坦面を持たず椀形である。**272** は内外面・外底部ともヘラミガキ仕上げで、外面下端部は部分的になでられている。**273** は外底面と外面にはヘラミガキが施されていて、外面下端部のナデもみられない。内面はなでられていて、指頭圧痕がよく残っている。

266－270 は甕の口縁部である。いずれも「く」の字口縁の甕で、口縁端部が肥厚するものもあるが度合いは大きくない。**266** は肥厚しない口縁端部に斜め方向のハケ状工具圧痕紋がある。**267** は口縁端部が肥厚しないが、内面を端部から4mmのところでヨコナデを施しているので、肥厚しているように見える。**268** は口縁端部を上方につまんでわずかに肥厚させ、端面には凹線紋が1条ある。**269** は端部中央にナデを施し、端面を持たせている。口縁部内面もヘラミガキ仕上げである。**270** も口縁端部の作り方は **269** と同様であるが、端部平坦面がしっかりしている。**274－280** は甕の底部である。**274** は充実脚台を持つ甕の底部で、外底面はわずかに窪んでいる。内面の調整は剥落のため不明だが、外面

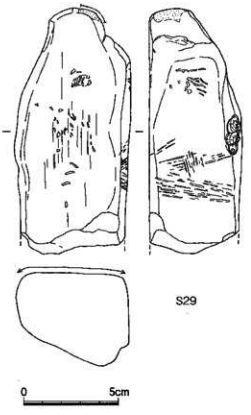
は底面までヘラミガキが施されており、脚台部はヘラミガキにより縦方向の稜を持たせている。胎土は茶褐色で金雲母が入っており、明らかに在地の土器とは異なっている。南九州系の甕と考えられる。276－278は内外面ともに丁寧に仕上げられていて、外面のヘラミガキは下端に及んでいる。279・280は内面に煤による黒化が見られ、275は内外面とも被熱により表面が荒れている。

281－283は高杯脚部である。281・283は脚端部の拡張もなく、内面もヘラケズリされていない。282は脚端部に凹線紋が施されている。

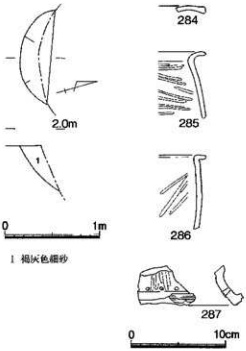
石器は砥石1点・蛸刃石斧未成品1点・楔形石器1点などが出土している。砥石S29は自然礫の最も広く平坦な面を1面使用している。長さ130.8mm幅60.0mm厚さ48.7mmで、叩き石に転用している。ほかにサヌカイト剥片が2点出土している。



第39図 SK155(1)



第40図 SK155(2)



第41図 SK157

この土坑の時期は、図示しうる土器はやや古めの様相ではあるが、**265・282** や図示していない胴部下半にヘラケズリを行う壺片などから、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SK157(第 41 図)

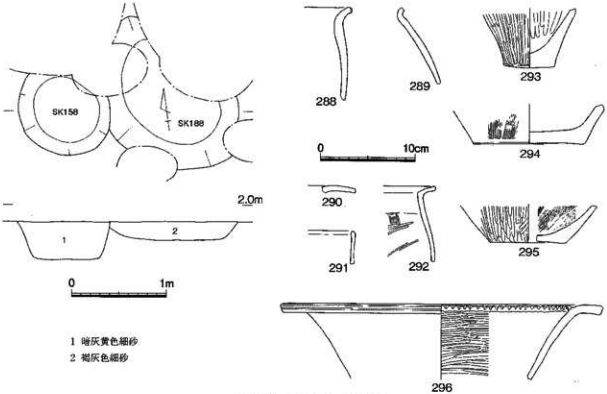
調査区北西部に位置する。大半を **SK69** に切られており、南側が幅 23cm ほどの三月状に残っているにすぎない。円形土坑とすれば直径 110cm に復原でき、残存部の深さは 48cm である。

土器は約 20 点出土しているが、弥生前期・中期前葉の土器が大半で、中期土器が数点見られる。**284** は水平に開く広口壺の口縁部小片で、端部はわずかに拡張している。**285・286** は甕の口縁部小片である。**285** は薄手で硬質な焼き上がりをしていて、口縁部内面までヘラミガキされている。**286** は小さなL字状口縁を持ち、口縁下には櫛描直線紋が施されている。**287** は低脚高杯の脚部で、1ー1.3cm 間隔で設けられた透孔には貫通しないものもある。脚端部は上方に拡張させ、凹線紋を施している。脚端部は火の周りが悪く脆い筒所がある。この土坑の時期は弥生中期中葉(新)と見られる。

SK158(第 42 図)

大型土坑群の南端に位置する円形土坑である。北側は **SK64・SK66** に切られている。直径約 95cm 深さ 40cm で、断面形は逆台形を呈する。

土器は 20 点足らずが出土していて、弥生前期土器とともに中期の甕小片がある。**289** は中型甕の胴部上半の破片で、口縁部は「く」の字に曲がるが、端部形状は不明である。表面の剥落が大きいが、内面には残存部分にヘラケズリが及んでいない。**288** は厚手の甕の破片で、口縁部下には指頭圧痕が面稜に残り、外面はナデ仕上げである。**293** は厚手の甕底部である。外面のヘラミガキは下端まで及んでおり、外底面はナデ仕上げである。内面はヘラミガキで、内底面は尖底状で指頭圧痕が顕著である。**294** は底径 12.0cm の壺底部である。表面は剥落しているが、外面はハケメで内面はなで調整であ



第42図 SK158・SK188

る。また、外底面にはヘケ状工具によりなでられている。

この土坑の時期は、図示していない中期の甕胴部下半にヘラケズリが見られないので、弥生中期中葉頃と考えられる。

SK188(第42図)

SK158 の東に位置し、周囲を土坑や柱穴に切られているが、楕円形と考えられる土坑である。残存部の長さ185cm幅82cm深さ19cmで、浅い皿状を呈する。

土器は弥生中期の壺・甕・高杯などが若干出土している。**290** は水平に開く広口壺の口縁部小片で、端部は肥厚していない。**295** は壺の底部片で、外面はヘラミガキされているが、下端部は部分的になでられている。**291** は小型の直口壺の口縁部小片と思われる。器壁は薄く均質な作りで、丁寧に仕上げられている。**292** は薄手の甕で、口縁部内面はなでられている。胴部内面にはヘラミガキが見られ、残存部分にはヘラケズリは及んでいない。**296** は口頸部が大きくラッパ状に開く壺である。口縁部内面には断面三角形の刻み目突帯を1条貼っている。口縁端部には凹線紋状施紋が1条ある。

この土坑の時期は弥生中期中葉とみられる。

SK167(第43図)

調査区北西部で検出した、平面楕円形で深さ18cmの浅い土坑である。長さ143cm幅95cmで、横断面形は逆台形である。**SP26**・**SP128**・**SK72** に切られている。

土器は出土量が少なく小片ばかりで、図示できるものがほとんどない。**297** は壺の口縁部小片で、内側に拡張させた端部には2条の凹線紋が施されている。**298** は甕の口縁部片で、端部は肥厚しない。内面は口縁部までナデられている。石器は叩き石や2次加工のある剥片など4点が出土している。**S30** は敲打段階の蛸刃石斧未成品を転用した叩き石である。表面上部には線状の打撃痕が、上下両面には

円形の打撃痕がある。S31 は２次加工のある剥片で、長さ 28.0mm 幅 32.8mm 厚さ 5.9mm あり、表面には光沢が認められる。ほかにサヌカイト剥片が１点、石材不明剥片が１点出土している。

この土坑の時期は弥生中期中葉(新)である。

SK192(第 44 図)

調査区西側で検出した長方形の土坑である。長さ 125cm 幅 63cm 深さ 35cm あって、断面形は箱形である。ただし、北東側の底部は直径 35cm の円形に 11cm 深くなっていて、別の柱穴と同時に検出している可能性もある。周囲は土層が緑色化して遺構検出がしにくい状況で、１m北東にある円形土坑SK185でも底面で相接する直径約30cmの柱穴３基を検出した。

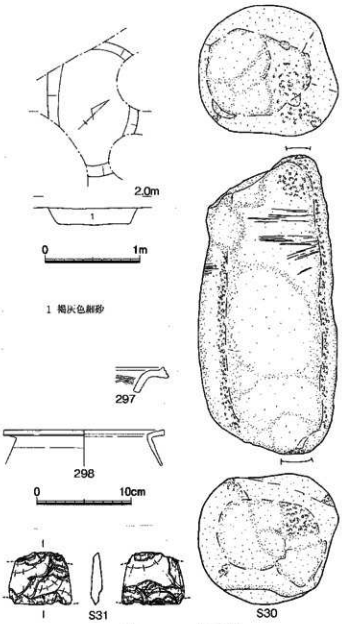
上器は壺や甕の胴部小片ばかりで、図示できるものはほとんどない。**299** は水平に広がる広口壺の口縁部小片で、肥厚させた端部には凹線紋を２条施している。**300** は杓子形土製品の把手である。体部に斜めに取り付くと思われ、体部挿入部が残っている。他方は短く下方に引き延ばして端部を形成している。端部上面には中央と両側で都合３条の、折り曲げ部に１条の刺突紋を施している。ほかにサヌカイト剥片が１点出土している。

この土坑の時期は弥生中期中葉(新)と思われる。

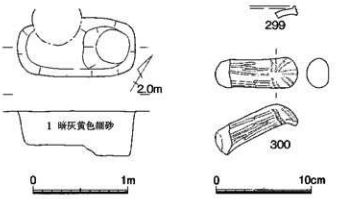
SK196(第 45 図)

SH144 掘り上げ後に検出した楕円形の土坑で、北側は **SD13** に切られている。残存部で長さ 110cm 幅 95cm 深さは 42cm あり、逆台形の断面形である。

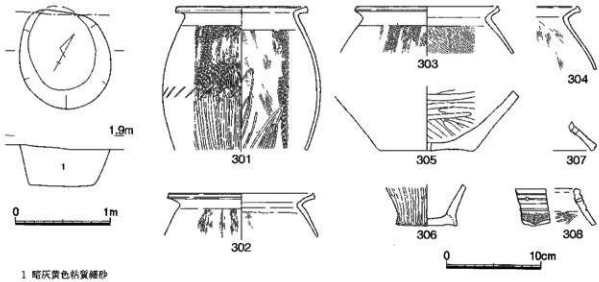
301ー**304** は「く」の字口縁の甕で、



第43図 SK167



第44図 SK192



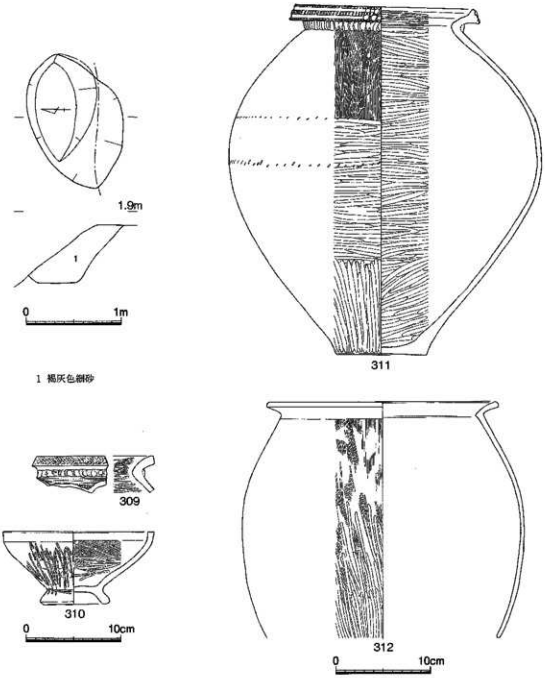
第45図 SK196

端部をわずかに上方に拡張させている。301では端面に凹線紋が1条施されているが、302ー304にはない。301には胴部最大径位置にへら状工具による刺突がある。305は上げ底気味の壺底部片で、外面の調整は剥落のため不明である。306は甕の底部で、外底面は端部がやや高くなっていて、底部円盤の接合痕が観察できる。308は無頸壺の口縁部小片で、口縁端部は丸く収められている。口縁部下には深くしっかりとした凹線紋が4条施されており、直径約3㎜の円孔もある。307は低脚高杯の脚部小片で、脚端近くには配置は不明だが直径5㎜の透孔がある。脚端部は少し肥厚し、2条の凹線紋が施されている。内面にヘラケズリは見られない。ほかにサヌカイト微細剥片が1点出土している。この土坑の時期は弥生中期中葉から後葉にかけてである。

SK202(第46図)

調査区の南側に位置する円形の大型土坑である。北側をSD11に切られている。深さは62cmあり、断面形は逆台形だが一部はオーバーハングしている。

土器は完形近く復原可能な個体が3点出土している。309・311は広口短頸壺である。309は肥厚しない口縁端部にへら状工具により羽状刺突を施している。頸部には指頭圧痕紋突帯が貼り付けて有り、その下位には櫛描直線紋がひかれている。内面の調整は入念丁寧で、口縁部端までヘラミガキされている。311は高さ36.7cm口径19.0cmで、最大径は胴部中位にあり33.0cmである。「く」の字に短く曲げた口縁は端部を上方につまんで拡張し、端部に2条の凹線紋の上から直交して密にへら状工具を押し当て、4個2列の円形浮紋を四方に配している。頸部には指頭圧痕紋突帯を貼り付けている。胴部外面は剥落が著しいが、胴部中位とその上部に2点1単位の刺突紋を密に施しており、一部にはヘラミガキによりつぶれた箇所もある。312は甕の胴部上半の破片である。「く」の字の口縁部は肥厚していないが、内面端部際のヨコナデにより肥厚気味になっている。表面は内外面ともに残りが悪く、残存下端部は被熱による痛みが大きい。310は椀形の低脚高杯である。表面の残りが悪いが、口縁端部には凹線状の窪みがある。底部は外面から充填されている。出土物はこのほかにサヌカイト剥片が1点、安山岩剥片1点が出土している。この土坑の時期は弥生中期中葉である。

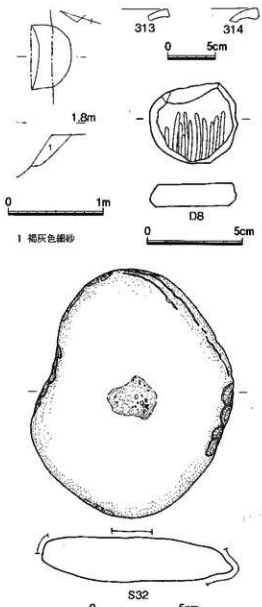


第46図 SK202

SK203(第47図)

SK96に南側の大半を削られて半月形に残っているが、もとは楕円形の土坑と見られる。残存部で長さ43cm幅68cmあり、深さは33cmである。

出土物はわずかで、土器は小片のため図示できる個体が少ない。313・314は「く」の字口縁の甕口縁部片で、ともに端部がわずかに肥厚している。314は表面剥落のためよく分からないが、313は端部に浅い凹線紋が2条みられる。ほかに、底部下端に沈線を2条施す弥生前期壺片がある。D8は大形土



第47図 SK203

器の胴部片を利用した土製円盤である。直径4.6cm厚さ1.2cmで、外縁部は未調整のため割りの角が残っている。S32は扁平な自然礫を利用した台石で、中央に打撃痕が両側縁に打ち欠きがある。ほかにサヌカイト剥片3点と安山岩剥片1点が出土している。

時期は、図示した以外に胴部下半をヘラケズリする甕小片があり、弥生中期中葉(新)から後葉と見られる。

SK205(第48図)

調査区南端に位置する楕円形土坑で、長さ101cm幅70cmで深さは15cmと浅い。出土物は弥生前期の壺片があるが、図示できるものはない。この壺は器壁が荒れており、この土坑の時期を表すものとは言い難い。時期は弥生中期であろう。

SK206(第49図)

SH58の北辺に切られる楕円形に近い不定円形の土坑で、長さ75cm幅65cm深さ67cmある。底面は隅丸方形に近く南側に偏在し、南壁は下部でオーバーハングしている。中層では板石状の角礫が2点、南端部の対面から少し浮いたところでほぼ完形の壺316が出土している。

出土物は弥生中期の土器がまとまって出土している。315は広口壺の口縁部小片で、上下に拡張させた端部には3条の凹線紋の上からへら状工具により密に刺突している。316は口縁部の1/4を欠くがほぼ完形の広口壺で、口径は15.8cm高さ21.4cmで、最大径は胴部中央にあって18.0cmである。口縁部は水平に外反し、わずかに拡張した端部には凹線紋が1条ある。外面の胴部下半はヘラミガキが施されているが、下端部分はなでられている。底部は焼成不良のためもろくなっている箇所がある。

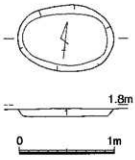
317ー322は「く」の字口縁の甕である。317は胴部上半が1/4ほどしかないものの完形に復原できる。全体に均質で薄い作りである。口縁部は端部をつまんで上方に拡張させている。内外面ともに底部から2/3ないし3/4の位置までヘラミガキがあり、外面では下端にまで及んでいる。外底面はナデ仕上げである。318は口縁端部が肥厚しない。胴部3/4あたりから下で被熱による傷みがあり、外面には煤が内面には炭化物の付着が見られる。319・322はわずかに肥厚した口縁端部に凹線紋が1条見られる。320は中型甕の胴部上半の破片で、内面にはナデや指頭圧痕が顕著に見え、口縁部内面はヨコナデされている。321は口縁端部を上方につまんで幅6mmに拡張させている。内面はハケメ後に不定方向になでられ、ヘラケズリは及んでいない。323は弥生前期甕の小片で、表面が荒れているが、口縁端部には刻み目を施し、口縁部下には沈線が1条ある。326・327は甕底部である。326は厚手の作りで、胴部外面のヘラミガキは下端部がナデ消されている。327は被熱により表面が痛んでいるが、

外面はヘラミガキされていて、下端部はナデ消されている。324・325は鉢形の杯部を持つ高杯口縁部の小片である。325は口縁端部を内側につまんで拡張している。

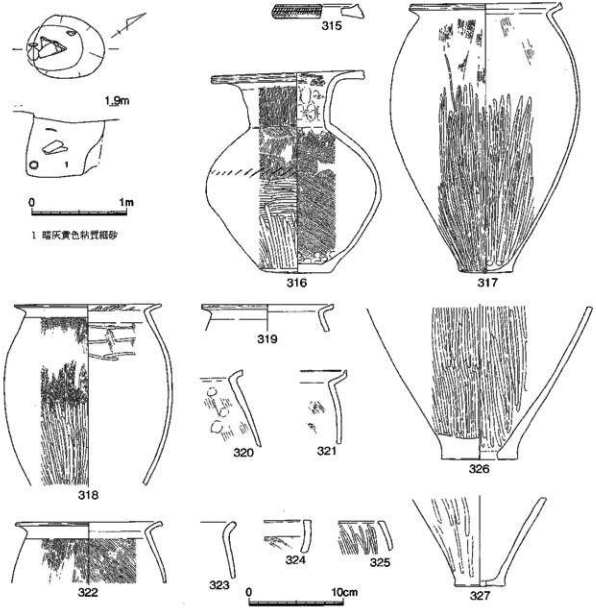
ほかにサヌカイト剥片が5点出土している。この土坑の時期は、図示していない小片を含めて壺や甕の胴部下半にヘラケズリが認められないので、弥生中期中葉(新)とみられる。

SK301(第50図)

立会調査区で検出した直径140cm深さ50cmの円形土坑で、断面形は箱形である。埋土中層と底面から土師器椀・杯・小皿がまとまって出土している。

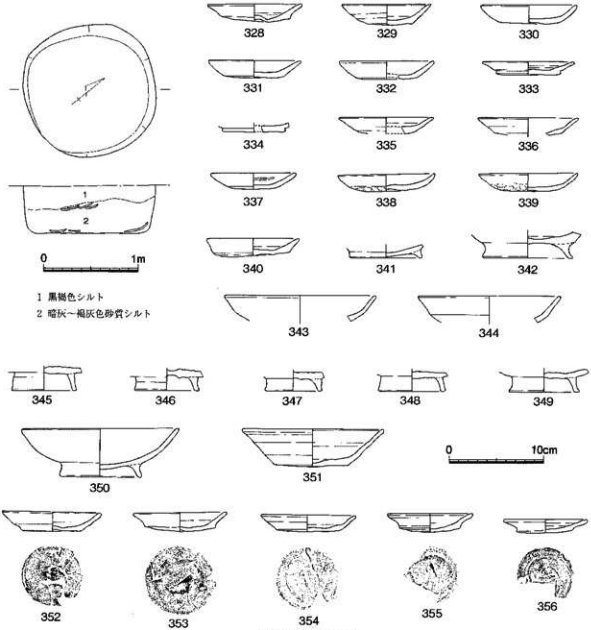


第48図 SK205



第49図 SK206

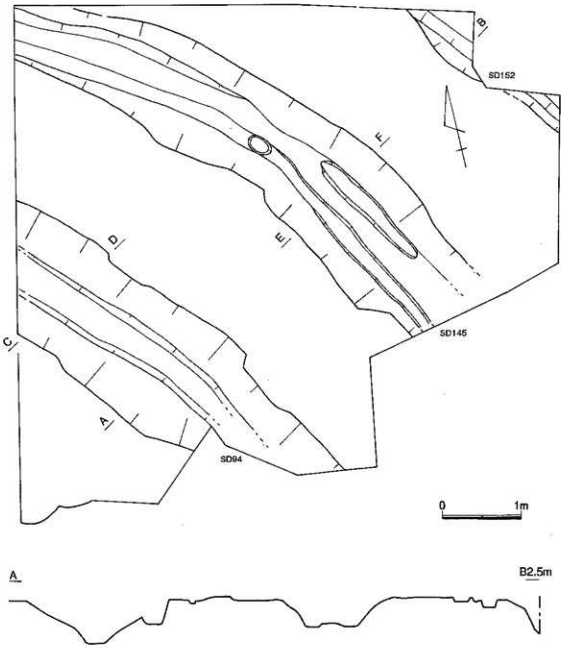
341 は土師器椀の底部片で、直径 7.6cm の高台は外面が垂直となる三角形状である。342 は高台径 9.5cmの大型品で、精良な粘土を使用している。350はほぼ完形品で口径16.6cm高さ5.2cm高台径8.6cmである。土師器杯は高台のない 351 と付く 345ー349 とがある。351 の杯は口径 15.0cm 高さ 4.0cm 底径 8.0cm で、底部外面のヘラ切りは中心近くに及んでいる。345ー349 は杯部が欠損しているが、直立した高台の付く杯と見られる。高台径は 6.0ー7.4cm で高さが 1.5cm あり、349 では端部に踏ん張りがある。内面の見込み部分には指ないし工具を押し当てた痕跡が明瞭に残っている。土師器小皿は底部外面が中央までヘラ切りが及ぶ 328・352・353・355・356、ヘラ切り後指頭を押圧している 331・333・339、ヘラ切り痕と板目圧痕の残る 354、指頭圧痕が顕著で器形がゆがんでいるものなどがある。333・334・356 は円盤状高台の小皿である。330・352・353 には漆が付着しており、特に 353 には厚く残っている。この土坑の時期は 10 世紀後半から 11 世紀初頭にかけてと思われる。



第50図 SK301

4. 溝

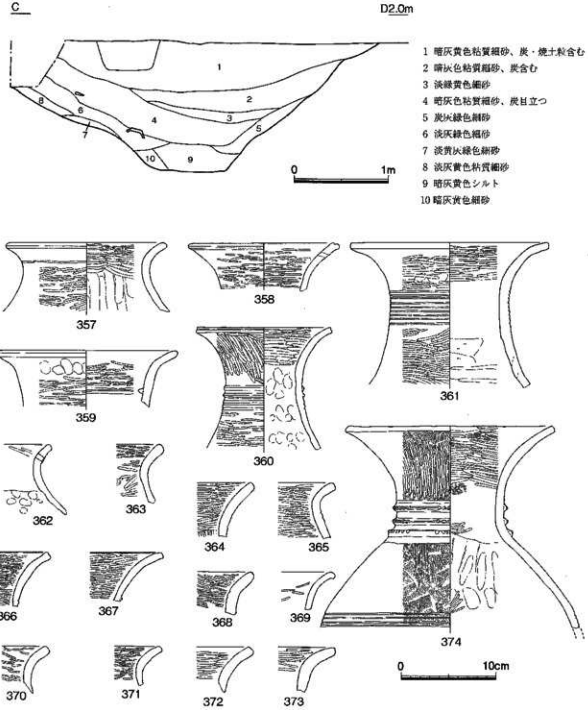
溝は北東側に弧を描く溝３条と北東−南西方向の溝３条を検出している。前者は弥生前期の環溝の一部と考えており、外側の溝がライフケアセンター建設に伴う調査で検出した溝とつながるものと思われる。後者は土器が多量に出土するものの、時期を決定する遺物が少ない。東に隣接する南方(国体開発)遺跡では、平安時代後半から鎌倉時代にかけての北東−南西方向の溝を検出しており[3]、これらの溝と関連していると思われる。



第51図 環溝平・断面図

SD94(第51－60図)

内側の環溝で、調査区南西部にある。長さ13.5m分を検出している。断面形は大きく上に開く逆台形で、上幅3.9m底幅1－1.3m深さ90cmで、底部近くは細溝状に幅を狭めている。底面からの立ち上がりは外側で角度がきつく、内側が緩い。埋土は、中層の4層から上部で炭や焼土を含んでいる。溝に沿った土手を想定しうるような土砂の流入堆積はみられない。



第52図 SD94(1)

出土物は弥生前期土器・石器・木器・骨角器・動物骨があり、弥生中期初頭の土器小片も出土している。調査では遺物を詳細に分離して取り上げることができなかったが、ライフケアセンター調査で検出した弥生前期の溝は、上部の溜まりに中期初頭の土器がはいっており、ここでも同じような状況ではないかと思われる。

壺には、小条の沈線紋・多条の沈線紋・削出突帯・貼付突帯・口縁端部沈線・浮紋・口縁部内面突帯・ヘラ描き紋様などの装飾があるものや、頸部や胴部に沈線紋を1ー3条施しているものがある。357 は口頸部が外反し、口縁端部を丸く収めている。沈線紋は口・頸部境に1条巡らせている。364 は大型壺の口縁部片で、緩く外反した口・頸部の境に広めの間隔で沈線を2条巡らせている。394 は大型壺の頸・胴部片で、口縁部下に2条の沈線を引いている。381・400 は肩部に3条の沈線紋をめぐらしている。393 は壺の肩部から胴部にかけての破片で、頸部には2条以上の沈線紋、胴部肩部には3条の沈線紋とその間に竹管紋を施している。頸部・肩部の沈線紋間には、縦線2本による区画をつくり、区画内を2重弧紋で満たしている。肩部沈線下位にも2重弧紋を施している。竹管紋は全周せず、2.5cm の空白区間をおいて5cm の施紋区間がある。365 は口縁部が強く外反し、屈曲部下に沈線紋が3条巡らされている。

沈線紋を6ー9条と多数施しているものもある。392 は頸部の直立する壺の頸・胴部片で、頸部には6条以上の沈線紋がめぐらされている。391 は壺の口・頸部片で、口縁端部の形状は不明であるが、直立する頸部には8条以上の沈線紋を巡らせている。361 は口縁部が大きく開く広口壺で、直立する頸部には9条の沈線紋をめぐらせている。

削出突帯には突帯の上下を削る削出突帯A(367・395・397)と、突帯の上側は削るが下は沈線のみの削出突帯B(399)とがある。397 は肩部に3条の、395 は肩部に4条の低い削出突帯Aがある。367 は口縁端部に面を持ち、削出突帯は頸部に施されている。突帯下部がないので定かではないが、突帯に高さがあるので削出突帯Aと思われる。399 は肩部に1条の削出突帯Bがある。

貼付突帯には刻み目突帯(374・376・380・382・407・408・410)・指頭圧痕紋突帯(377・406)・断面三角形突帯(360・375・378・379・406・409)がある。374 は口縁部がラッパ状に開く壺で、頸部には刻み目突帯を3条貼り付けている。刻み目の間隔は不明だが施紋部分と非施紋部分とがある。胴部肩部には沈線紋を4条以上施している。376 も口縁部がラッパ形に開く壺で、くびれた頸部に浅い刻み目突帯を2条貼り付けている。380 は頸部に沈線紋を多条にめぐらせ、その上から1条刻み目突帯を貼り付けている。382 は小型の壺で、胴部から屈曲して立ち上がる頸部との境に刻み目突帯を1条貼り付け、肩部には3条以上の削出突帯を施している。377 は頸部の直立する壺で、指頭圧痕紋突帯が1条貼られている。360 は外反した口縁端部に1条の沈線紋を、長い頸部には小さな断面三角形の貼付突帯2条と、その下に沈線紋を3条施している。375 は口頸部が長く外に開く壺で、口縁部外面には3条以上の沈線が頸部には6条の断面三角形の突帯が施され、口縁部内面には断面三角形の突帯が斜め方向に3条残っている。378 は壺の頸部に段面三角形突帯を1条貼り付けている。379 は直立する頸部に断面三角形の突帯が4条貼り付けられている。406～410 は、胴部の肩部から最大径部にかけて1～数条の突帯を貼り付ける壺である。406 は大型の壺で、胴部上半に低い断面三角形の突帯を6条、その上位に指頭圧痕紋突帯を1条貼り付けている。358・360・366・368・388・389 は口縁端部に沈線を1条持つ壺である。358 は面を持った口縁端部に太くしっかりとした沈線紋を施している。368 は直立気味の頸部を持つ壺で、丸く収められた口縁端部には1条浅い沈線紋がひかれているが、部分的に

ヘラミガキにより消されている。頸部には1条以上の、内面の口・頸部境に2条の沈線紋がひかれている。389 は大型壺の口縁部小片と思われ、外反する口縁端部に面を持たせ、端部中央にしっかりとした沈線を施している。

359・375・390 は口縁部内面に突帯を貼る壺である。359 は口頸部が開く壺で、口縁端部付近はより強く外反する。口縁部の深い位置に断面三角形の細い突帯を貼り付けている。390 は口縁部がラッパ状に大きく開く壺で、口縁端部内面にはやや高い指頭圧痕紋突帯が貼り付けられている。頸部にはやや間隔の開いた沈線紋が4条以上施されている。

363・370・371 は口・頸部片で、頸部には沈線は見られない。371 は口・頸部が外反し、端部は丸いところと面を持つところがある。370 は短く直立する頸部を持ち、口縁部は短く外反し端部を丸く収めている。363 は口・頸部が外反し、丸く収めた端部は肥厚している。388 は口頸部がラッパ形に開くやや大型の壺の口縁部片と思われる。面を持った端部の中央は筋状のわずかな窪みがある。破片下端部にわずかに沈線が残っている。373 は大型壺の口縁部小片で、端部は下端側を強くなでて丸め、頸部に1条以上の沈線紋がある。

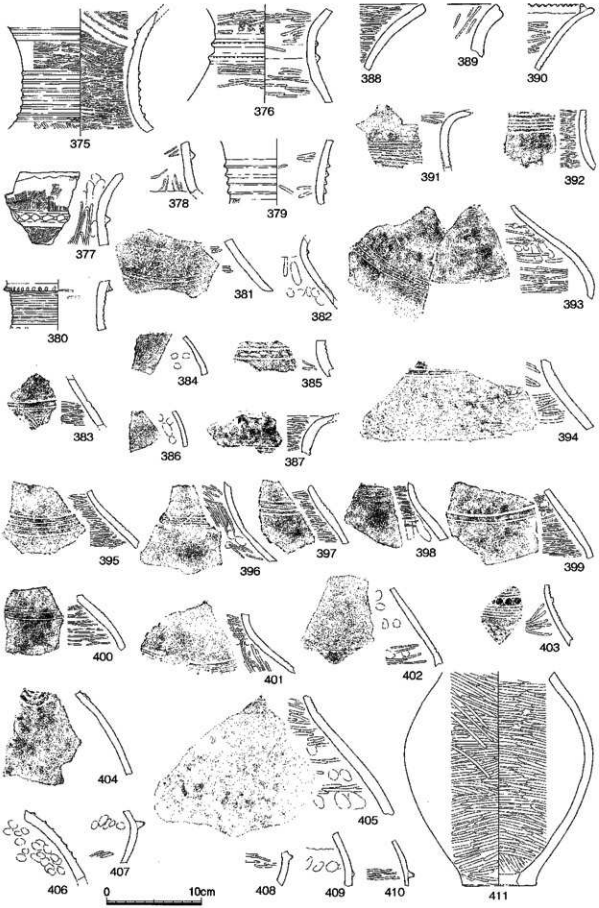
頸部や胴部に浮紋をほどこす壺が2点出土している。403 は頸部に沈線を多条にめぐらせ、沈線間に1条の円形浮紋帯がある。沈線紋下位には竹管状の刺突がある。404 はやや大型の壺胴部上半の破片で、残存部上端に2重の円形ないし孤状の浮紋が貼られている。405 は壺の頸・胴部片で、頸部には沈線紋を多条にめぐらし、その下位に刺突紋を押している。

壺の胴部紋様は木葉紋・二重弧紋・刺突紋などがある。386 は有軸木葉紋である。402 は沈線紋間に円形の刺突がある。385 は頸部の沈線紋間に楕円形の刺突がある。387 は頸・胴部境の沈線紋間に竹管状の刺突がある。464 は無頸壺の口縁部片で、口縁部下に18条の沈線紋を施す。沈線下には小円形の刺突を施している。464 は直立する口縁部を持つ無頸壺片で、口縁部に18条の沈線紋をめぐらせ、最下位に三角形の刺突を施している。

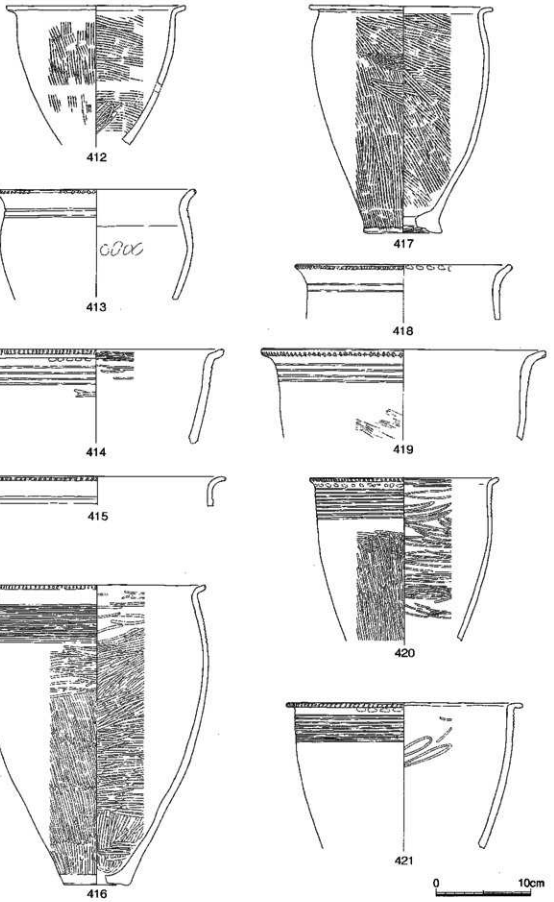
476ー509 は壺の底部で、1．平底で全面をナデなどの調整を行う(479・480・484・485・488・490・491・499・501・502・505・508)、2．平底で端部を丸める(494・506・509)、3．外周部が幅約1cmの低い高台状の3者があり、高台状の物には外周部に調整を施す物(A、480・482・487・497・500・503・507)と不調整の物(B、476・477・478・483・492・495・496・498・504)がある。このほか、外面下端部に沈線紋を施すもの(485)、穿孔を施すもの(487)なども見られる。

甕には、口縁下に段を持つもの、沈線を持たないもの、1ー4条の少数沈線を持つもの、5条以上沈線を持つもの、L字状口縁のものなどある。451 は小片であるが、口縁部下に段を持つ。緩く外反する口縁部は端部に面を持ち、胴部は段の下位で張りがある。

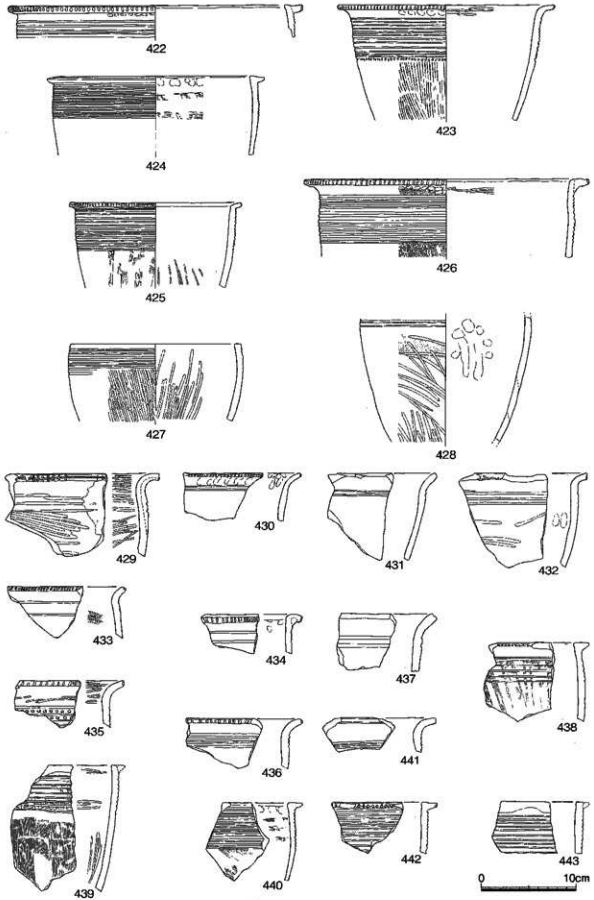
412・417 は口縁部下に沈線紋が施されていない。412 は胴部の張らない甕で、短い口縁部は水平近くまで屈曲し、端部は面を持つが刻み目は持たない。胴部内・外面とも粗いハケメ調整がなされている。胎土はほかの甕に比べやや細かい。417 は高さ 24.0cm 口径 19.4cm の完形の甕で、胴部最大径は口縁部下4cmにある。口縁は短く水平に折り曲げられ、端部には刻み目はない。内・外面ともに目の粗いハケメが施されていて、部分的にヘラミガキが見られる。外面下端にはバリ状の張り出しがある。底部中央は上げ底気味で、1×1.5cmの角の取れた三角形状の穴があけられている。外面は胴部中央付近の傷みが著しい。454 は短く外反する口縁の下半に太い刻み目を施すが、口縁下には施紋がない。449 は口縁部を短く緩く外反させ、端部には面を持たせている。450 は口縁部を短く外反させ、端部は


375
376
388
389
390
391
392
377
378
379
381
382
393
380
384
385
383
386
387
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
0
10cm

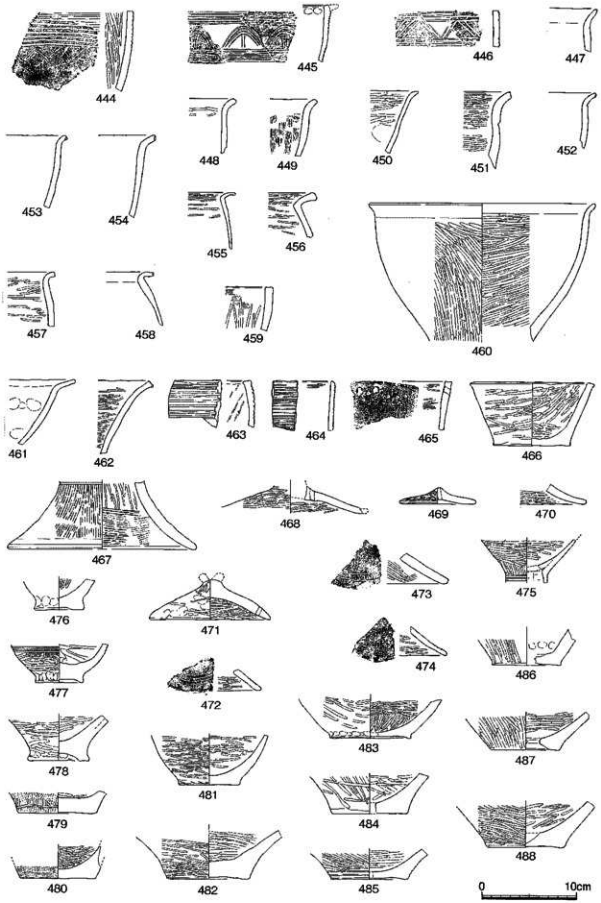
第53図 SD94(2)



第54図 SD94(3)


422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
0
10cm

第55図 SD94(4)


444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
0
10cm

第56図 SD94(5)

尖り気味である。**453** は口縁部を緩く短く外反させている。残存部分はわずかであるが、口縁端部には刻み目が施されている。**458** は口縁部を水平近くまで強く折り曲げていて、端部には小さな刻み目を密に施している。**448・457** は口縁部を短く外反させている。**457** は水平近く曲げ端部は平たい面を持ち、**448** は端部がやや丸い。

429 は短く水平に曲がる口縁部の端部には1条の直線紋の後、刻み目を8本施している。刻み目は全周になく3cm程度の間隔が持たれている。小片ながら、折損部の内外面に補修痕跡が見られる。**452** は短く外反する口縁部を持ち、端部下端よりに小さな刻み目がある。沈線は屈曲部に浅く1条施紋されている。**413・418・430・433・434** は口縁部下半に刻み目を施し、口縁下には2条の沈線紋がある。**413** は口径21cmで胴部上半に張りのある甕で、外反した口縁部の端部下端よりに太めの刻みを行い、口縁下にはしっかりとした沈線紋を2条巡らせている。**433** は口縁部が短く、沈線間がやや開いている。**430** は口縁部が緩く外反し、小さめの刻みが密に施されている。沈線は屈曲部直下にあり、2本は密接している。**434** は口縁部をきつくU字形に曲げて、屈曲の内側に断面三角形状に粘土を補充している。面を持った口縁端部の刻み目はやや太めである。沈線間はややあいている。**418** は口縁部が緩く外反し、下端部に小さな刻み目を施している。沈線は屈曲部直下にある。**431** は口縁部が緩く外反し、端部には面を持たせているが刻み目はない。沈線の間隔は狭い。**437** は緩く短く外反する口縁部を持ち、端部は面を持たせている。

428・432 は口縁下に3条の沈線紋をひいている。**428** は口縁部形状は不明で、胴部上半にはふくらみがなく、薄く煤が付着している。**432** は口縁部を短く強く外反させ、端部には浅い刻み目をまばらに施している。胴部上半は煤により黒化している。**414・419・436** には沈線紋が4条ある。**414** は口径17cmで、短く外反する口縁部の端部には全面に密に刻み目があり、下端部を強めになでている。**419** は口縁部が短く外反し、口縁端部には面を持たせ下端部に刻み目を施している。**436** は外反させた口縁の端部を丸く収め、深く刻み目を施している。沈線紋は屈曲部直下にひかれている。

416・420・421・423・425 は多条沈線を持つ。**420** は胴部の張らない甕で、短く外反する口縁の端部には細い刻み目を密に施し、口縁下には9条の沈線紋を巡らせている。口縁部下8ー15cm間は被熱による表面の剥落が著しい。**416** は高さ31.7cm口径23.0cmの甕で、口縁端部を短く外反させ口縁端部には小さい刻みを施している。口縁下には沈線紋を13条施している。胴部最大径は器高の3/4にあり、23.8cmである。沈線紋の下には煤による黒化が見られる。**421** は胴の張らない甕で、口縁部を短く水平に折り曲げ、上面は強くなでられている箇所もある。口縁端部には下端よりに斜め方向の細い刻み目を施し、口縁部下には10条の沈線紋をひいている。細かい胎土を使用している。**423** は短く水平に折り曲げた口縁の下端部に丸みを持たせる箇所があり、刻み目は端部下端よりに施している。口縁下には沈線紋を12条めぐらせ、沈線下位に刺突紋を施している。**425** は口縁部を短く「く」の字に折り曲げ、内面に明瞭に稜ができている。口縁端部には面を持たせ、小さな刻み目を密に施している。口縁部下には沈線紋が13条ある。

415・435・441 は破損のため沈線の条数が不明である。**415** はきつく短く外反させた口縁部を持ち、端部に刻み目がある。沈線紋は屈曲部からやや下がった位置に2条以上を施紋している。**435** は外反させた口縁部の端部に面を持たせ、浅い刻み目を全面に施している。口縁部下の沈線紋は条数は不明ながら、上位2単位間には竹管紋を押している。**441** は胴部上半が直立し、口縁部は水平近くまで強く曲げられている。口縁端部は面を持たせているが、刻み目は施されない。

422・424・426・438・439・440・442 は口縁部をL字状に貼り付け、端部に刻み目を施した甕である。口縁部下の沈線は多条化している。422 は口縁部下の沈線は5条以上ある。口縁部上面は強く押さえられており、口縁下端は丸めである。426 は太くしっかりとした沈線が 11 条ある。口縁端部は細めであるが、刻み目は全面に深く施されている。438 は口縁端部が尖り気味で、刻み目も小さい。沈線紋は6条ある。442 は口縁部上面を強くヨコナデし、丸みを帯びた口縁下端部には小さな刻み目が施されている。沈線紋は 11 条以上ある。439・443 は貼り付けられた口縁部がはがれている。口縁部下には 443 は 10 条以上の、439 は9条の沈線紋が施されている。424・440 は口縁下端を強くなでて端部をとがらせ気味にしている。13 条の沈線紋を施している。

427・463 は口縁部の直口する甕で、L字状の貼り付けが行われなかったもののようだ。口縁部は平らな端面を持ち、沈線紋は8条ある。463 は9条の沈線紋が施され、破損部には補修痕が見られる。

甕底部は、平底で全面をナデなどの調整を行う物 486・489・500・511ー513・515・519・520 と、外周部が幅約1cmの低い高台状の2者がある。さらに後者は高台状の外周部に調整を施す物 514 と不調整の物 516ー518 がある。514・518 には底部穿孔があり、518 は外面から 14mm の 514 は両面から 12mm の孔があけられている。

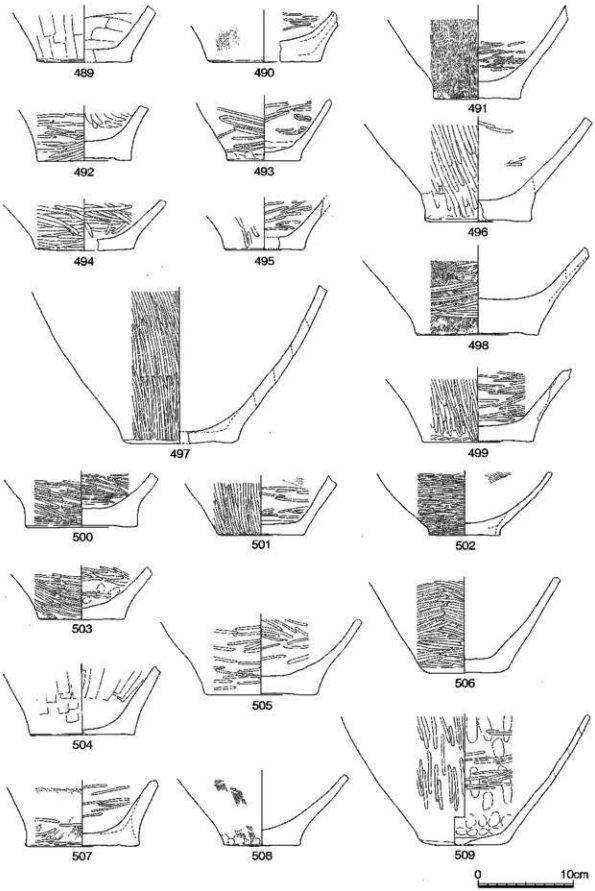
甕の紋様は沈線紋の間や下位に山形紋や傘形紋を施すもの 444ー446 がある。444 は多条の沈線紋の下位に山形紋がある。445 は沈線紋間に傘形紋が、446 は山形紋がある。

459ー462・466 は鉢である。459 は直口口縁の鉢と見られ、端部に面を持たせている。外面はヘラミガキであるが、内面は口縁部付近がナデ仕上げされている。460 は口縁部を緩く短く外反させている。461 は薄くした口縁部を「く」の字近くに折り曲げ、端部には面を持たせている。466 は断面逆台形で水平の口縁部は外側をわずかにつまみ出している。

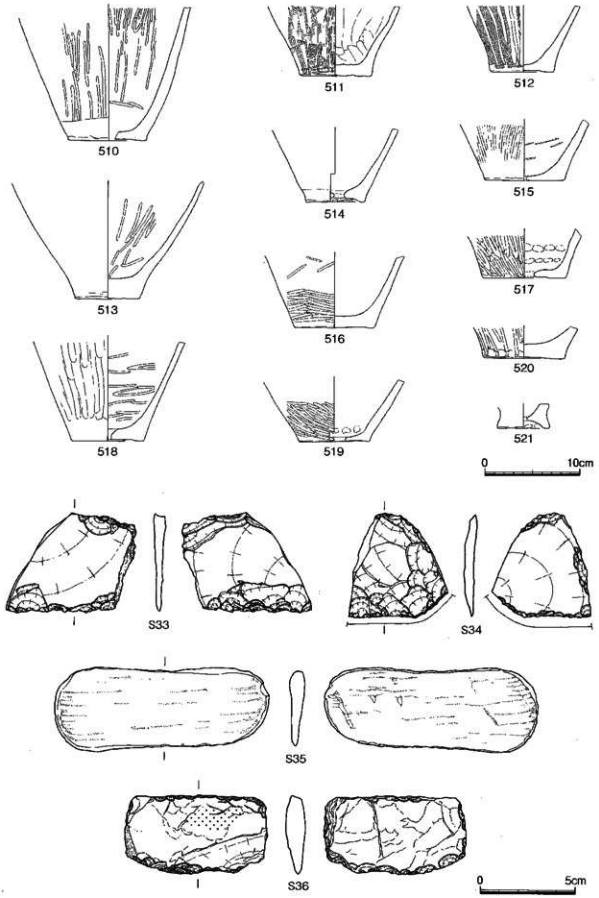
467ー474 は蓋である。467 は蓋の小片で、上端部に沈線が1条残っている。468 は頂部付近の中心からややずれた位置に直径6mmの円孔がある。頂部をはさんで2孔あったものと見られる。469 は小型の蓋で、中央部が小さく円錐形に高まり、頂部に直径3mmの円孔が上からあけられている。470 は蓋の口縁部小片で、内面は端部から 2.7cm までが黒化している。471 はほぼ完形の蓋で、頂部には2分岐したつまみが付くと思われる。472ー474 には外面にヘラ描き紋様が施されている。472 は4重圏線、474 は3重圏線と3本の縦線、478 には2重圏線と3本の縦線がある。

455 は弥生押中期前葉の甕で、器壁は薄く整緻に焼き上がっている。「く」の字に折り曲げた口縁部の内面もヘラミガキしている。456 は弥生中期中葉の甕である。「く」の字に曲げた口縁部は、端部をわずかに肥厚させている。465 は弥生中期の筒形土器の口縁部片で、口縁部下に竹管状の刺突を雑に押している。475 は弥生中期後葉の深鉢型の高杯で、脚部上端に細い沈線が3条以上引かれている。これらの土器は混入と思われるが、検出漏れの遺構があった可能性もある。

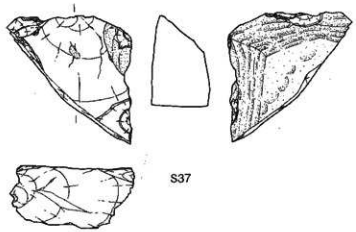
石器は蛤刃石斧・石庖丁・叩き石・磨石など16点が出土している。S40 は蛤刃石斧中間部の破片である。蛤刃石斧やその未成品・製作剥片が大量に出土したライフケアセンター地点でも、ハンレイ岩製の未成品や剥片が出土していないので、この石斧は搬入品と見られる。石庖丁 S36 は細部調整により刃部を形成し、体部に一部研磨を施している。S42 は、扁平で基端部が狭くなる蛤刃石斧が、短くなって使用に耐えられなくなったため、叩き石に転用されている。両主面・側縁には線状の打撃痕が、基端面と刃部には円形の打撃痕がある。なお、刃縁は使用により面を持ち、打撃による剥離のため元々の刃面もなくなっている。S41 は扁平な自然石を利用した叩き石で、側面に線状の打撃痕がある。S39

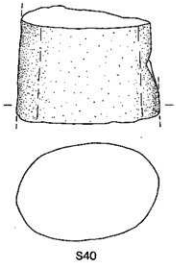

489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
0
10cm

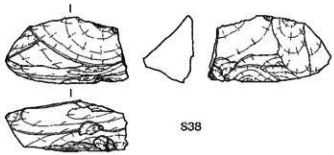
第57図 SD94(6)

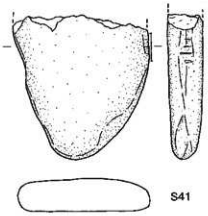

510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
0
10cm
S33
S34
S35
S36
0
5cm

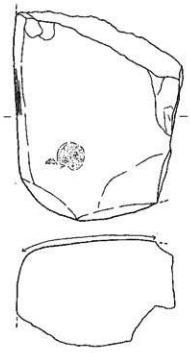
第58図 SD94(7)

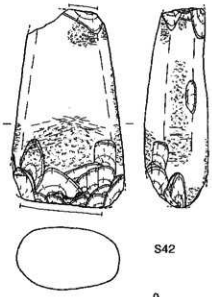




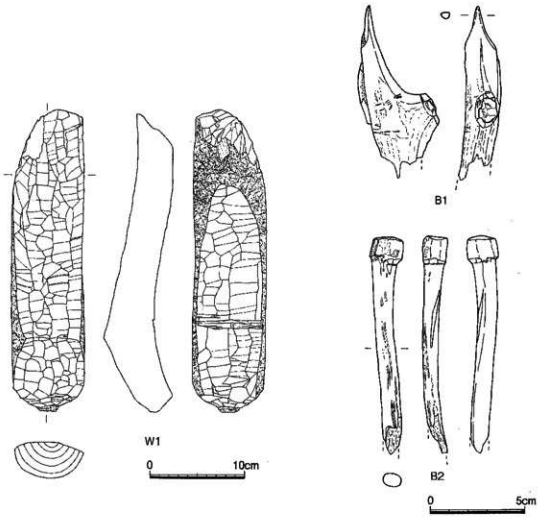








第59図 SD94(8)



第60図 SD94(9)

は自然礫を利用した磨石で、表面のみ磨耗による光沢持つ。S35 は片岩製の石庖丁で、刃縁・背部は中央でやや内湾し、両側縁は丸い。刃部中央に刃こぼれ状の痕跡があり石庖丁とした。S33・S34 は刃部に細部調整を施した剥片で、S33 は刃縁に S34 は刃部に摩滅が認められる。刃部に摩滅が見られる剥片が6点あり、もとは1点が大型石庖丁、他が石庖丁である。S38 は大型板状剥片を素材とした石核で、表裏両面に素材面が残っている。S37 は石核の調整剥片で、表面は自然面である。

木器は1点出土している。W1は針葉樹芯持ち材をつかったさじ未成品で、上面は柄のカーブの頂点から身の先端側を、下面は身の底部に頂点を残して山形に削っている。身と柄の境部分には上からの切れ込みを入れていて、未加工部分には樹皮が残っている(図のスクリーントーン部分)。身側の小口には丸木材からの切断痕跡が、柄側の小口には立木の切断痕跡が残っている。

骨角器は2点出土している。B1は鹿角の分枝部分を利用した刺突具で、先端2cm ほどを角の取れた断面三角形状に削りだしている。B2も鹿角製品で、残存する端部には頭部を作り出している。

このほか、シカ・イノシシの下顎骨・四肢骨など 42 点が出土している。

SD145(第 51・61ー70 図)

調査区中央を北東に弧を描きながら北西-南東に横切っていて、長さ 17m分を検出している。また、この延長は一部、立会調査区でも確認している。上面は幅 3.6m、底面幅 1ー1.8m、深さ 75ー90cm

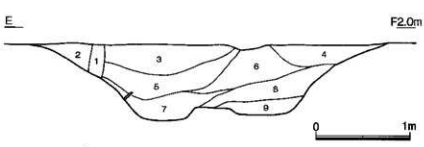
で、断面形は上に大きく開く逆台形である。断面図作成地点付近では底面は中央に幅40cmほどの土手をはさんで両側が幅50～80cmで深くなっている。この地点の前後の底面外側が長さ4.3mほどで溝状になっている。土層断面で見ると内側に1度掘り直しが行われた結果と思われる。掘り直し前の溝は全体としては平底の底面で、部分的に先に見たような溝状の部分を底面外側よりに持っていたと考えられる。掘り直し後の底面近くを細溝状に幅を狭める点は**SD94**と共通している。出土物には弥生前期の壺・甕・壺と、土製品や石器・動物骨がわずかにある。中期初頭の土器がわずかに入る点は**SD94**と同様と考える。

壺は、段・沈線なし・小条の沈線紋・多条の沈線紋・削出突帯・貼付突帯・口縁端部沈線・口縁部内面突帯・ヘラ描き紋様などの特徴を持つ物がある。**533**は外反する口縁部に対向して1つずつ円孔を持つ。やや長くなった頸部中央に段がある。頸胴部境には沈線が2条ある。**556**は口・頸部境の段を削り出して強調している。どちらも新しい様相を持っている。**543**は大型壺の口縁部片で、面を持った口縁端部には沈線を1条引き、外面の口・頸部境には段がある。また、口縁部内面には突帯を貼り付けている。**523**は口頸部が短く直立気味で、口縁端部に面を持たせているが、沈線紋は施されていない。

530は口頸部が外反し、口縁端部と頸部に1条の沈線紋を施している。**579**は胴部肩部に1条沈線紋を回し、その下位に3重弧紋を施している。**580**は胴部肩部の段の下位に1条沈線紋を追らせている。**541・578**は大型壺で、**578**は胴部上半片と思われ、頸・胴部に1条沈線がある。**541**は口縁部小片で、緩く外反させた口縁部は端部に面を持たせて、口縁部下に段状の沈線が1条ある。

526は口縁部が短く外反し、端部を丸く収めている。頸部は直立気味で、胴部上部には2条の沈線紋があるが、3条となる箇所もある。沈線紋はヘラミガキによりつぶされている部分もある。プラント・オパール分析資料5である。**522**はハの字形の頸部に短く外反する口縁部がつき、端部は丸く収めている。口・頸部境に1条、頸胴部境に2条の沈線を引いている。**577**は胴部片で肩部に2条の沈線紋をめぐらし、沈線紋上位に4重以上の重弧紋を配している。**529**は短かく外反する口縁部を持ち、端部はやや広めの面を持つ。沈線は屈曲部に太くしっかりと施紋されている。**582**は頸・胴部境の2条沈線の下位に孤紋を施紋している。**583**は胴肩部の2条沈線紋の下位に3本1単位の山形紋をヘラ描きしている。

539は外反する口縁部に対向して1つずつ円孔を持つ点は**533**と同様であるが、**533**ほど頸部は伸びていない。頸部中央には沈線紋が3条ある。**524**は口縁部屈曲部に沈線紋を3条施しているが、上の1条は部分的である。口縁端部はやや広めに面を作っている。**536**は口・頸部端の段を沈線で強調



第61図 SD145(1)

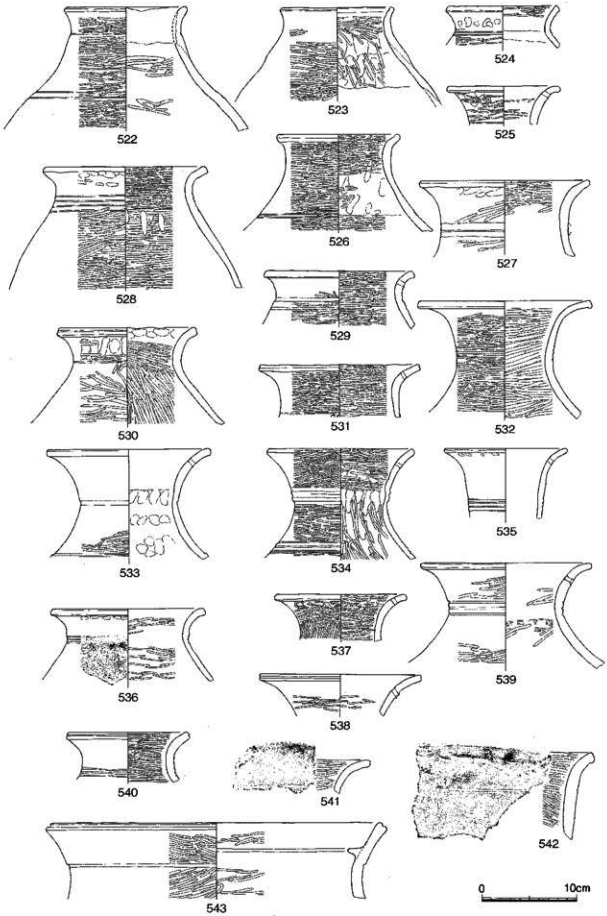
し、さらにその下に２本の沈線を追加している。横位の沈線下位には縦位の沈線を４条引いている。581 は壺の頸・胴部片で、胴部肩部に３条の沈線紋がある。571 は胴部片で、肩部の段の下には沈線を３条巡らせ、沈線下位には間隔は不明だが３本の縦沈線で区画し、区画内には綾杉紋を施している。540 は口縁部が強く外反し、口縁端部に１条、頸部に３条沈線を引いている。528・532・574 には沈線が４条ある。528 は短く外反する口縁部を持つ壺で、口縁端部は端面をもつ。口縁部下には４条の沈線紋がある。532 は頸部が細く伸びた壺で、水平近くまで外反した口縁部は端部に面を持つ。頸部には沈線紋が４条引かれている。574 は胴の張った壺で肩部には２条以上の沈線紋を引いている。

削出突帯には SD94 と同様にＡ・Ｂがある。554・564・567・568・570・596 は削出突帯Ａを持つ壺である。554 は外反する口縁の壺で頸部には２条の削出突帯がある。567 は頸・胴部境と肩部に削出突帯がある。568 は頸・胴部片で、頸・胴部境に３条の低い削出突帯をめぐらせている。570 は頸・胴部片で、頸・胴部境に２条の削出突帯Ａが、肩部に２条の削出突帯Ｂがある。596 は大型壺の胴部上半片で、肩部に幅１㎝の広い削出突帯を１条めぐらせている。534 は頸部に２条、胴部上半に３条の削出突帯を持つ。口縁部外面に刷毛状の圧痕がある。582 は頸部下端に２条の削出突帯がある。586 は頸部下端に３条の削出突帯があり、上の突帯には逆三角形の刺突が施されている。535 は細長い頸部に短く水平近く外反する口縁部のつく小型の壺である。頸部には３条の削出突帯がある。574 も肩部に削出突帯を施しているが、条数は不明である。プラント・オパール分析資料２である。564・569・572・580・584・585 は削出突帯Ｂを持つ。569・580・610 は肩部に１条の削出突帯があり、564 はプラント・オパール分析資料３である。585 は胴肩部に４条の削出突帯を施している。572 は胴部上半の破片で、中位に５条の低い削出突帯があり、肩部には断面三角形の刻み目突帯を１条貼り付けている。584 は肩部に削出突帯が５条ある。

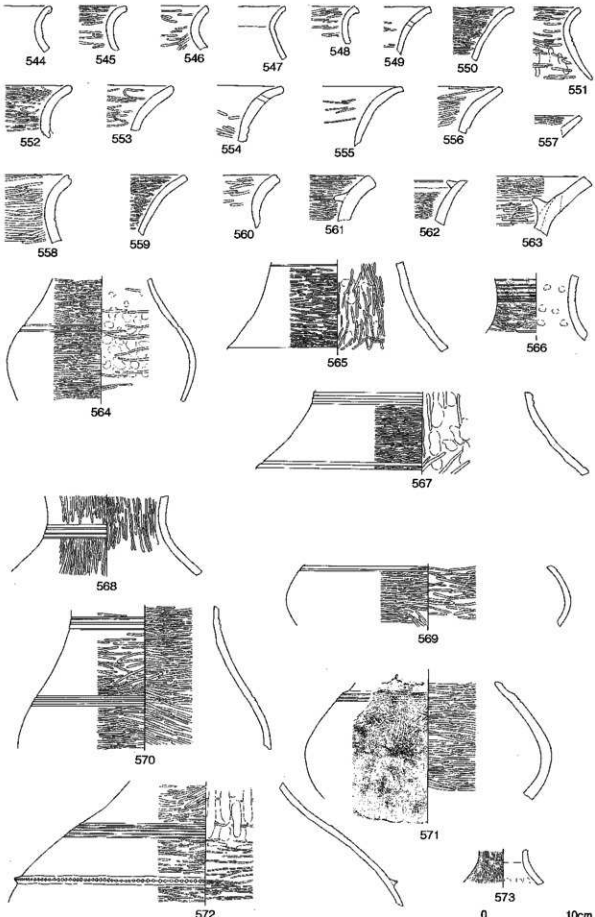
貼付突帯には刻み目突帯(576・591・594)・指頭圧痕紋突帯(595)・指づくね貼付突帯(592)・突帯下沈線(527・552)などがある。595 は小型の壺で、口縁部と底部を欠く。上に開きながら伸びる頸部下端には２条の刻み目突帯を貼り付け、球形に近い胴の肩部には沈線紋を４条ヘラ描きしている。594 は頸・胴部境に高さのある刻み目突帯を貼り付けている。591 は肩部にやや高さのある刻み目突帯を貼り付け、その上位に横位の沈線紋間に綾杉紋を施している。施紋は浅いが、部分的に赤色顔料が残っている。595 は胴部上半の小片で、頸・胴部境には指頭圧痕紋突帯を貼り付け、肩部には削出突帯がある。592 は小型壺胴部片で、胴部最大径部分に指づくね貼付突帯[4]がある。527・552 は短く外反する口縁部をもち、頸部は短く直立する。頸部中央には１条の沈線紋があり、上から貼られた突帯がはがれ落ちている。

530・538・540・543・558 には口縁端部に沈線が１条施されている。543・561・562・563 には口縁部内面に突帯が貼り付けられている。壺の紋様には円形の刺突紋やヘラ描き紋が見られる。531 は口縁部が強く外反し、頸部の沈線紋間には円形刺突が施されている。また、口縁部には小孔２が１組ある。593 は頸・胴部境に４条の沈線紋を引き、沈線間に円形押捺紋を施している。583 は山形紋、577 は重弧紋、571・591 は綾杉紋がある。

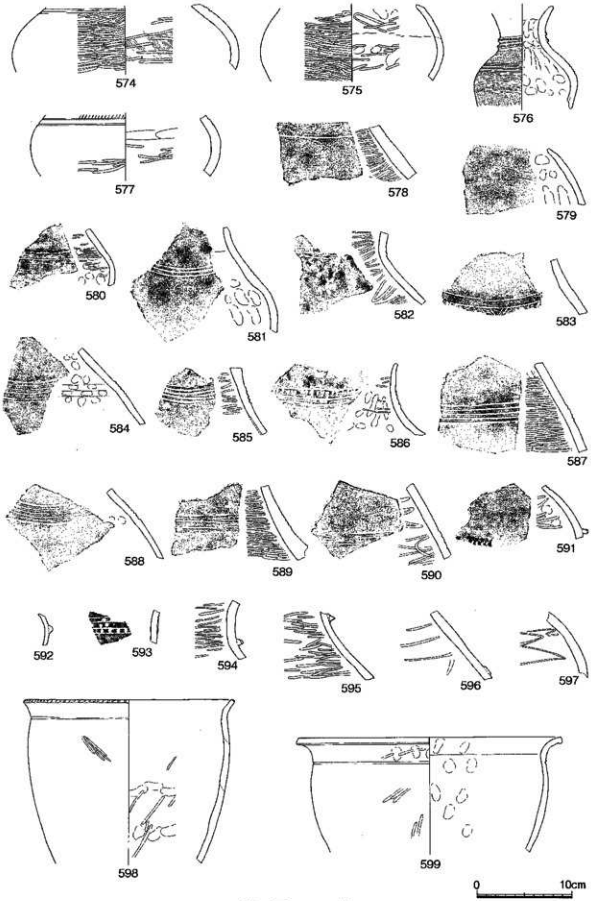
壺底部は１．平底(645・647・648～653・655・656・658～668・670～689・691・693・694・697・698・701～703)、２．外周高台状で、調整があるＡ(644・657・696・699)と不調整のＢ(646・649・654・669・690)とがある。702 は６×９㎜ の楕円形に両面穿孔されている。672 は沈線が３条あるが全周せず、部分的である。


522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
0
10cm

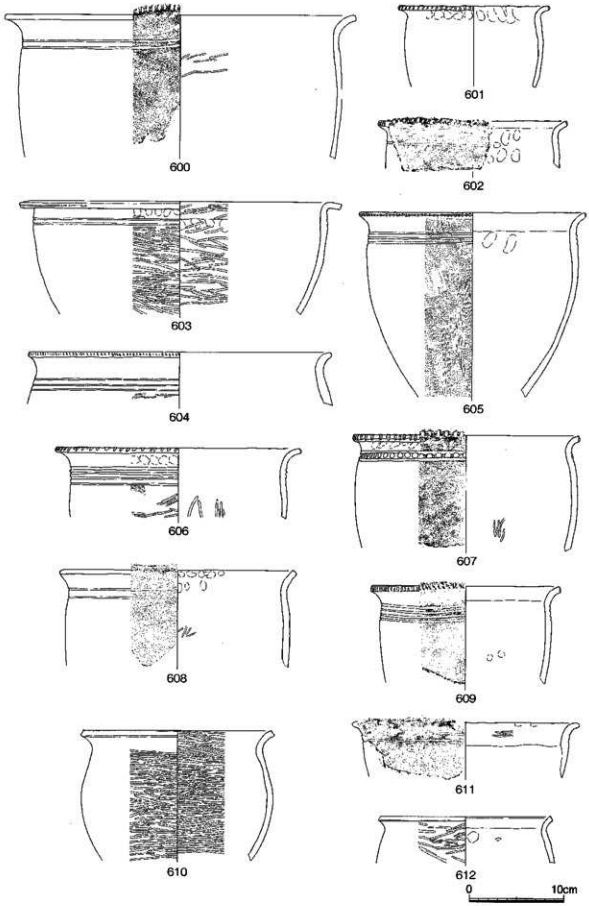
第62図 SD145(2)


544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
0
10cm

第63図 SD145(3)


574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
0
10cm

第64図 SD145(4)



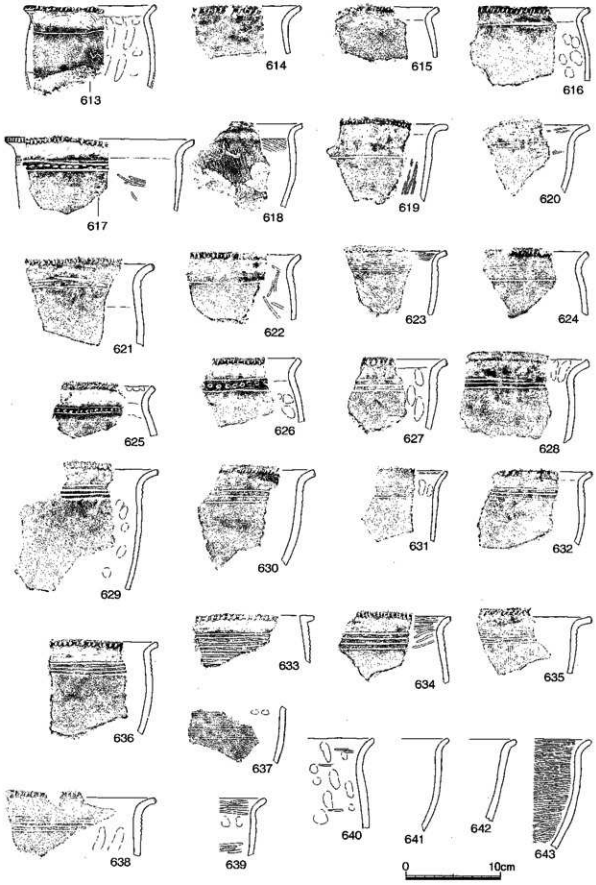
第65図 SD145(5)

甕は、口縁下に沈線を持たないもの、1－4条の少数沈線を持つもの、5条以上沈線を持つもの、L字状口縁のものなどがある。601・612・614・615・639－643は口縁部下に沈線紋を持たない。どれも口縁部の外反度は緩く、641・643が端部を丸く収め、612は面を持たせている。614は強く外反した口縁部を持ち、端部は尖り気味で下端側に大きめの刻み目を施している。601・615は口縁部を短く外反させ、細くなった端部に刻み目を施している。618は短く外反させた口縁部を持ち、内外面とも粗いハケメ調整を施している。胎土は精良で、表面の仕上がりはなめらかである。639は口縁部を短く外反させ、丸みを持たせた端部には刻み目を施さない。屈曲部外面を強く押さえている。642は短く外反させた口縁部で、端部には丸みがあるが刻み目はない。640は大型の甕で口縁部は緩く外反している。刻み目は施していない。

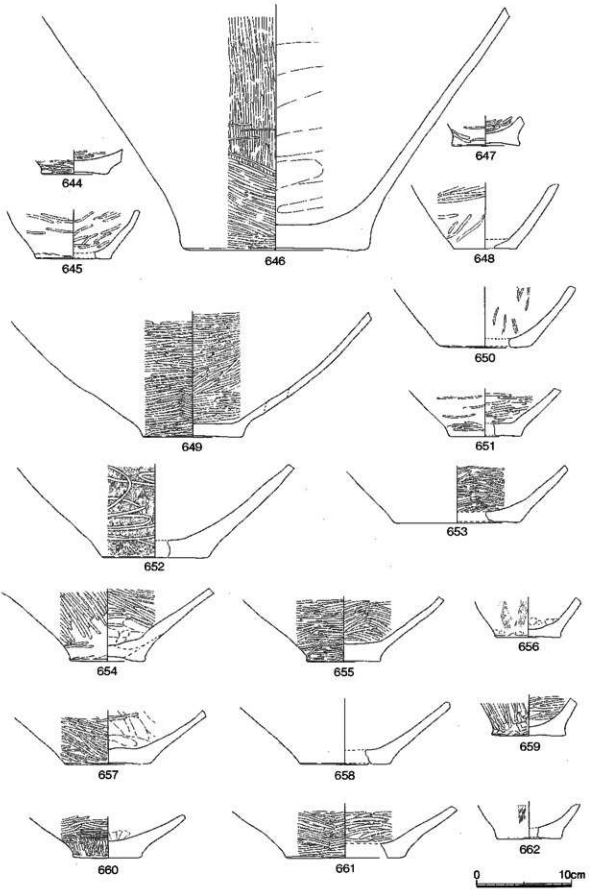
542・598・599・602・616・619は口縁部下に1条の沈線を持つ。598・611は直下に沈線があるが、599・602・619と順に離れていっている。口縁部も611は短く外反し598は外反度が緩いが、599・602・619と外反部が長くなり、外反の度合いも増す。560は端部に面を持つ。598・599は被熱により赤変し硬化している。542は大型甕で、短く外反した口縁部は端面を持つ。616は強く「く」の字に曲がる口縁部で、丸みを帯びた口縁端部は下端よりに刻み目を密に施している。沈線紋は屈曲部に強くひかれている。600・603・607・608・617・620－626は口縁部下に2条の沈線紋をめぐらしている。600は口縁部を強く外反させ、面を持たせた端部には太めの刻み目を施す。沈線紋は屈曲部よりやや下にある。603は大型の甕で、口縁部は短く強く水平近くまで曲がり、端面を持っている。プラント・オパール分析資料1である。607は沈線紋間に工具により円形状の刺突を施している。短く外反させた口縁部の端面には上下全面にわたり太い刻み目が施されている。608は口縁部の外反が緩く、端面を持つものの刻み目は施されない。沈線紋は屈曲部にある。623は口縁端部に面を持ち、外面及び口縁部内面は粗いハケメ調整されている。617・624－626は沈線紋間に刺突紋がある。624は沈線紋間に楕円形の竹管状の刺突がある。

604・605・627－629・630－632は口縁部下に3条の沈線紋がある。604・605は緩く外反させた口縁部は端部が尖り気味で、幅の狭く小さな刻み目が施されている。628はやや大型の個体で、口縁端部にしっかりとした面を持つ。631の口縁部も端部が尖り気味であるが、外反度はわずかである。沈線紋は、605はしっかりしているが604・631は浅い。627は短く外反させた口縁部の端部はしっかりとした面を持ち、下端よりにやや大きめの刻み目を施している。629は強めに口縁部を外反させ、面を持たせた端部に刻み目を施している。口縁部直下の沈線紋は太くしっかりとしており、3条の削出突帯状にしている。プラント・オパール分析資料4である。630は短く外反させた口縁部は端面を持ち、端面下半に細い刻み目を密に施している。沈線紋は屈曲部直下にある。被熱により赤変している。632は短く外反させた口縁部を持ち、尖り気味の端部には下端よりにまばらに刻み目がある。沈線紋は屈曲部の直下で、3条は接近している。606・609・634・635・636は口縁部下の沈線紋が4条ある。606は強く外反させた口縁部を持ち、端部全面に太い刻み目を施している。609は緩く外反した口縁の端部には下端よりに強く刻み目が施されている。634の口縁端部はやや丸みを持たせ、細い刻み目が施されている。沈線紋は太くしっかりとしている。被熱により赤変している。屈曲部直下の沈線は太くしっかりとしている。口縁部以下の外面には煤が付着している。636は口縁部が短く外反し、端部下半に刻み目を施す。沈線紋は屈曲部よりやや下にある。635は口縁部を強く外反させている。

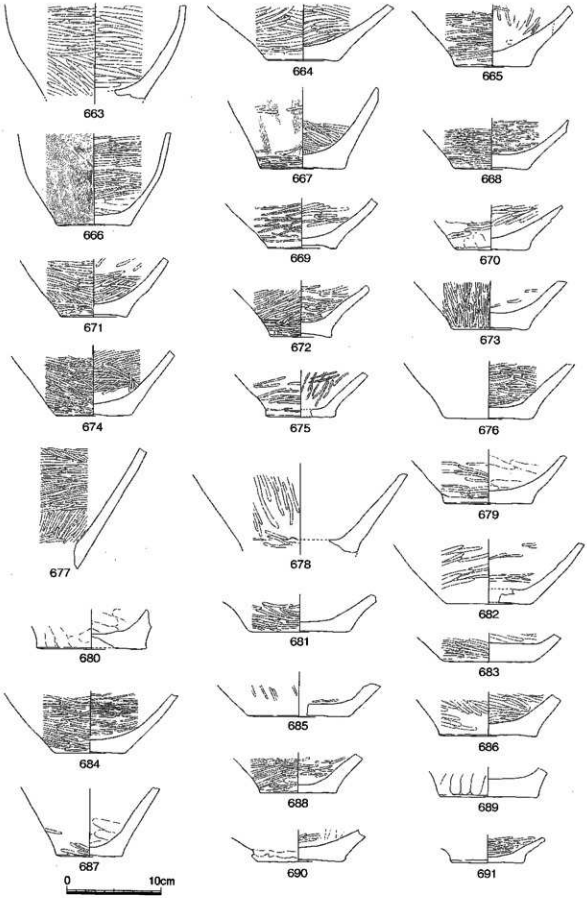
638は口縁部下に5条の沈線紋がある。外反させた口縁部の端部に刻み目を施し、その下端部にも


613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
0
10cm

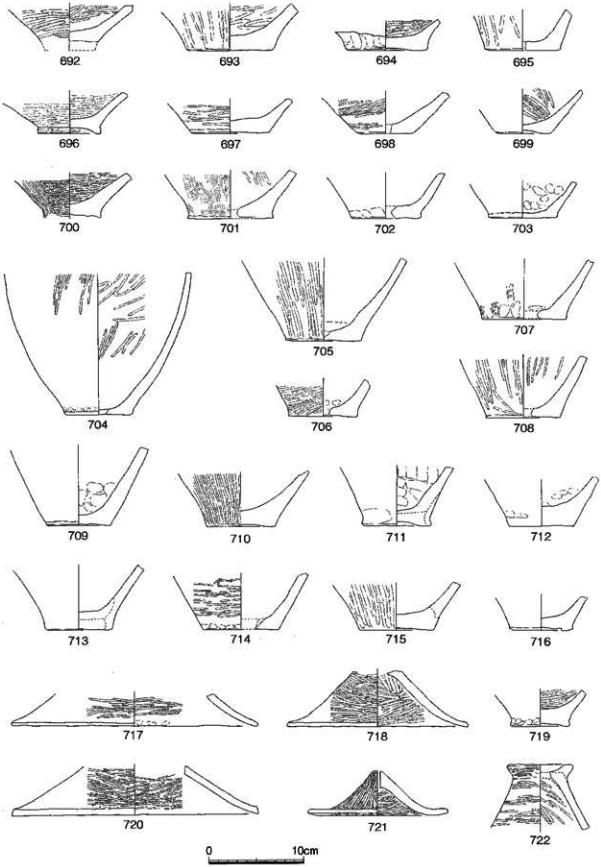
第66図 SD145(6)


644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
0
10cm

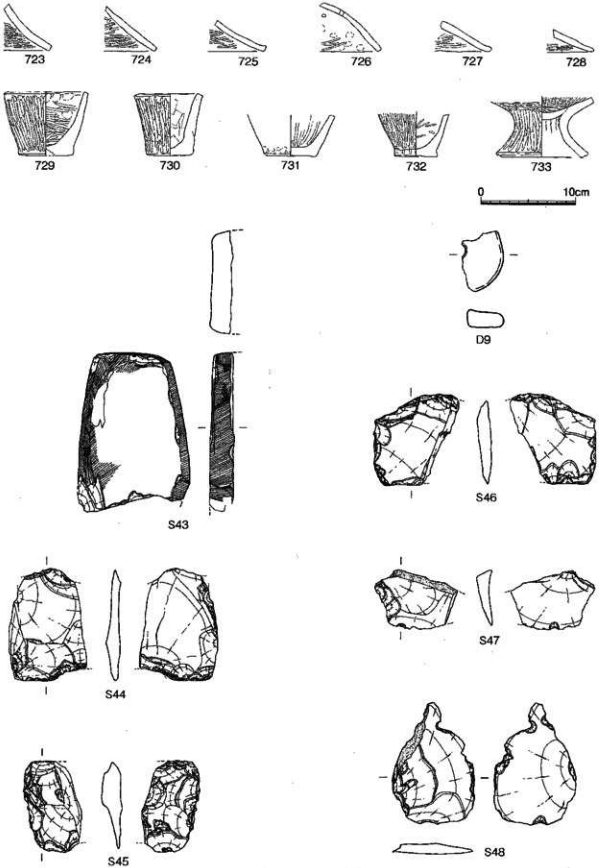
第67図 SD145(7)


663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
0
10cm

第68図 SD145(8)


692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
0
10cm

第69図 SD145(9)



第70図 SD145(10)

沈線紋を1条めぐらせている。口縁部下の沈線下には縦方向の沈線が4条ある。633 はL字状口縁の甕で、口縁部が短く端部全面にわたり太い刻み目が施されている。口縁部下の沈線紋は8条以上ある。

647・695・704ー716・719 は甕の底部で、711 をのぞき平底である。707 には穿孔がみられる。

610 は胴部上半にふくらみを持つ鉢で、外反した口縁端部には面を持たせている。717・718・720ー728 は壺・甕の蓋である。721 は高さ4.8cm 口径15cm の壺蓋で、頂部には直径5mm の円孔が外側からあけられている。717・720 は大型の蓋で、717・723ー725・728 は口縁部内面が黒化している。726 は浅い鉢を伏せたような蓋で、口縁部からやや離れて小孔がある。729ー731 は手づくねの鉢である。732 はミニチュアの壺である。733 は弥生中期の短脚高杯の脚部である。混入と思われるが、検出漏れの遺構があった可能性もある。

石器は柱状片刃石斧・石匙など6点が出土している。S43 は柱状片刃石斧の基端部側の右側面が擦理に沿って薄く割れた破片で、後主面に抉りがわずかに残っている。S48 は小さなつまみを有する石匙で、左側縁・下縁・つまみ部下縁の刃部には摩滅があり、背部にも擦切石器と似た摩滅が観察される。S46 は裏面の刃部に摩滅がある。S45 は背つぶし加工のある厚手の剥片で、S47 は表面の稜に摩滅が認められる。S44 は細部調整の施された剥片である。

土製品は紡錘車が1点出土している。D9は直径約4.6cm 厚さ8mm の紡錘車1/4 ほどの破片である。

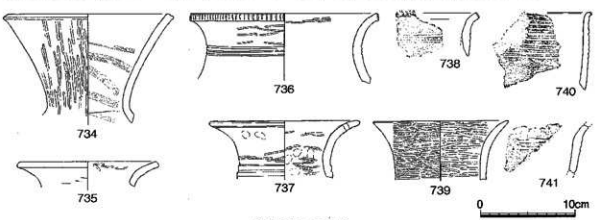
SD152(第51・71図)

調査区北東端でわずかに検出している。北側の肩は調査区外のため、幅は不明である。また、深さや堆積状況についても追求できなかった。検出部分で、長さ6.2m幅1.7m深さ1mである。

出土物は弥生前期の壺 734ー737・739・甕 738・740・741 がある。737 は頸部にしっかりとした削出突帯Aがあり、736 は面を持った口縁端部に刻み目が、口縁下には3条の沈線紋がある。甕の沈線は 738・741 が2条で 740 が9条で、口縁部は貼り付けではなく折曲げである。ほかに加工痕のある剥片が1点出土しているが、表面が白く風化しており、包含層などからの混入の可能性がある。

SD11(第72・73図)

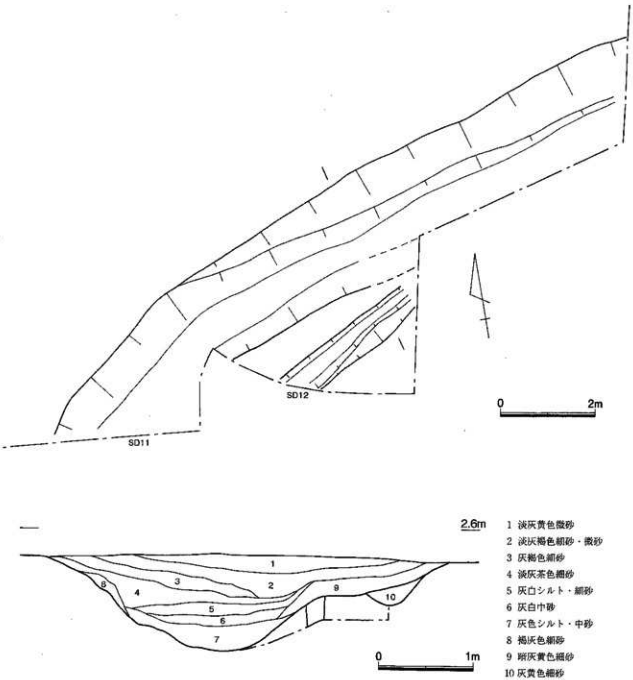
SD11 は調査区南端で長さ 16.5m分検出している。南側の掘り肩は大半が調査区外であるが、中央部で部分的に検出している。東側3/4は北東ー南西方向に直線的であるが、3/4 地点から南に曲がっていくようである。このことは、立会調査区では延長部分を検出していないこととも合致する。断面形は底面が丸底で、上に大きくひらき、南側は中位で段がある。幅は上面で4.25m、底面で0.6ー1mである。埋土は下層の6・7層に中砂が入っているが、それより上層では安定的であった。



第71図 SD152

出土物は弥生前期土器・中期土器・須恵器・土製品・石器などがあるが、大半は弥生中期土器である。須恵器は古墳後期末の杯や甕などがあるがいずれも小片で、図示できない。

742 は緩く外反する壺口頸部で、水平に近い口縁端部は幅 1.8cm に拡張させている。口縁部外端には刻み目を施していないが、頸部には刻み目突帯を２条貼り付けている。**743** は広口短頸壺で、幅 1.4cm の口縁部に２条の沈線紋とへら状工具による斜めの圧痕紋を施している。**745**ー**748**・**750** は弥生前期壺の底部片である。外底面は平らな **747**・**748** と外周部がやや高くなる **745**・**746**・**750** があり、**746** は外周に沿って強めになでられている。**744** は口縁部を上方に折り曲げた甕である。幅 12mm の口縁部に

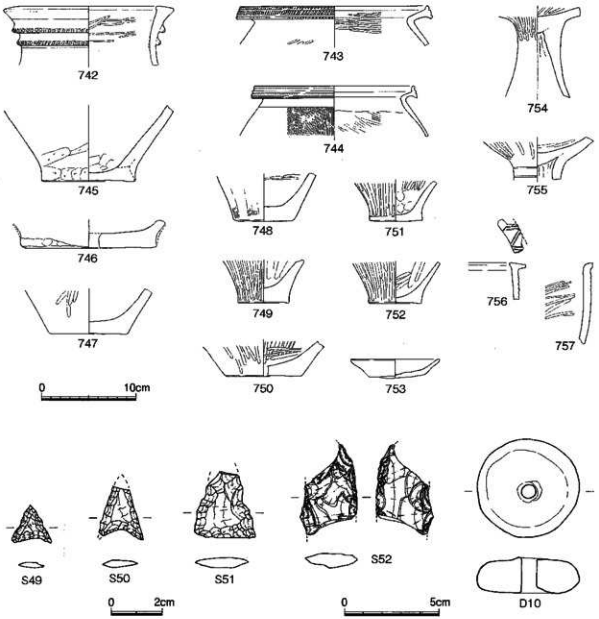


第72図 SD11・12(1)

は３条の凹線紋を施している。胴部上半は内外面ともハケメ調整である。**756・757** はL字口縁の甕で、口縁下の沈線は **757** が６条、**756** が８条以上ある。**756** の口縁部上面には２本単位で山形紋がへら描きされている。**749・751・752** は甕底部片である。外面のヘラミガキは **751・752** が下端部でナデ消されているが、**749** は消されていない。**754・755** は高杯脚部上端部片で、**755** には２条の沈線紋がめぐっている。

土製品は紡錘車が１点出土している。**D10** は直径 5.4cm 厚さ 1.9cm の土製紡錘車で、中央に直径７mm の小孔がある。１面は小孔の周囲に欠損も見られるがほぼ平らで丁寧にナデられているが、他面は小孔の周囲に粘土の盛り上がりが残され、指押さえが残っている。使用時の上下を意識したものかもしれない。

石器は石鏃・打製石剣などが 10 点出土している。石鏃は４点あり、いずれも薄手の剥片を素材と



第73図 SD11・12(2)

している。S49・S50は凹基式で、S51は平基式で側縁の中央がくびれる。S52は打製石剣の先端よりの破片である。厚みに差ができたり、側縁が不揃いであるなど丁寧には作られていない。このほか、柱状片刃石斧の細片、扁平片刃石斧の細片が各々1点出土している。使用痕のある剥片も3点出土し、いずれも元は石庖丁と考えられる。

この溝の時期は出土物には反映されないが、平安時代後半と考えられるSD12を切っているので、平安時代後半から鎌倉時代であろう。

SD12(第72・73図)

SD11に切られていて、調査区中央で部分的に長さ4mほどしか検出していない。立会調査区で延長部と思われる溝を検出している。これがSD12の延長とすると、北東から南西に延びる溝となり、次に記述するSD13に平行する。断面形はかまぼこ形で、幅45ー80cm深さ30cmである。埋土は灰黄色細砂で流水堆積である。

土器は完形の土師器小皿のほかは小片が数点出土したのみである。753は底部をヘラ切りした小皿で、板状圧痕が付いている。ほかに柱状片刃石斧の細片が1点出土している。

この溝の時期は小皿753の1点からではあるが、平安時代後半であろう。

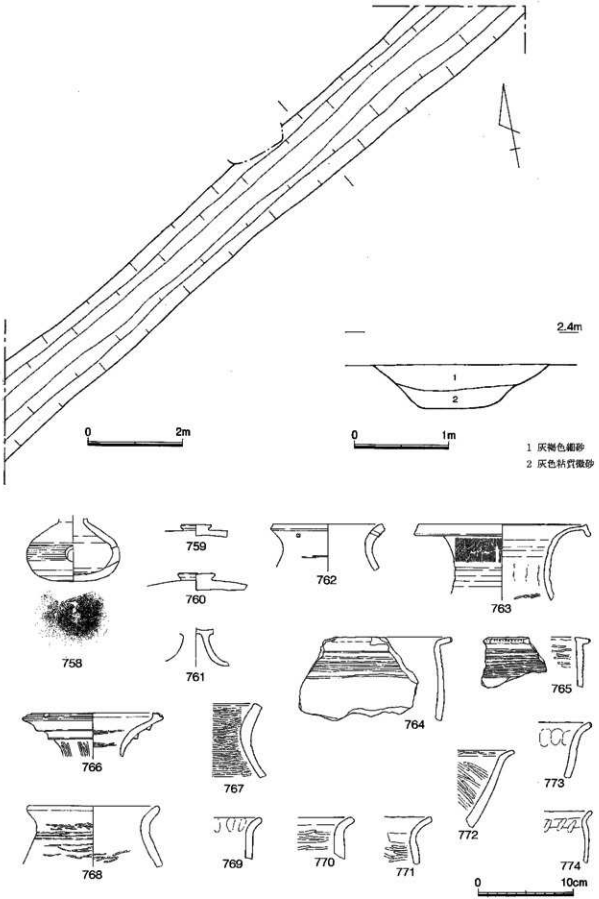
SD13(第74ー76図)

北東から南西方向にほぼ直線的に延びる溝で、立会調査区でも延長部分を確認している。断面形は上に大きく開く逆台形で、場所によっては段の付くこともある。幅は上面で185cm、底面で80cmである。埋土は上下2層に分かれるが、いずれも流水を示していない。

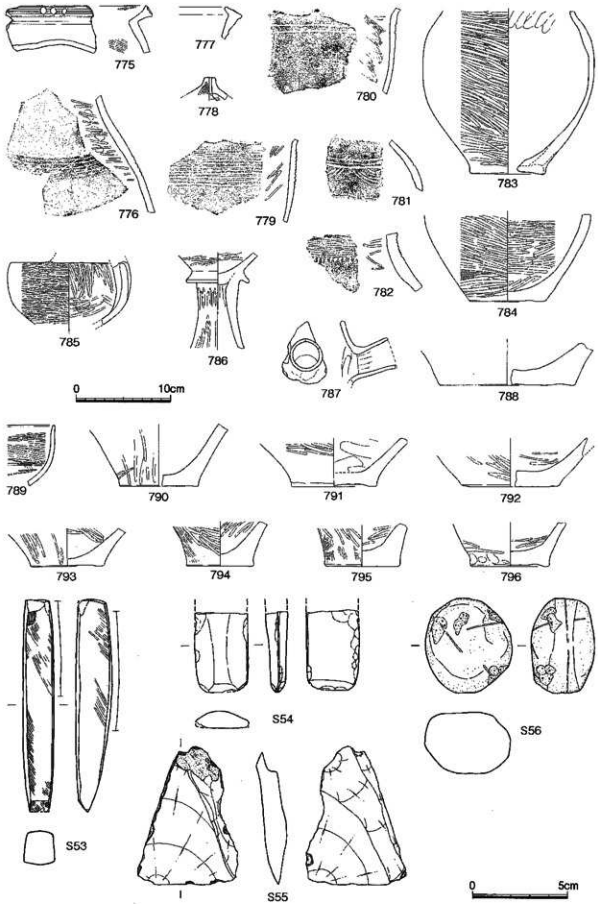
出土物は弥生前期土器・中期土器・須恵器・石器・動物骨などがあるが、大半は弥生中期土器である。須恵器は古墳後期ー奈良時代の甕758、高杯761、蓋759・760などが出土している。

弥生土器は壺・甕・高杯・蓋・杓子形土器などがある。763は口縁部を下方に拡張させた広口壺で、直立気味の頸部には凹線紋が現状で3条確認できる。766は口頸部が大きく外反する壺で、口縁端部は幅1.2cmで内側に拡張させ、端面に2条の凹線紋を施している。口縁部下には断面三角形の貼付突帯を2条施している。775は短頸広口壺の口縁部片で、1.2cmに拡張させた口縁端部には2条の凹線紋と、配置は不明だが3個1単位とした円形浮紋が貼られている。777はは口縁端部を上方に拡張させた壺口縁部片で、端部を幅4cmとし凹線紋を5条施している。782は壺の頸胴部小片で、頸部には多条の沈線紋を施し、沈線下にはへら状工具による刺突を密に施している。762・767・768・775・777・781・783は弥生前期土器である。783は壺の胴部で口縁部を欠く。底部には直径2cmの円孔があり外部から穿孔している。768は口縁部が短く外反する壺で、口縁端部は丸く収めている。頸部には沈線紋を3条めぐらせている。762ははは頸部を外反させた壺片で、口縁端部に面を持たせ、口縁部下には内側から直径4mmの円孔をあけている。767は大型壺口縁部片で、緩く短く外反した口縁部は端部に面を持つ。口縁部下には1条の沈線紋をひいている。781は壺胴部片で、肩部に3条の沈線と沈線下に5条の重弧紋を施している。776は壺胴部上半に5条の削出突帯Bをめぐらす。790ー796は壺底部片である。外底面は794・795が平底で、796が上げ底気味である。788・794・795は胎土中の粗い砂粒が目立ち、788は赤褐色の鉱物粒を多く含む。764・765・769ー774・780は弥生前期甕で、口縁部下に沈線を持たない769ー772、1条の773、2条の780、多条化した764・765・779がある。765はL字状口縁である。774は小型甕で指頭圧痕が顕著で手づくね風である。

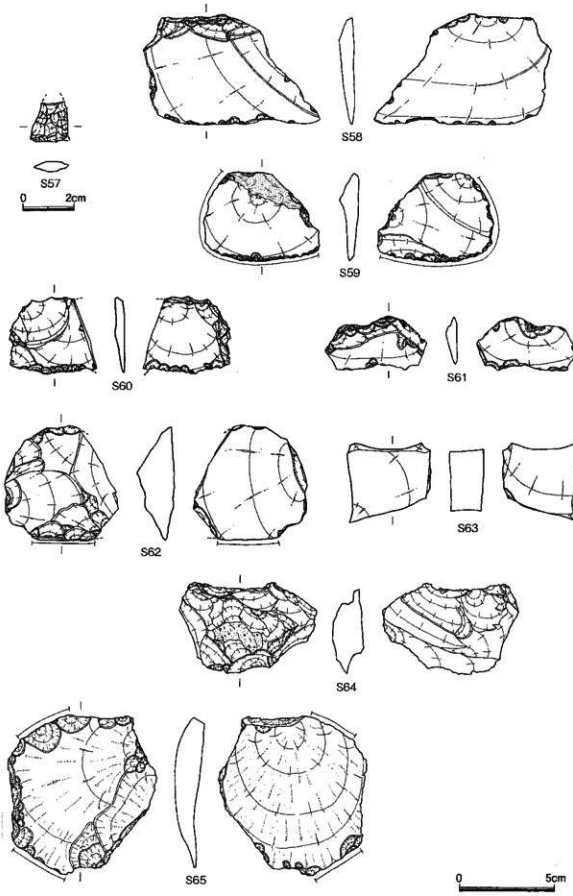
786は深い椀形の杯部を持つ高杯の脚部片で、杯部との境に強くつまみ出して傘形に開く突帯を貼


2.4m
1
2
0
2m
0
1m
1 灰褐色細砂
2 灰色粘質細砂
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
0
10cm

第74図 SD13(1)


775
777
778
780
783
776
779
781
782
784
785
786
787
788
0
10cm
789
790
791
792
793
794
795
796
S53
S54
S55
S56
0
5cm

第75図 SD13(2)



第76図 SD13(3)

り付けている。**789** は深椀形の高杯口縁部片で、口縁下部には凹線状のヨコナデを施している。**787** は注口付高杯の注口部片である。注口部は口径 3.5cm 長さ 3cm である。

778 は小型の蓋の頂部片で、円錐形状につまみ上げられた頂部には上から直径 5mm の円孔があけられており、紐通しと考えられる。**785** は縦杓子形の土器片で、口径・深さは不明であるが、折損部から幅 3.5cm 厚さ 1.8cm の把手が付いていたことが分かる。内外面とも丁寧にヘラミガキ仕上げされている。

石器は 16 点出土している。**S53** は大振りの小型方柱状石斧で、刃部中央には擦理に沿った大きな刃こぼれがある。刃面にはごくわずかにふくらみを持たせ、裏は基部中央から深く当てている。**S54** は小さな自然礫を利用した扁平片刃石斧で、前主面と刃部のみ研磨している。石鏃は平基式 **S57** が 1 点出土している。薄手の素材を利用し、裏面には素材の階段状の剥離が残っている。**S56** は円礫の側面に幅 1cm の溝(ほとんど窪まないので紐掛かり)をつけた石錘である。叩き石の転用ないしその逆の可能性もある。**S55** は厚手の素材を元にした剥片で、刃部に顕著な摩滅が見られる。**S58** は薄手の横長剥片を素材としたスクレイパーで、裏面の周縁付近は摩滅が見られる。スクレイパー**S59** も細部調整を施した刃部周囲が摩滅している。剥片 **S60**・**S61** にも刃部付近や稜に摩滅が認められる。石核は 2 点ある。**S64** は小剥片を不規則に剥離し、わずかに表面には自然面が裏面には素材面が残っている。**S63** は表裏に素材面が残っていて、大型板状剥片を素材としたことが分かる。**S62**・**S65** は蛤刃石斧製作時の剥片を素材とした石器で、刃縁は摩滅が顕著で刃縁上部の表面も摩滅がみとめられる。ほかに大型石庖丁 1 点・使用痕のある剥片 2 点・加工痕のある剥片 1 点が出土している。

この溝の時期は、**SD11** と同様に出土物では明確に反映されていない可能性がある。**SD11**・**SD12** や南方(国体開発)遺跡で検出した平安時代後半から鎌倉時代の溝と同時期と考えておきたい。

5. 柱穴

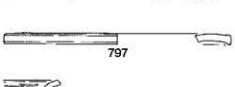
柱穴は 214 基検出していて、全遺構の大半を占めるが、土器が出土してある程度時期の判断の付く柱穴は限られるため、ここでは図示可能な遺物の出土した 39 基に絞って記述する。

SP14(第 77 図)

調査区の北西部に位置し、**SK69**・**SP147** を切る。長軸 57cm 短軸 46cm の平面楕円形で、深さは 23cm である。長軸沿いの南よりに直径 15cm の柱痕跡を確認した。埋土は柱痕跡が灰色微砂で、埋め土が褐灰黄色微砂・細砂である。土器は中期の壺・甕の小片・細片ばかりである。**798** は短く外湾しながら屈曲する口縁部を持つ甕である。屈曲部内面には明瞭な稜がある。口縁端部の残存はわずかであるが、端面は拡張していない。**797** は広口壺の口縁部片で、下方に拡張させて幅 1cm にした端部中央をヨコナデしている。この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

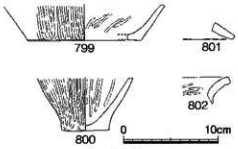
SP15(第 78 図)

調査区の北西部で **SP14** の北東に位置し、**SP147** を切る。平面は直径 70cm の円形で、深さ 25.6cm である。埋土は灰黒色微砂である。土器は弥生前期・中期の小片ばかりが出土している。**800** は甕底部片で、内外面ともヘラミガキ仕



第77図 SP14

上げされているが、外面は下端部に部分的なナデが見られる。799 は壺の底部片で、大変作りが薄い。内外面ともヘラミガキ仕上げしている。802 は口頸部が外反する壺の小片で、口縁端部は角の取れた面を持つ箇所と丸く収めている箇所とがある。口縁部下には条数は不明だが沈線紋がひかれている。801 は小型の蓋と見られる。

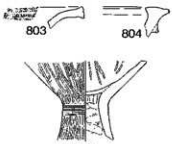


第78図 SP15

この柱穴の時期は、図示できていないが口縁部を内側に拡張して幅1cmにした、小型で杯部の浅い高杯片が出土しているので、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP24(第79図)

調査区の中央部北よりで、SH141 の東 SK87 の西に位置し、ほかの遺構との切り合いはない。平面はほぼ円形で、直径 45×50cm 深さ 63cm、埋土は褐灰色細砂である。出土物は弥生中期土器小片ばかりである。壺 804 は水平口縁の両端部を拡張させ、幅 2.5cm にしている。外端部に刻み目を施し、頸部には刻み目突帯を1条以上貼り付けている。803 は広口壺口縁部片で、幅 1.3cm に拡張させた端部には1条の凹線紋の上から、浅いが密にへら状工具による圧痕紋を施している。高杯 805 の脚部上端には細い沈線が6条引かれている。

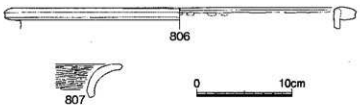


第79図 SP24

この柱穴の時期は弥生中期後葉である。

SP25(第80図)

調査区の中央部北よりで SP24 の南に位置し、SH141 を切る。直径 52cm 深さ 17.3cm で、埋土は褐灰色細砂である。出土した土器は壺や甕の小片ばかりである。806 は三角形の貼付口縁を持つ甕である。貼付口縁は幅 2.3cm 厚さ 1.4cm としっかりしていて、水平に張られている。また、上面・下面とも丸みを帯び、端面にはしっかりとした凹線紋を持つ。色調は赤みを帯びた茶褐色を呈し、金雲母を含む特徴的な胎土で、南九州系の土器である。外面から口縁部内面 1.5cm のあたりまで煤による黒化が見られる。直接接合しないが、同一個体と思われる胴部片が2点ある。807 は大きく外反する口頸部を持つ甕である。端部は丸く収め、口縁下には1条以上の沈線がある。



第80図 SP25

この柱穴の時期は外来土器からではあるが弥生中期中葉と考えられる。

SP26(第81図)

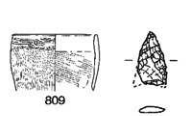
調査区の北西隅で SK72 の北で SK71 の西に位置し、SK167・SD145 を切る。平面形は円形で、直径 65cm 深さ 46.2cm あり、埋土は褐灰色の微砂である。土器は端部幅を 8mm に拡張させた甕の小片 808 が出土している。ほかには弥生前期・中期の小

第81図 SP26

片ばかりで図示できる個体がない。この柱穴の時期は決め手には欠くが弥生中期であろう。

SP27(第82 図)

調査区の北西隅で SP26 の南に位置し、SK72 を切る。平面形は円形で、直径 57cm 深さ 29cm で、埋土は褐灰色微砂である。土器は弥生中期の小片ばかりで図示できる個体がほとんどない。809 は杯部深椀形の高杯ないしコップ形土器の口縁部片である。内外面ともハケメ調整であるが、口縁端部付近はヨコナデ仕上げであるが、外面には部分的にヘラミガキも見られる。外面口縁部直下の凹線紋は見られない。S66 は薄手の剥片を利用した打製石鏃で、左右のかえりを欠くが浅い凹基式と思われる。

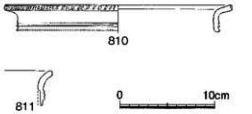


第82図 SP27

この柱穴の時期は小片からで決め手に欠くが弥生中期である。

SP30(第 83 図)

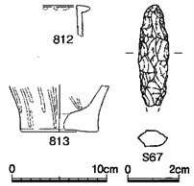
調査区の南西隅で SK114 の北に位置し、SD94 の南肩を切る。平面形は 45×50cm の楕円形気味の柱穴で、深さは 25.3cm あり、埋土は褐灰色細砂である。810・811 は口縁部を短く外反させる甕である。811 は丸く収めた端部の下端よりに刻み目を施し、口縁部下には幅 1 cm の削出突帯Aに2本の沈線を引いている。下部は粘土接合部で剥落している。810 は口縁部が「く」の字に近く屈曲し、面を持たせた口縁端部の全面に刻み目を施している。口縁部下には3条以上の沈線紋がある。弥生前期の土器とともに弥生中期土器細片が出土しており、この柱穴の時期は弥生中期と考えられる。



第83図 SP30

SP31(第 84 図)

調査区の南西部で SP30 の北東で SK97 の西に位置し、SD94 を切る。直径 40cm 深さ 35.1cm で、埋土は褐灰色細砂である。土器は小片が一つかみほど出土したにすぎない。812 はL字状口縁を持つ甕の口縁部小片である。口縁部下には単位数は不明だが、4条1単位とした櫛描直線紋が施されている。813 は甕の底部片で、底面の厚さが 2cm と分厚い。底面中央には直径 1 cm の円孔を両側からあけている。全体に被熱による硬化が見られる。S67 は細長い凸基2式の打製石鏃で、厚手の素材を使い石鏃としては大きな側縁調整を行っている。



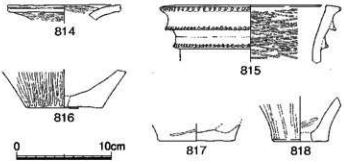
第84図 SP31

この柱穴の時期は細片からではあるが弥生中期と考えられる。

SP35(第 85 図)

調査区の中央部から南西部にかけてに位置し、SK96・SK97 を切る。平面形は 75×63cm の楕円形気味で深さは 5 cm と浅い。埋土は褐灰色細砂である。遺物は弥生前期・中期土器片が出土している。815 は口縁端部外端と頸部突帯に刻み目を施す壺である。口縁端部は外側に拡張させていて、内側は直下

のナデのため拡張気味である。814 は外反する口縁の壺で、口縁端部には沈線紋を1条施しているが、部分的にヘラミガキによりつぶされている。口縁部内外面はヘラミガキであるが、外面は荒く調整の及ばない箇所がある。817は壺底部片で、外底面にモミ？の圧痕がある。816 は壺仕上げ底部片で、外面のヘラミガキは下端にまである。内面は緩やかに立ち上がるため、内底面の平らな部分はわずかと見られる。外底面は外周近くを押さえて窪ませている。818 は甕底部片である。内外面ともヘラミガキ仕上げで、外面は下端に達している。外底面はなでられている。



第85図 SP35

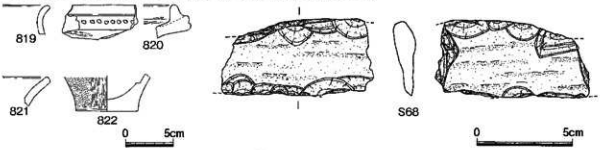
この柱穴の時期は、弥生中期中葉と考えられる。

SP37(第 86 図)

調査区の南西部で SK97 の南西で SK114 の北東に位置し、SD94 を切る。平面形は 86×57cm の楕円形で、深さは 36.8cm である。埋土は褐灰色細砂である。土器は小片ばかりだが、弥生前期土器片とともに中期土器小片が入っている。819 は口頸部が外反する小型の壺の口縁部片である。口縁端部には端面を持たせている。821 は口縁部が緩く外反する壺の口縁部片で、口縁端部は丸く収めている。820 は口縁部内面に突帯を持つ壺である。外反させた口縁部の端面に密に方形の圧痕を施し、高さ 1.5cm 幅 1cm の内突帯は端部を丸く仕上げている。822 は底径 6.6cm の甕底部で、外面はハケメ仕上げである。胎土中の大小の砂粒がよく目立って見える。

S68 は片岩製の磨製石庖丁で、刃部には刃こぼれが背部には背つぶしが認められる。ほかに使用痕のある剥片が1点出土している。

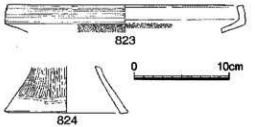
この柱穴の時期は小片からではあるが弥生中期と考えられる。



第86図 SP37

SP38(第 87 図)

調査区の南西部で SP35 の南で SP37 の東に位置し、SK97 を切る。平面形は隅丸方形に近く 70×80cm 深さ 27.9cm で、埋土は褐灰色細砂である。出土した土器は弥生中期の壺・甕の小片・細片がほとんどである。823



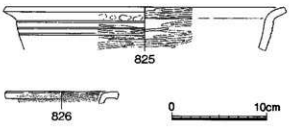
第87図 SP38

は体部から稜を持って垂直近く立ち上がる口縁を持つ高杯である。口縁部外面には5条の凹線紋がある。高杯脚824は端部がほとんど拡張せず、凹線紋も施されていない。

この柱穴の時期は弥生中期後葉である。

SP46(第88図)

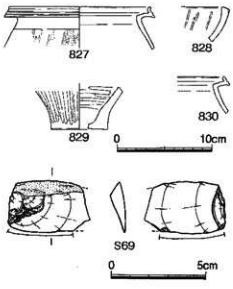
調査区の南西隅でSK114の南に位置する。ほかの遺構との切り合い関係はない。直径35cmの小型の円形柱穴で、深さは32.8cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は弥生中期の壺小片などが10点あまり出土したにすぎない。825は口縁部を短く外反させた甕である。口縁部外面には指頭圧痕が顕著に残り、口縁端部は端面を持たせている。口縁部下には3条の沈線紋がある。826は「く」の字に外反する口縁を持つ壺で、口縁端部には端面を持たせている。口縁部は内外面とも粗いハケメ調整である。この柱穴の時期は、弥生中期と考えられる。



第88図 SP46

SP49(第89図)

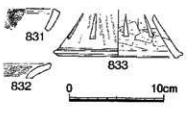
調査区の南西隅でSK48の南に位置し、SP248を切る。小型円形柱穴で、直径28cm深さ20cmあり、埋土は褐灰色細砂である。出土物は弥生中期の壺・甕・高杯がある。827・830は「く」の字口縁の端部を上方に折り曲げ拡張させた甕である。端部には2－3条の凹線紋を施している。胴部上端内面はどちらもナデ調整である。830は被熱による傷みが見られる。829は甕の底部片で、内外面とも下端近くまでヘラミガキが見られ、特に内面は丁寧に仕上げられている。828は高杯口縁部小片で、端部外面にはへら状工具による刻み目状圧痕があり、一部に木目が観察される。このほか図示できていないが、小型の高杯が2点出土している。S69は蛤刃石斧製作時の小剥片を利用した擦切石器で、刃縁の摩滅が著しい。この柱穴の時期は弥生中期後葉である。



第89図 SP49

SP50(第90図)

調査区の南西隅でSK51の西に位置し、SP117を切る。直径33cm深さ12.4cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は約50点出土しているが、細片ばかりで図示できるものは3点しかない。831は無頸壺の口縁部小片で、大変丁寧に仕上げ調整されている。外面口縁部下に櫛描波状紋が施されている。833は高杯の脚部片で、三角形透孔が9－10付けられていると見られる。短く拡張した端部には1条の凹線紋が施されている。他に前期の壺口縁832がある。時期は弥生中期後葉である。



第90図 SP50

SP52(第91図)

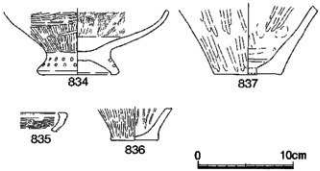
調査区の南西隅に位置し、SK51を切る。平面形は長軸46cm短軸30cmの楕円形で深さ11cmである。埋土は褐灰色細砂で、土器は細片ばかり20点出土している。図示できるものはないが、口縁部下に沈線紋を2条ひく手づくね土器がある。S70は剥片を素材とした石鏃の未成品で、先端を欠失し基部は未調整である。成品は剥片の形状から石鏃中央から先端が厚みを持ち、基部側が薄くなると見られる。

第91図 SP52

この柱穴の時期は、弥生中期中葉から後葉と考えられる。

SP56(第92図)

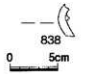
調査区の北東部に位置し、SH53を切る。直径46cm深さ12cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は壺や甕の小片・細片が大半で、約30点出土している。834は台付壺である。胴部下半の調整は、内面がハケメ、外面がヘラミガキである。脚台は高さ2.5cmと低く、外面から直径3mmの刺突が2段にわたって施されているが、1つを除いて貫通しない。上段は21個、下段は22個で、上下の組を意図したようであるが、ずれが生じたようである。脚台端部に面を持たせてはいるが、凹線紋は施されていない。836は甕の底部小片である。外面のヘラミガキは下端部で部分的に浅くなでられている。内面及び外底面もヘラミガキ仕上げされている。837は壺の底部片で、内外面・外底面ともヘラミガキが施されているが、内面には一部ナデも見受けられる。835は口縁端部を内側に拡張させた高杯口縁部片である。外面は剥落しているが、内面はなめらかに仕上げられている。この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。



第92図 SP56

SP60(第93図)

調査区の北西部でSK70・SK138の北に位置し、SD145を切る。直径16cmの小柱穴で、深さ29cmである。埋土は褐灰色細砂である。土器は細片ばかりが13点ほどしかない。838は広口壺の頸部片である。緩い外反部分に断面三角形の小さい突帯を貼り付けている。

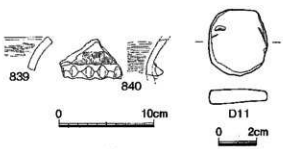


第93図 SP60

この柱穴の時期は、弥生中期中葉から後葉にかけてと考えられる。

SP67(第94図)

調査区の北西部に位置し、SH141を切る。直径45cm深さ41.6cmで、埋土は褐灰色細砂である。出土物は土器細片15点とともに、土製円盤未成品が1点出土している。839は口縁部が外反する弥生前期の壺の小片で、端部に面を持たせている。840は頸部に高さのある指頭圧痕紋突帯を貼り付けている。D11は



第94図 SP67

壺の胴部片を利用した土製円盤未成品である。全周の3/4ほどは円形に加工しているが、1/4は角形に残っている。完成すると直径3.0cmになる。

この柱穴の時期は、壺や甕の細片からではあるが、弥生中期中葉から後葉にかけてと考えられる。

SP68(第95図)

調査区の北部から北西部に位置し、**SH141**を切る。直径66cm深さ54.5cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は細片ばかりで、図示できる個体がほとんどない。**841**は口縁端部に刻み目を施す蓋で、内外面ともヘラミガキされている。

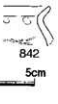
この柱穴の時期は、土器細片からではあるが、弥生中期中葉と考えられる。

第95図 SP68

SP79(第96図)

調査区中央部のやや南よりに位置し、**SP78**・**SP80**に切られ、**SD145**を切る。直径58cm深さ16cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は細片ばかりが一つかみほどしか出土していない。**842**は短く「く」の字に曲がる口縁を持つ鉢である。口頸部の残存幅が7cmほどしかないが、直線的であるので、口径の大きな個体となろう。

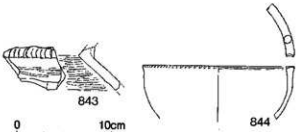
この柱穴の時期は、土器細片からであるが、弥生中期であろう。



第96図 SP79

SP83(第97図)

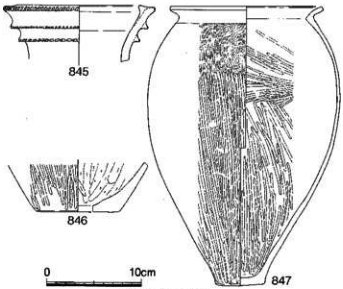
調査区中央部で**SH144**に隣接し、**SP82**に切られる。直径15cm深さ10cmで、埋土は褐灰色細砂である。土器は弥生前期・中期の土器細片がわずかに出土しているだけである。**843**は中・大型の甕頸・胴部小片である。屈曲部には低い指頭圧痕紋突帯を1条貼り付けている。内面はヘラミガキ仕上げをしている。**844**は椀形の高杯で、口縁部は外側にほんのわずかに拡張させている。端面には円形浮紋が1つ残っているが、単位や配置は不明である。口縁部外角には斜め方向の刻み目を施している。内外面の調整は剥落のため不明である。この柱穴の時期は弥生中期と考えられる。



第97図 SP83

SP90(第98図)

調査区北東部に位置する楕円形の柱穴で、**SH53**掘り上げ後に検出している。長さ62cm幅54cm深さ31cmあり、底面からの立ち上がりは急で垂直に近い。上器はほぼ完形の甕が1点出土しているが、他は小片ばかりである。**847**はほぼ完形の甕である。「く」の字に曲がる口縁は端部が拡張していないが、端部直近の内面を



第98図 SP90

強めにナデていて、端部拡張の兆しが見える。口縁部内面は端部から1cm幅で黒化している。胴部下半は熱により表面の剥落が見られ、色調も橙色になっている。**845** は頸部に断面三角形の刻み目突帯を2条貼り付け、口縁部外端にへら状工具による刻みを施す壺で、口縁端部を内外に拡張させ幅18mmにしている。**846** は壺の底部片で、外面のヘラミガキは下端部で部分的にナデ消されている。この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP101(第99図)

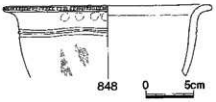
調査区の南西部で **SK97** の北西に位置し、**SD94** を切る。直径35cmの小柱穴で深さは21.6cmある。埋土は褐灰色細砂である。土器は弥生前期の土器が 握りほど出土している。**S71** は小型の石鏃で、左右のかえりを欠いているが、基端線が定まらず未成品の可能性もある。

この柱穴の時期は、土器は弥生前期のものばかりであるが、**SD94** に後出することから弥生中期と考えられる。

第99図 SP101

SP115(第100図)

調査区の南西隅で **SK48** の西に位置し、長さ70cm幅30cmで、**SP245・SP246** を切る。深さは9cmで、埋土は褐灰色細砂である。西側は調査区外となるため不明であるが、浅い土坑となる可能性もある。土器は小片が一握りほどしか出土しておらず、図示できる個体は1点しかない。**848** は弥生前期甕である。口縁部は短く外反させ、丸く収めた端部には小さな刻み目を施している。口縁部下には2条の沈線紋をひいている。外面と口縁部内面の端部付近は黒化しているが、内面の大半は影響されていない。



第100図 SP115

この柱穴の時期は、わずかな小片からではあるが弥生前期と考えられる。

SP117(第101図)

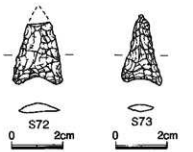
調査区の南西端で **SK48** の南で **SK51** の西に位置し、**SP50** に切られる。平面形は直径35cmの円形で深さは57cmある。埋土は褐灰色細砂である。土器は細片ばかりが一握りほどしか出土しておらず、図示できるものがない。**S72** は薄手の剥片を利用した凹基式石鏃で、先端を欠く。

この柱穴の時期は、弥生中期であろう。

SP119(第102図)

調査区の南西部で **SK51** の北東に位置し、**SP253** を切る。直径43cmの平面円形で、深さは13.4cmと浅い。埋土は褐灰色細砂である。土器は細片が6点出土しているにすぎない。**S73** は薄手の剥片を素材とした凹基式石鏃であるが、横断面形は菱形に近く、両側片はわずかに内湾している。

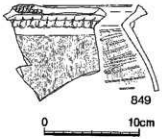
この柱穴の時期は、土器細片からではあるが、弥生中期と考えられる。



第101図 SP117 第102図 SP119

SP120(第 103 図)

調査区の南西部で SK48 の南東、SK51 の北西に位置し、ほかの遺構との切り合いはない。直径 25cm の小柱穴で、深さは 19cm あり、埋土は褐灰色細砂である。出土物は弥生中期土器の小片ばかりで、図示できるものはほとんどない。849 は短頸広口壺の小片で、口縁端部は上下に肥厚させ幅 13mm とし、端面には3条の凹線紋の上からへら状工具による圧痕を密に施している。頸部には指頭圧痕紋突帯を1条貼り付けている。胴部上半の内面はハケメの上から粗いヘラミガキが施されている。



第103図 SP120

この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP122(第 104 図)

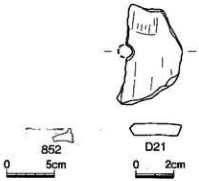
調査区の南西部で SK48 の南東に隣接し、ほかの遺構との切り合いはない。平面形は直径 32cm の円形で、深さは 24cm あって、埋土は褐灰色細砂である。土器は弥生中期の壺や甕の小片が 10 点あまり出土している。850・851 は壺口縁部の小片である。850 は短頸壺で、上方に拡張させた端部にへら状工具による圧痕を施している。851 は小型の広口壺と思われる。端部をわずかに拡張させている。内面の調整はヘラミガキである。

第104図 SP122

この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP123(第 105 図)

調査区の南西部で SK114 の南東に位置し、SD94 の南側に隣接する。ほかの遺構との切り合いはない。直径 30cm 深さ 12cm で、埋土は褐灰色細砂である。土器は小片がわずかに出土している。852 は広口壺口縁部の小片で、上下に拡張させた端部には深くしっかりとした凹線紋が3条ひかれている。D12 は壺の胴部片を利用した直径 5.3cm 厚さ 7mm の紡錘車 1/2 の破片で、小孔は両面穿孔している。外縁部は未調整で、割りの直線部や角が残っている。



第105図 SP123

この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

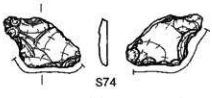
SP130(第 106 図)

調査区北西部で SK71 の南東、SK70・SK138 の北に位置し、SP131・SP132・SP134 を切り SP10 に切られる。平面形は 73×80cm で隅丸の四角形に近く、深さは 26.5cm で、埋土は褐灰色細砂である。土器は約 30 点出土しているが、胴部などの小片ばかりで図示できる個体はほとんどない。853 は短頸壺の口縁部小片である。幅 13mm に拡張させた端部には密にへら状工具による圧痕を施している。図示していないが扁平片刃石斧の基部の可能性がある磨製石器が出土している。この柱穴の時期は、弥生中期と考えられる。

第106図 SP130

SP132(第107図)

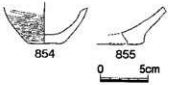
調査区の北西部に位置し、SP130に切られる。平面形は直径70cmの円形で、深さは25cmである。埋土は褐灰色細砂である。弥生中期の壺や甕の小片が出土していて、同一個体と思われる短頸広口壺の破片がある程度あるが、接合・図化には至らない。S74は下縁に刃部加工、左側縁に抉り加工を施している。この柱穴の時期は、弥生中期中葉と考えられる。



第107図 SP132

SP139(第108図)

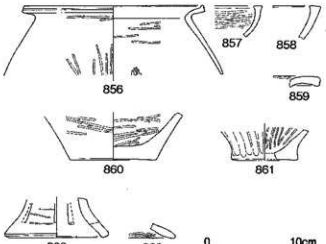
調査区の北西部に位置し、SP4・SP140に切られSH142を切る。平面形は直径58cmの円形ではあるが、隅丸方形にも近い。深さは13cm以上あり埋土は褐灰色細砂である。土器は20点ほど出土しているが、胴部小片ばかりで時期の分かるものはほとんどない。854・855は壺底部片である。854は弥生中期の小型壺で、外面はヘラミガキで内面はナデ調整である。855は弥生前期の壺で、外底面からまっすぐに1cm立ち上がってから大きく開いている。この柱穴の時期は弥生中期と考えられる。



第108図 SP139

SP146(第109図)

調査区の南西部に位置し、SH142を切る。SH142でも記したように、検出はSH142掘り上げ後であったが、土層断面よりSH142に後出することが明らかとなった。埋土は暗褐灰色細砂である。土器は弥生前期・中期土器が大小約70点出土していて、このうち前期土器は1/3位ある。SH142出土土器と接合する破片もある。859はほとんど拡張させない口縁端部に、1条の凹線紋を施す広口壺小片である。内面は横方向にヘラミガキされている。856の甕は口縁端部を上方に拡張させ幅6mmとし、端面に1条の凹線紋を施している。口縁部内面には端部から幅13mmで黒化が見られる。861は底部から1.5cmから上で外に開いて立ち上がる甕で、外面のヘラミガキは下端でナデ消されている。860は前期の壺底部片で、内外面はヘラミガキされているが、外底面は不調整である。857・858は口縁端部をわずかに拡張させる高杯口縁部小片である。857では口縁部下に稜が形成されつつあるが、858には見られない。862は三角形の透孔を持つ高杯脚部片である。脚端は拡張せず、内面はナデ仕上げである。863は蓋用の蓋の小片で、内外面ともヘラミガキされている。

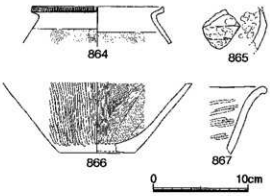


第109図 SP146

この柱穴の時期は、弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP147(第 110 図)

調査区の北西部に位置し、SD145 を切り、SK69・SP14・SP15 に切られる。平面形は直径 65cm の円形で、深さは 41cm で、埋土は暗灰黄色粘質細砂である。土器は小片ばかり約 50 点が出土していて、弥生中期土器が大半であるが前期土器も数点見られる。867 は口縁部をわずかに外反させた弥生前期の甕で、口縁端部には軽く面を持たせてはいるが角は取れている。864 は「く」の字口縁の端部を上方に幅 5mm で拡張させ、端面にはへら状工具による刺突を密に施している。866 は壺の底部片で、外面のヘラミガキは下端部でナデ消されている。865 はミニチュア土器で、甕と思われるが、口頸部がないため壺の可能性もある。

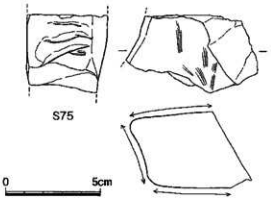


第110図 SP147

この柱穴の時期は弥生中期中葉(新)と考えられる。

SP169(第 111 図)

調査区の北西隅に位置し、SK72・SP128 に切られ SK167 を切る。平面形は 37×56cm の楕円形、深さ 33cm で、埋土は褐灰色細砂である。出土物は石器が 1 点だけで、土器は出土していない。S75 は砥石の小片で、表裏面は平面的に使用され細い線状痕が見られるのに対し、側面は浅いV字形を呈する溝状の使用痕が 3 条ある。

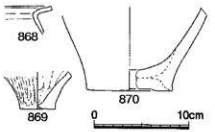


第111図 SP169

この柱穴の時期は、遺構の切り合い関係から弥生中期と考えられる。

SP183(第 112 図)

調査区の北西部で大型土坑群の南に位置し、SP194 に切られ SP210・SP211 を切る。平面形は 44×67cm の楕円形で、埋土は褐灰色細砂である。868 は「く」の字口縁甕の小片で、端部は拡張しない。869 は甕の底部小片で、外面のヘラケズリは下端に及んでいる。870 は大型の甕底部で、底面には直径 15mm の円孔が両面から穿孔されている。器表面は内外面とも被熱により痛んでいる。外底面は外周部分をヘラミガキしている。

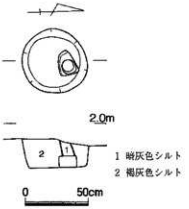


第112図 SP183

この柱穴の時期は、弥生中期と考えられる。

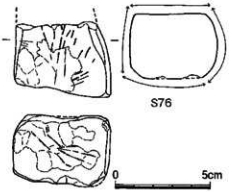
SP191(第 113 図)

調査区の西側で SK69 の南に位置し、SK192 を切る。直径 50cm 深さ 23cm の柱穴で、底部北端には長さ 20cm の平たい礫を礎盤としておいていた。礫上には直径 9 cm の柱根が観察されたが、木質は大半は暗灰色のシルトに置き換わっていて、外側に厚さ 1 mm に満たない薄皮状に残存していた。埋め土は褐灰色細砂である。出土物はないが、この柱穴の時期は、弥生中期であろう。



第113図 SP191

第114図 SP199



第115図 SP216

SP199(第 114 図)

調査区中央部北端で、SK87 の北に位置し、ほかの遺構との切り合い関係はない。直径 46cm 深さ 44cm で、埋土は褐灰色細砂である。出土物は土器細片 12 点と石器 1 点が出土したにすぎない。871 は短頸壺の小片で、口縁部内面を強くなでていて端部が拡張気味である。頸部には直径 3 mm の円孔が内面から穿孔されている。この柱穴の時期は、細片からであるが、弥生中期中葉と考えられる。

SP216(第 115 図)

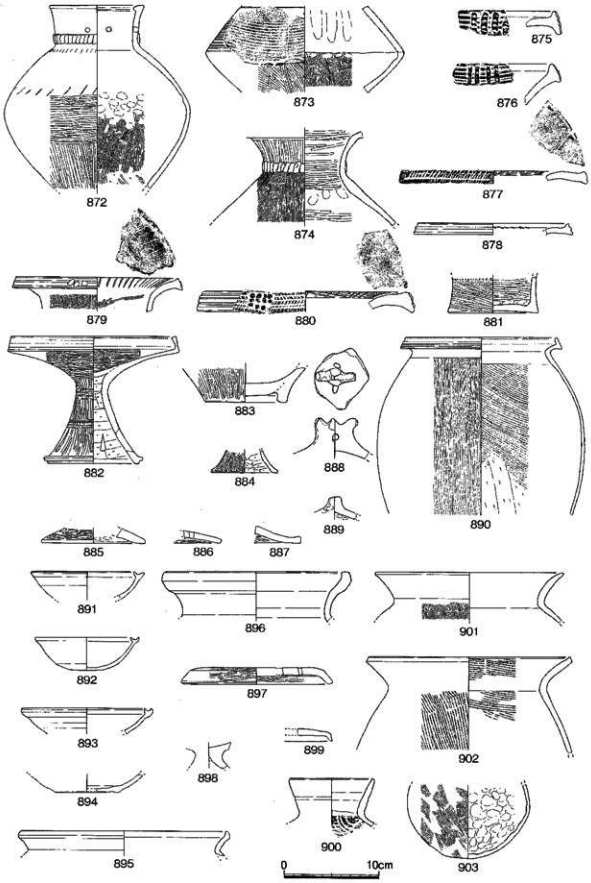
調査区南端に位置し、SH58 掘り上げ後に検出した。SP217 と隣接している。直径 27cm 深さ 26cm で、埋土は褐灰色細砂である。土器は小片ばかりが 10 点出土しているが、図示できるものはない。石器は砥石や加工痕のある剥片、両端に細部調整を施した剥片が出土している。S76 は現存長 3.89cm 幅 5.15cm 厚さ 3.72cm の小型の砥石で、折損部の方が幅が狭くなっている。5 面を使用していて、砥面には工具を立てて付けたような痕もみられる。この柱穴の時期は、弥生中期と考えられる。

6. 包含層

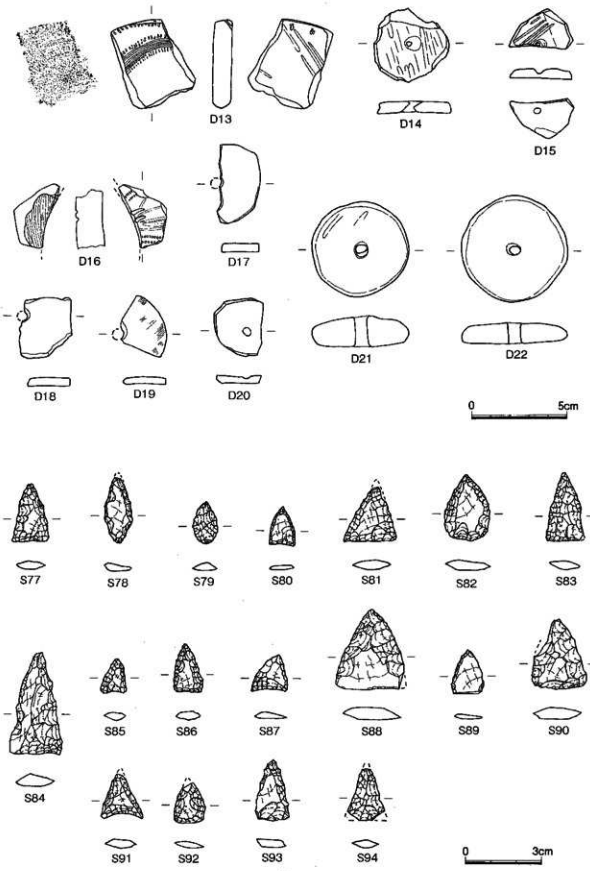
包含層出土物には、弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石器などがある。

872－890 は弥生土器で、直口壺 872 は水平の口縁端部をやや拡張させ、凹線紋を施している。胴部上端には爪形の浅い施紋がある。873 は弥生中期後葉の算盤玉形に胴の張る壺で、肩部に多条の凹線とその上位に斜格子紋を施し、斜格子紋の上位には凹線紋が 1 条確認できる。884 はミニチュア土器の脚台部片と思われる。精良な粘土を用い、作りも薄く焼き上がりもよい。885－889 は蓋で、888 は頂部のつまみに中央と四方とで計 5 つの突起を付け、つまみ下端には横位の円孔をあけている。891－900 は須恵器で、杯身・蓋・壺・短脚高杯などがある。901－903 は土師器甕で、901・902 は口縁部が「く」の字に屈曲する。

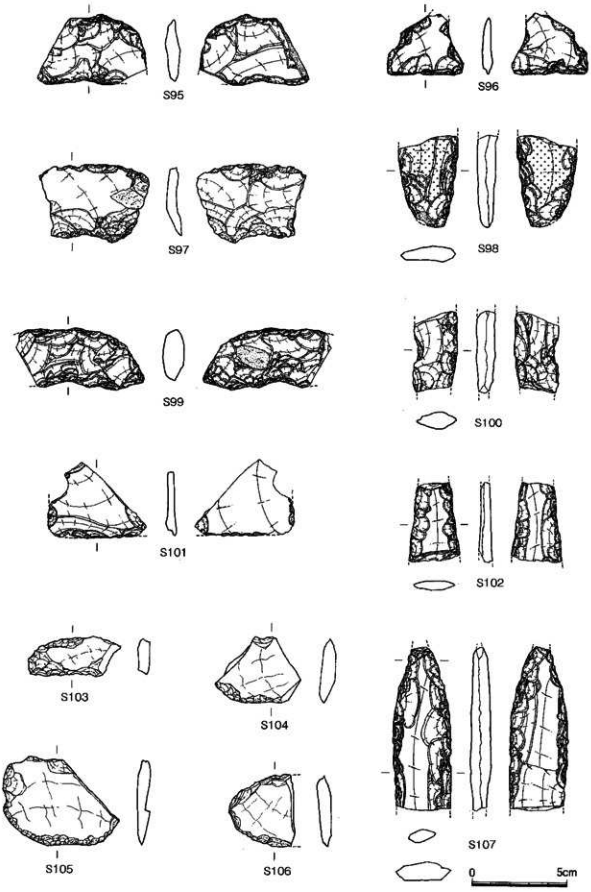
D13 は分銅形土製品の小片で、櫛描弧紋の内外および外縁に小さな円形刺突をそれぞれ 2 列施している。また、端部中央から裏面に向け小孔を約 1 cm 間隔であけている。D16 は分銅形土製品の左側中間部の破片で、表面上部には櫛状刺突が下部には竹管状刺突紋が施され、上部側面には貫通しない穴がくぐれ部には表面から側面へ貫通する穴が 2 つあけられている。D14・D15・D17－D20 は甕胴部片を利用した紡錘車である。D15 は両面から穿孔しているものの、位置がずれていて未貫通で外縁も未


872
873
874
875
876
877
878
879
880
881
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901
902
903
0
10cm

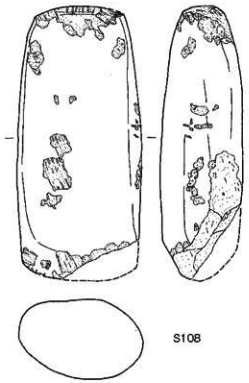
第116図 包含層(1)

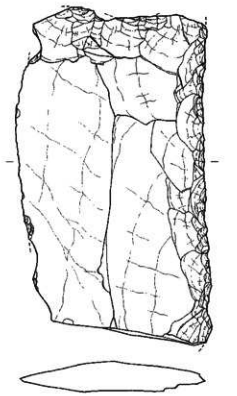

D13
D14
D15
D16
D17
D18
D19
D20
D21
D22
0 5cm
S77
S78
S79
S80
S81
S82
S83
S84
S85
S86
S87
S88
S89
S90
S91
S92
S93
S94
0 3cm

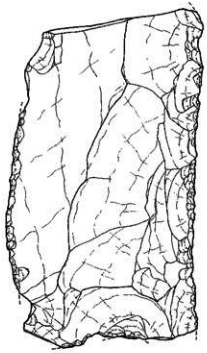
第117図 包含層(2)

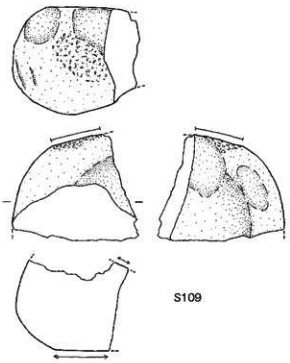

S95
S96
S97
S98
S99
S100
S101
S102
S103
S104
S105
S106
S107
0
5cm

第118図 包含層(3)









第119図 包含層(4)

調整、D20 は裏面からの穿孔途中で外縁も未調整である。D14 はかすかに貫通した状態で外縁は未調整、D18 は小孔は完成しているが、外縁は未調整である。D17 は外縁の調整が施されているが、まだ直線部分や角が残っている。D19 は 1/4 の破片であるが、外縁部の調整も完了している。D21・D22 は土製紡錘車で、ともに SD11 出土の D10 と同様に平坦な面とそうでない面とがある。

石器は 42 点出土し、内訳は石鏃 20・石鏃未成品 2・大型石庖丁 1・磨製石庖丁 1・スクレイパー 1・打製石剣 4・叩き石 1・砥石 1・使用痕や加工痕のある剥片が 12 である。石鏃は 20 点出土している。内訳は平基式(やや内湾気味の物を含む)13・凹基式 3・凸基 1 式 2・凸基 2 式 1・基部形状不明 1 である。長さは S85 が最小で 13.7cm、最大が S84 の 40.8cm、重さは最小が S80 の 0.30g、最大が S88 の 3.53g である。薄手の剥片を素材として、素材面を残すものが大半を占め、自然面を残すもの(S83・S86)もある。また、S110 などのように稜に摩滅を持つものがあり、石庖丁を素材としていたと見られる。S93・S94 は石鏃未成品で、いずれも基部が未調整である。S110 は大型石庖丁で、下縁は素材の板状剥片の縁辺に細部調整を加えた刃部で、表裏とも摩滅が認められる。上縁は体部上半からの剥離により厚みを減じ、端部に細部加工を施し刃部を形成しているが、こちらには摩滅は見られない。S98・S100・S102・S107 は打製石剣である。S98・S107 は基部の破片で、表裏は摩滅が著しく石庖丁の転用である。S102 は先端付近の破片で、薄手の剥片を素材とし表裏とも体部中央に素材面が残る。S100 は厚手の素材を使った幅の狭い打製石剣の基部で、両側縁には研磨が施されているが、二上山の石材とは異なる。S108 は蛸刃石斧の刃部破損品を転用した叩き石である。刃部及び基部には円形の打撃痕、側縁には線状の打撃痕がある。S109 は砂岩製の砥石である。表裏両面を使用しており、残存部から推測すると中央部はかなり窪んでいたと思われる。スクレイパーS105 は刃部に細部調整が施され、表面では摩滅が認められる。左側面には抉りが入れられているが、右側面には自然面が残されたままである。S99 は石鏃の先端部の破片で、表裏の素材面には摩滅が認められる。このほか使用痕や加工痕のある剥片が 11 点あり、刃部や体部が摩滅した物が多い。刃部裏面に摩滅がみられる蛸刃石斧製作時の剥片もある。

註

(1) 平井泰男 1982 「弥生時代中期の土器」『百間川兼基遺跡 1 百間川今谷遺跡 1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 51
(2) 従来、ヒン岩と報告されている。
(3) 岡山市教育委員会 1993 「南方(団体開発)遺跡現地説明会資料」
岡山市教育委員会 1994 「南方(団体開発)遺跡－第二回－現地説明会資料」
(4) 豆谷和之 2002 「眼鏡状浮紋から櫛づくね貼付凸帯へ」『濃瀬戸内海の考古学』

小 結

前期環濠の範囲について

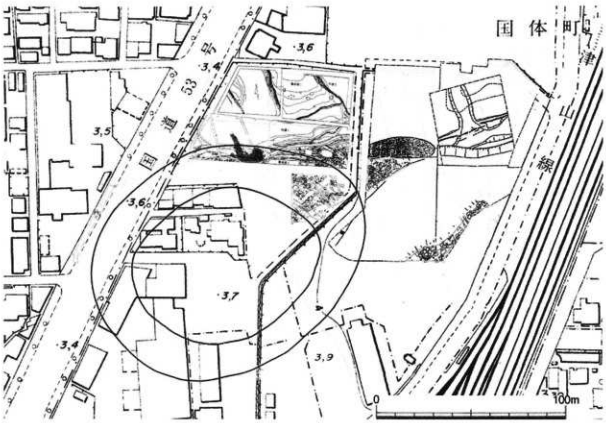
南方遺跡では、今回の調査で弥生前期環濠を初めて検出した。確認できたわずかな部分からではあるが、周辺の調査成果とあわせ環濠の範囲を推定してみたい。

まず、北についてはライフケアセンター建設に伴う発掘調査で、微高地北端と弥生前期から中期の溝群を検出しており、前期の溝はより微高地内側に位置することがわかっている(1)。北端はこの前期溝をとることができる。

東は当地の東に接して南方(国体開発)遺跡として発掘調査がされている(2)。ここでは調査区中央で、奈良時代から平安時代の河道が東西の弥生の微高地を切って検出されている。この東西の微高地が一体のものと考えるのには少々無理があり、もともと流路があったか、微高地間の谷間であったかした所を、後世流路が拡大し弥生微高地を削ったものと考えられる。この点は西微高地の北東で弥生中期後半の溝と堰が存在する点からも裏付けられよう。とすれば環濠の東はこの東西微高地間(平安河道流路内)に求めることができよう。

西については、国道53号を電線地中化に伴って発掘調査が行われ(3)、国道西側では前期の遺構が検出されておらず、環濠の延長は国道敷地内に収まるものと思われる。

南については、調査がされておらず手がかりがない。集落が微高地形状に規定されるとはいえ環濠



第120図 弥生前期環濠範囲想定図

が極端な長楕円形をとるとは考えられず、県下では百間川沢田遺跡[4]や清水谷遺跡[5]のように円形ないし楕円形に近い形状をとるものと考えられよう。

以上の点から環濠の範囲は最大で、環濠外側で120m内側で95m程度(北東－南西方向にはやや長くなる)に復元できるのではなかろうか。

石器について

今回の調査で弥生前期から中期後半までの石器は、蛤刃石斧・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧・磨製石庖丁・打製石庖丁・大型石庖丁・打製石鏃・打製石剣・打製石鏃・石錐・石鍾・石匙・台石・磨石・砥石・叩石・擦切石器・スクレイパー・楔形石器・使用痕のある剥片・加工痕のある剥片など168点が出土した。器種は豊富であるが時期ごとにまとめることはできないので、特徴的な石器について簡単に触れることとする。

それは、蛤刃石斧製作剥片を利用した刃器と擦切石器である。どちらも刃縁に摩滅が認められる。蛤刃石斧製作剥片は、肉眼では刃部の光沢はできないものの(この点は、石材の影響の可能性も考えられる)、顕微鏡下では刃縁の細かな凹凸が確認でき、収穫具などの刃縁に直行した動きが想定できよう。これに対し擦切石器は、サヌカイト剥片や蛤刃石斧製作剥片が用いられ、サヌカイトであっても刃部の光沢は見られない。顕微鏡下では刃縁は細かな凹凸がなく滑らかになっており、刃部に平行した動きが想定できよう。ライフケアセンター建設に伴う調査では、シカの中手骨や中足骨を素材としたかんざしや刺突具が多数出土しており、また、縦方向に分割途中の中手骨・中足骨も見られる。この石器がこうした加工に使用されたことも十分考えられる。

これらの石器の用途については、今後使用痕分析等によって明らかにされなければいけないが、一見の限りでは剥片と片付けられてしまいかねないこれらの石器も、石器組成の中に適切に位置づけられるべきものであろう。

註

(1) 岡山市教育委員会 1996 「上伊福・南方(済生会)遺跡(南方遺田調査区)2」『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1994(平成6)年度』
岡山市教育委員会 1997 「上伊福・南方(済生会)遺跡(南方遺田調査区2)」『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995(平成7)年度』

(2) 岡山市教育委員会 1993 「南方(国体関発)遺跡現地説明会資料」
岡山市教育委員会 1994 「南方(国体関発)遺跡－第二回一現地説明会資料」

(3) 内藤善史 1996 『絵図遺跡 南方遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 110 岡山県教育委員会
岡山市教育委員会 1997「南方(中電)遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995(平成7)年度』

(4) 二宮治夫ほか 1985 『百間川沢田遺跡2 百間川兵谷遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告59 建設省岡山河川工事事務所 岡山県教育委員会
平井勝ほか 1993 『百間川沢田遺跡3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84 建設省岡山河川工事事務所 岡山県教育委員会

(5) 矢掛町教育委員会 2001 『清水谷遺跡< -本本地区>』矢掛町埋蔵文化財発掘調査報告1

南方遺跡から出土した土器のプラント・オパール分析

宮崎大学　宇田津徹朗

1. はじめに

イネ科などの草本やクスノキ科などの木本の中には、土壌中の珪酸(SiO_2)を細胞壁内に蓄積する性質をもつものがある。珪酸の蓄積が進むと、植物珪酸体(silica body)と呼ばれる細胞の形をとどめた珪酸の殻が植物体内に形成される。

植物珪酸体は植物体が枯死し、分解された後も、その形態的な特徴をとどめたまま、土壌中に残留する。これがプラント・オパール(plant opal)である。プラント・オパールはその組成から化学的、物理的な風化に強く、条件がよければ半永久的に土壌中に残留する。プラント・オパールの形や大きさは、由来する植物や細胞によって違いがあり、遺跡土壌などから検出されたプラント・オパールを調べることで、土壌が堆積した期間に存在した植物(給源植物)を同定することができる。中でも、イネ科植物については、葉身中の機動細胞に由来する植物珪酸体(機動細胞珪酸体)から同定できるものが多く、イネなど農耕に関わる植物の同定も可能である。(藤原 1976, 1978)また、耐熱性に優れていることから、焼成温度が低い土器の胎土中からも抽出・同定することも可能である(藤原 1982)。

このようなプラント・オパールの特性を利用して古代の植生や環境、農耕を推定・復元する方法をプラント・オパール分析法という。(藤原ら 1979, 1984, 杉山ら 1986, 1988, 宇田津 2003)

ここでは、南方遺跡から出土した土器について実施したプラント・オパール分析の結果について報告する。なお、今回の分析は、文部科学省の科学研究費補助金による研究課題「縄文時代の稲作マップ作成にむけた実証的調査研究」(研究代表者：宇田津徹朗、研究分担者：田崎博之、外山秀一)の一環として実施したものである。

2. 材料と方法

1)分析試料

今回、分析に供した試料は、南方遺跡より出土した弥生時代前期の土器５点である。

詳しい内訳は以下の通りである(写真１～３を参照)。

試料①：甕、口縁部破片　603（土器番号、以下同じ）

試料②：壺、肩部破片　574

試料③：壺、肩部～頸部破片　564

試料④：甕、口縁部破片　629

試料⑤：壺、頸部～口縁部破片　526

2)調整と分析

分析試料はプラント・オパール土器胎土分析用試料に調整し、定性分析と定量分析を行い、各試料に含まれる各種イネ科植物に由来するプラント・オパールの有無とその密度を明らかにした。

定性分析は、プラント・オパールの有無を調べるものである。また、土器胎土分析法と定量分析法については、以下に概要と具体的な試料調整方法を述べる。

【プラント・オパール土器胎土分析法】

土器は出土遺物の中でも、最も保存・整理が進んでいるものであり、基本的には調査の行われたほ

とんどの遺跡について出土土器が保存されていると考えられる。また、土器には、地域間の年代格差などの問題があるが、その分布と時代の前後関係が比較的よく整理されており、広範囲なフィールドを対象とした調査では重要な試料となる。

プラント・オパールはその組成が珪酸であることから、ガラスとほぼ同じ耐熱性を有しており、800℃以下の温度であれば、溶融することなく原形を保っている。この特性を利用し、焼成温度が800℃以下の土器からプラント・オパールを抽出し、その給源植物を同定することが可能である。この方法はプラント・オパール土器胎土分析法と呼ばれる。イネプラント・オパールはイネの葉身中の細胞に由来するものである。したがって、土器にイネプラント・オパールが含まれていた場合、

・少なくともその土器が製作される以前にイネが存在していた。

・その土器が製作・使用されていた地域内で稲作が営まれていた。と考えられる。

土器胎土分析では、写真1～3に示したように、土器の一部を分析に用いる。これは、分析結果に疑義が出された場合に、再分析(場合によっては、他の研究者によるクロスチェック)を行えるようにするためである。

分析試料の作成は、まず、後代の土壌による土器の汚染を防ぐため、土器を超音波洗浄した後にグラインダー等で土器の表面部分を除去する。その後、付着した粒子を圧縮空気で除き、さらに、超音波で洗浄を行い、試料への異物の混入を防止する。

洗浄が終了した土器片は、低圧状態での吸水処理を行い、土壌の状態に戻す。土壌に戻した後は、以下に述べる定量分析と同様に調整し、分析試料とする。

【プラント・オパール定量分析法について】

プラント・オパール定量分析法は、土壌1g当たりに含まれる各種イネ科植物由来のプラント・オパールの数を求める方法である。

定量法には、ガラスビーズ法を用いる。ガラスビーズ法では、土壌1g当たりに約30万個のガラスビーズを混入する。混入するガラスビーズは、直径が機動細胞由来のプラント・オパールと同じ30～40ミクロンであり、組成も同じガラスである。そのため、ガラスビーズは、分析試料の調整作業にともなう物理的・化学的影響をプラント・オパールと同じように受けると考えることができる。したがって、土壌中のガラスビーズとプラント・オパールの数の比は、調整前と調整後で変化しないという仮定が成り立つ。

この仮定から、顕微鏡観察によって計数されたプラント・オパールの数とガラスビーズの数を用いて、土壌1gに含まれる各種イネ科植物由来のプラント・オパールの量を算定することが可能である。

土壌にガラスビーズを混入した後は、水と水ガラスを加え、超音波(250W, 38KHZ)を20分程度、照射する。水ガラスを混入するのは粒子を分散させ、超音波処理の効果を高めるためである。また、超音波を照射することにより、プラント・オパールに付着した粘土粒子を除去することができる。超音波を照射した後、ストークス沈底法により、10ミクロン以下の粒子を除去する。その後、試料を乾燥し、定量分析用試料とする。

検鏡用プレパラートは、封入剤に試料を展開し作成する。封入剤には、カナダバルサムなどいろいろなものがあるが、火山ガラスとほぼ同じ屈折率をもつオイキット(EUKITT)を用いる。

オイキット中に試料を展開すると、火山ガラスが光学的にマスクされる(見えなくなる)ため、テフラ(tephra)が多い地域の分析では検鏡効率を高めることができる。

プラント・オパールの給源植物の同定(検出されたプラント・オパールがどの植物に由来するものかを決定する)は、光学顕微鏡を用い、100倍～400倍に拡大した機動細胞由来のプラント・オパールの

大きさ、形状、裏面の模様などを総合して行う。

今回、定量を行ったイネ科植物は、イネ(*Oryza sativa* L.)、ヨシ属(*Phragmites*)、タケ亜科(*Bambusoideae*)、ウシクサ族(*Andoropogoneae*)、キビ族(*Paniceae*)である。

3. 分析結果および考察

1)プラント・オパール定性分析の結果について

表1に、プラント・オパール定性分析(各種プラント・オパールの有無)の結果を示す。

当該遺跡では石庖丁などの収穫具が出土しているが、イネの機動細胞に由来するプラント・オパールはいずれの試料からも検出されなかった。しかし、試料⑤からイネの籾殻の表皮細胞に由来するプラント・オパールが検出された(写真4)。

機動細胞はイネの葉の細胞である。イネの葉は、意図的に集落の外部に持ち出される可能性は低く、この細胞に由来するプラント・オパールが検出された場合には、遺跡での稲作の存在を示す有力な根拠となる。一方、籾は人によって持ち運ばれるため、その解釈には注意が必要であるが、当該遺跡の場合は、収穫具が出土している点から、検出された籾殻のプラント・オパールは、栽培されていたイネの籾に由来する可能性が高いと言えよう。なお、検出された籾殻のプラント・オパールの密度は低く、いわゆる混和材として意図的に混入されたものとは考えにくい。

イネ以外の植物については、いずれの試料からもタケ亜科とウシクサ族といった人里に普通に存在する植物(タケ・ササやススキなど)に由来するプラント・オパールが検出されている(写真5)。ヨシ属やキビ族については一部の試料から検出が確認され(写真5)、試料①からは樹木に由来するプラント・オパールも検出された。

このように、定性分析の結果から見ると、土器によって、胎土中のプラント・オパールの組成に違いがあることが分かる。特に、ヨシ属は湿潤な環境を好む植物であることから、土器の材料となった土壌にも違いが存在している可能性が窺える。

表1　プラント・オパール定性分析の結果

層名	イネ (*O.sativa*)	ヨシ属 (*Phrag.*)	タケ亜科 (*Bamb.*)	ウシクサ族 (*Andro.*)	キビ族 (*Pani.*)
試料 ①	−	○	○	○	−
試料 ②	−	−	○	○	−
試料 ③	−	−	○	○	○
試料 ④	−	○	○	○	○
試料 ⑤	−	○	○	○	−

(○：検出、−：未検出)

2)プラント・オパール定量分析の結果について

表2はプラント・オパール定量分析の結果を示したものである。先に述べたように、定性分析の結果から、試料によってプラント・オパール組成に違いがあることが明らかになっているが、さらに、定量分析結果を加えると、組成に違いのないタケ亜科やウシクサ族の間に大きな違いが存在していることがわかる。特に、試料①と試料④を比較してみると、プラント・オパールの組成は同じであるが、検出密度についてみると、試料①は全体的に非常に低く、試料④は一般の土壌の分析結果と遜色ない値となっている。

なお、密度には違いはあるものの、いずれの試料からも火山ガラスや輝石などの粒子は確認できて

おり、胎土の分析結果からは、土器の材料となった土壌の給源に極端な違いがあるというよりは、土壌の処理や配合によって、これらの違いが生じたのではないかと推定される。

関連する事例として、筆者が実施した琉球列島のグスク時代の土器胎土分析において、パナリ焼など製法の異なる一部の土器でプラント・オパールの密度が極端に低いという結果が得られている(宇田津 2004)。

表2　プラント・オパール定量分析の結果

層名	イネ (*O.sativa*)	ヨシ属 (*Phrag.*)	タケ亜科 (*Bamb.*)	ウシクサ族 (*Andro.*)	キビ族 (*Pani.*)
試料 ①	0	469	625	938	0
試料 ②	0	0	1,373	2,941	0
試料 ③	0	0	755	2,414	151
試料 ④	0	1,497	5,036	11,570	136
試料 ⑤	0	172	1,551	6,203	0

(単位：個/g)

4. まとめ

南方遺跡から出土した弥生時代前期の土器についてプラント・オパール分析を行った。

主な結果は、以下の通りである。

1)当該遺跡における稲作について

試料⑤からイネの籾殻の表皮細胞に由来するプラント・オパールが検出された。籾は人によって運ばれることを視野に入れておく必要があるが、当該遺跡で、石庖丁などの収穫具が出土していることを考慮すると、この結果は、当該遺跡で稲作が営まれていたことを補強するデータの一つとして位置づけることができよう。

2)土器胎土中のプラント・オパール組成について

定性および定量分析の結果、土器胎土によって、プラント・オパールの組成と密度に違いが存在していることが明らかとなった。今回の分析結果からは、土壌の処理や配合がその原因として推定されるが、今後の考古学的な検討を待ちたい。

【参考文献】

宇田津徹朗，環境考古学マニュアル(編集　松井章)，同成社，138-146，2003

宇田津徹朗，縄文時代における稲作伝播ルートに関する実証的研究，平成12年度～平成15年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書，1-93，2004

杉山真二，藤原宏志「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定一古環境推定の基礎資料として一」『考古学と自然科学』19，69-84，1986

杉山真二，松田隆二，藤原宏志「機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用一古代農耕追究のための基礎資料として一」『考古学と自然科学』20，81-92，1988

藤原宏志「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)一数種イネ科栽培植物の珪酸体標　本と定量分析法　一」『考古学と自然科学』9，15-29，1976

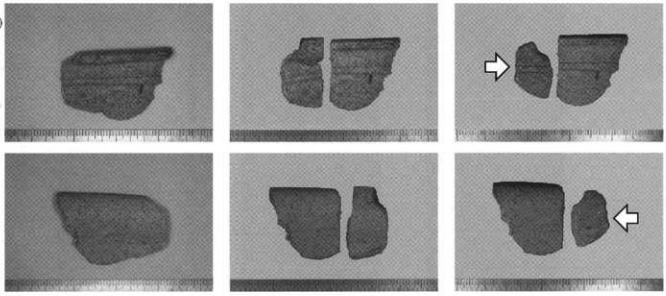
藤原宏志「プラント・オパール分析法の基礎的研究(2)一イネ(Oryza)属植物における機動細胞珪酸体の形状一」『考古学と自然科学』11，9-20，1978

藤原宏志「プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)一福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(*O. sativa* L.)生産総量の推定一」『考古学と自然科学』12，29-41，1979

藤原宏志「プラント・オパール分析法の基礎的研究(4)　熊本地方における縄文土器胎土に含まれるプラント・オパールの検出」『考古学と自然科学』14，55-65，1982

藤原宏志，杉山真二「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)一プラント・オパール分析による水田址の探査一」『考古学と自然科学』17，73-85，1984

資料①



資料②

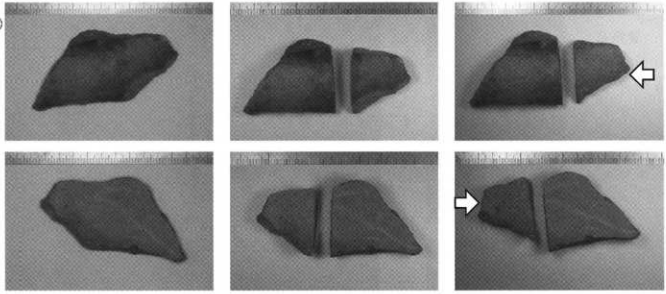
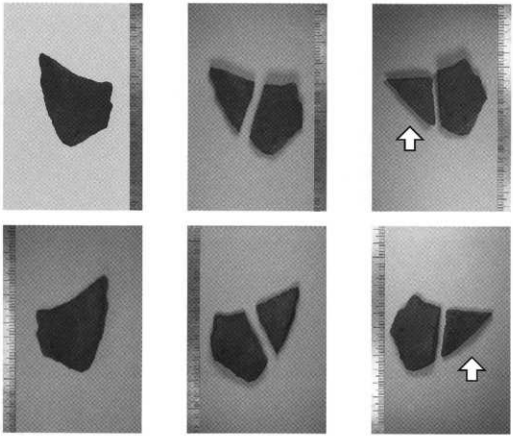


写真１　分析に用いた土器（未処理：左、切断後：中、処理後：右）
※矢印ついた部分が分析試料に調整した部位

資料③



資料④

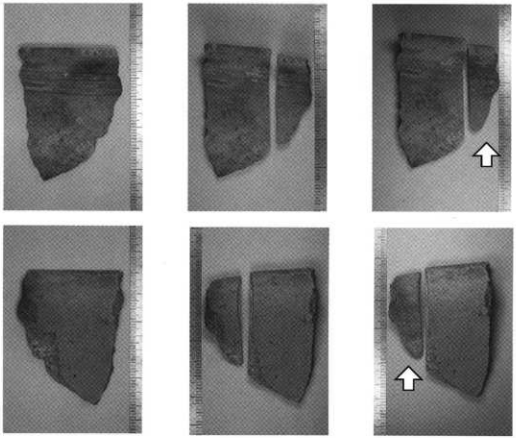


写真２　分析に用いた土器（未処理：左、切断後：中、処理後：右）
※矢印ついた部分が分析試料に調整した部位

資料⑤

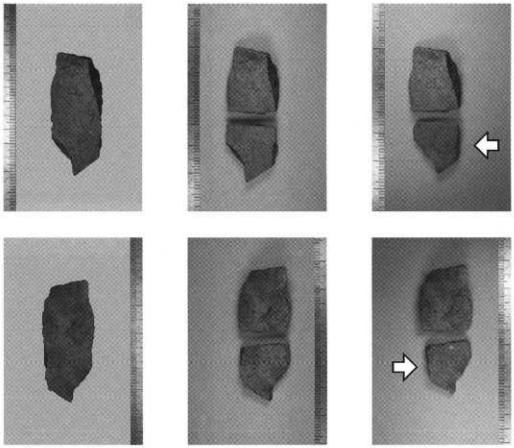


写真３　分析に用いた土器（未処理：左、切断後：中、処理後：右）
※矢印ついた部分が分析試料に調整した部位

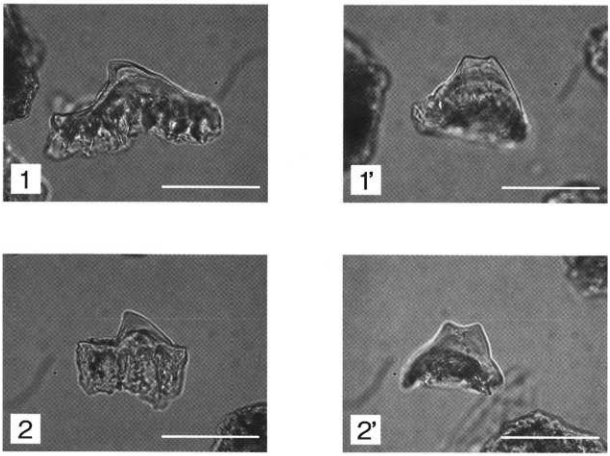


写真４　検出されたイネの籾殻のプラント・オパール
右の写真は左方向から撮影したもの
※写真中のスケールの大きさは 50 ミクロン

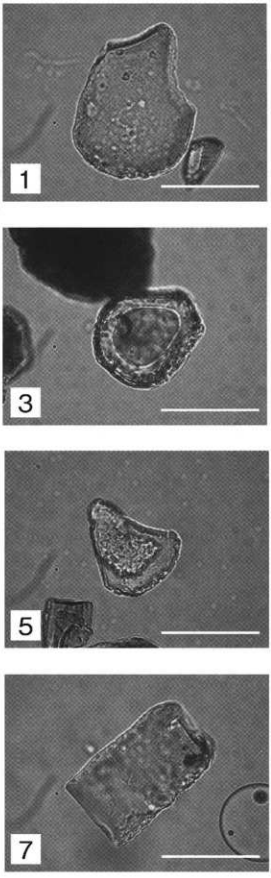


写真５　検出されたプラント・オパール
1,2：ヨシ属　　3,4：タケ亜科
5,6：ウシクサ族　7,8：キビ族
※写真中のスケールの大きさは 50 ミクロン

土器観察表

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	備考
1	SH53	壺	26.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR2/3 断面：褐灰 10YR6/1
2	SH53	高杯？	11.5	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：黒白 2.5YR3/2
3	SH53	壺	不明	不明	3.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：暗赤 N3 断面：褐灰 N4
4	SH54	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
5	SH84	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
6	SH58	壺	20.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：灰白 10YR8/2 断面：褐灰 10YR5/1
7	SH58	高杯	13.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ヨコナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 2.5YR7/4
8	SH58	高杯	11.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
9	SH58	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR8/3
10	SH58	高杯？	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内外：にぶい黄橙 7.5YR7/4 外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
11	SH58	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
12	SH58	壺	15.0	不明	不明	外面：ハケメ、ミガキ 内面：ハケメ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
13	SH58	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
14	SH58	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
15	SH58	高杯	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
16	SH58	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR6/1
17	SH58	鉢	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
18	SH58	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 7.5YR6/1
19	SH58	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
20	SH58	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/2
21	SH58	高杯？	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 5YR7/4 断面：褐灰 7.5YR6/1
22	SH58	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
23	SH58	壺	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外面：灰白 10YR8/2 断面：褐灰 10YR4/1
24	SH58	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 2.5Y7/4
25	SH58	壺	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：黄灰 2.5Y5/1
26	SH142	甕	8.6	32.0	6.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：灰黄 2.5Y6/2
27	SH142	壺	11.3	25.7	5.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：黄灰 2.5Y6/1
28	SH142	甕	不明	不明	6.8	外面：ハケメ 内面：不明	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
29	SH142	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
30	SH142	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 7.5YR6/4
31	SH142	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：にぶい橙 10YR7/4
32	SH142	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：灰白 10YR8/2 断面：褐灰 10YR6/1
33	SH144	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/2
34	SH144	鉢	18.0	8.1	4.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
35	SH144	鉢	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ハケメ、ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：にぶい橙 7.5YR6/4
36	SH144	壺	不明	不明	5.6	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内面：褐灰 10YR4/1 外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：黄灰 2.5Y6/1
37	SH144	壺	不明	不明	7.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：にぶい橙 7.5YR5/3 断面：褐灰 10YR5/1
38	SH144	壺	不明	不明	5.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR8/3
39	SH151A	壺	17.6	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3 断面：褐灰 10YR4/1
40	SH151A	壺	8.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：褐灰 10YR6/1 断面：褐灰 10YR5/1
41	SH151A	甕	17.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
42	SH151A	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：不明	精緻(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y7/1 断面：黄灰 2.5Y5/1
43	SH151A	壺	11.4	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内面：褐灰 10YR5/1 外・断面：褐灰 10YR6/1
44	SH151A	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	断面：にぶい黄橙 10YR7/3
45	SH151A	壺	15.8	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
46	SH151A	壺	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
47	SH151A	壺	21.8	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：明赤褐 5YR5/6 断面：黄灰 2.5Y4/1
48	SH151A	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ、ミガキ 内面：ハケメ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
49	SH151A	壺	11.8	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
50	SH151A	壺	13.4	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内面：褐灰 10YR5/1 外・断面：褐灰 10YR6/1
51	SH151A	甕	14.8	不明	不明	外面：下位ナデ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
52	SH151A	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
53	SH151A	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
54	SH151A	壺	13.8	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
55	SH151A	壺	18.0	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
56	SH151A	壺	23.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ハケメ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
57	SH151A	高杯	20.0	12.0	9.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
58	SH151A	高杯	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
59	SH151A	高杯	16.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR6/1
60	SH151A	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	精緻(長石,石英)	内・断面：黄灰 2.5Y5/1 外面：明褐灰 7.5YR7/2
61	SH151A	台付壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
62	SH151A	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
63	SH151A	高杯	11.3	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
64	SH151A	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
65	SH151A	高杯	不明	不明	9.6	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：褐灰 7.5YR4/1
66	SH151A	高杯	不明	不明	8.0	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y8/2 断面：黄灰 2.5Y5/1
67	SH151A	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：褐灰 10YR4/1
68	SH151A	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：黄灰 2.5Y5/1
69	SH151A	甕	不明	不明	4.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：浅黄橙 10YR8/4 断面：褐灰 10YR4/1
70	SH151A	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外面：浅黄橙 10YR8/4 断面：褐灰 10YR4/1
71	SH151A	鉢	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
72	SH151A	壺	不明	不明	6.6	外面：ミガキ 内面：ケズリ	精緻(長石,石英)	内・外面：橙 7.5YR7/6 断面：黄灰 N4 10YR6/2
73	SH151B	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：褐灰 7.5YR5/1
74	SH151B	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	精緻(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/4

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
75	SH151B	甕	30.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/2
76	SH151B	甕	13.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
77	SH151B	甕	14.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
78	SH151B	甕	18.2	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：灰黄 2.5Y7/2 外面：灰黄褐 10YR6/2
79	SH151B	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
80	SH151B	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：褐灰 10YR6/1 断面：褐灰 10YR4/1
81	SH151B	甕	不明	不明	8.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：黄灰 2.5Y4/1 外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
82	SH151C	壺	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい褐 7.5YR6/3 断面：灰褐 7.5YR4/2
83	SH151C	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：黒褐 10YR3/1 外面：にぶい黄橙 10YR7/2
84	SH151C	壺	不明	不明	9.3	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：浅黄橙 10YR8/3 外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：黄灰 2.5Y6/1
85	SH151B	甕	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ケズリ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
86	SH151C	甕	不明	不明	不明	外面：工具ナデ 内面：ケズリ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：灰白 2.5Y8/2 断面：黄灰 2.5Y5/1
87	SP4	甕	不明	不明	6.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
88	SP2	壺	不明	不明	6.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
89	SP2	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 7.5Y8/2
90	SP4	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 7.5Y8/2
91	SP5	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR5/1
92	SP5	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
93	SP7	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
94	SP5	壺	不明	不明	6.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：黒褐 2.5Y3/1 外・断面：灰白 10YR8/2
95	SP5	高杯	不明	不明	12.6	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
96	SP7	杯身	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰 5Y6/1
97	SK48	壺	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ケズリ，ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
98	SK48	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
99	SK48	甕	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ケズリ，ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：にぶい黄褐 10YR5/3
100	SK51	鉢	16.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
101	SK51	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
102	SK63	甕	15.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黒褐 10YR3/1
103	SK63	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：灰白 10YR8/2 外面：にぶい褐 7.5YR5/3 断面：褐灰 10YR4/1
104	SK63	甕	20.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
105	SK63	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
106	SK63	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/4
107	SK63	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
108	SK63	椀	12.4	6.8	5.0	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
109	SK63	甕	不明	不明	5.5	外面：ミガキ 内面：ケズリ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
110	SK63	甕	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
111	SK64	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
112	SK64	甕	20.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：明赤褐 2.5YR5/6
113	SK64	甕	16.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
114	SK64	甕	17.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：灰白 10YR8/2
115	SK64	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
116	SK64	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：不明	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 2.5YR6/4
117	SK64	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
118	SK64	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
119	SK64	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：灰白 10YR8/2 断面：黒 2.5Y2/1
120	SK64	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ケズリ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい褐 7.5YR6/3 断面：褐 7.5YR4/6
121	SK64	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：黒褐 10YR3/1 外面：にぶい黄橙 10YR7/3
122	SK64	壺	13.6	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/2
123	SK69	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
124	SK69	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
125	SK69	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：褐灰 7.5YR4/1
126	SK69	甕	19.2	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
127	SK69	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y6/1
128	SK69	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
129	SK69	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：灰黄 2.5Y7/2
130	SK69	高杯	23.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：黄灰 2.5Y5/1
131	SK69	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：灰黄褐 2.5Y7/2
132	SK69	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
133	SK69	壺	不明	不明	12.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：灰白 2.5Y7/1 外・断面：橙 7.5YR7/6
134	SK69	甕	不明	不明	12.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR6/3 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
135	SK69	壺	不明	不明	12.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：褐灰 10YR4/1
136	SK69	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：黒褐 2.5Y3/1 外面：明褐灰 7.5YR7/2 断面：にぶい橙 5YR7/4
137	SK69	高杯	不明	不明	13.4	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
138	SK69	壺	不明	不明	10.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：浅黄橙 10YR8/3 外面：にぶい黄橙 10Y7/3 断面：褐灰 10YR5/1
139	SK69	壺	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：黒褐 2.5Y3/1 外・断面：灰白 2.5Y7/1
140	SK69	甕	不明	不明	6.2	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい赤褐 5YR5/4 断面：黒褐 5YR3/1
141	SK69	甕	不明	不明	4.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：黒褐 2.5Y3/1 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
142	SK69	高杯	不明	不明	5.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：暗灰 3N
143	SK69	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
144	SK69	壺	不明	不明	8.6	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：褐灰 10YR4/1 断面：灰白 2.5YR7/1
145	SK70	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
146	SK70	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
147	SK70	甕	19.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
148	SK70	蓋	不明	不明	—	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
149	SK70	甕	26.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 10YR7/1
150	SK70	壺	不明	不明	9.4	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：黒褐 7.5YR3/1
151	SK70	甕	不明	不明	5.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：黒褐 10YR3/1
152	SK70	甕	不明	不明	5.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：黒 7.5YR2/1 外面：灰白 10YR7/1
153	SK70	甕	不明	不明	7.4	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黒褐 10YR3/1

挿図番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
154	SK71	壺	14.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR7/1 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
155	SK71	壺	11.2	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：褐灰 10YR5/1
156	SK71	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
157	SK71	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/4 断面：褐灰 10YR4/1
158	SK71	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
159	SK71	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
160	SK71	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 7.5YR8/4
161	SK71	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
162	SK71	甕	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
163	SK71	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
164	SK72	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
165	SK72	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
166	SK72	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
167	SK72	高杯	不明	不明	10.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/2
168	SK72	甕	不明	不明	5.6	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
169	SK72	甕	不明	不明	5.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3
170	SK72	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/2
171	SK72	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
172	SK76	甕	26.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：明赤褐 5YR5/6 断面：灰 7.5Y5/1
173	SK76	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 5N
174	SK76	高杯	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰 5N 断面：灰 6N
175	SK76	高杯	不明	不明	8.8	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰 5Y4/1 断面：灰白 5Y7/1
176	SK87	壺	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：黒褐 2.5YR3/1 断面：暗灰黄 2.5Y5/2
177	SK87	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 2.5Y3/1
178	SK87	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR5/2
179	SK87	甕	16.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
180	SK87	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：黒褐 7.5YR3/1
181	SK87	高杯	20.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
182	SK87	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
183	SK87	甕	18.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黒褐 10YR3/1
184	SK87	甕	11.0	不明		外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黒褐 10YR3/1
185	SK87	甕	不明	不明	5.7	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：黒褐 7.5YR3/1 外面：にぶい橙 7.5Y7/3
186	SK87	壺	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
187	SK87	甕	不明	不明	3.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：灰黄褐 10YR4/2 外面：灰黄褐 10YR6/2
188	SK87	高杯	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：黒褐 10YR3/1
189	SK87	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 7.5YR5/1
190	SK87	甕	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR5/1 外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：黒褐 10YR3/1
191	SK93	甕	26.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
192	SK93	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：灰褐 10YR6/1
193	SK95	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい橙 2.5YR6/4 外面：にぶい橙 5YR7/3 断面：褐灰 5YR4/1
194	SK95	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：褐灰 10YR4/1
195	SK95	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR4/1
196	SK95	甕	不明	不明	6.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
197	SK96	甕	7.6	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：暗灰 N3
198	SK96	壺	16.8	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
199	SK96	壺	11.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：褐灰 10YR5/1
200	SK96	甕	18.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/2
201	SK96	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 2.5Y7/1 外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
202	SK96	壺	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内面：橙 7.5YR7/6 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
203	SK96	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR8/2 外・断面：灰白 10YR7/1
204	SK96	甕	22.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
205	SK96	甕	24.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
206	SK96	甕	19.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 2.5Y7/1 外・断面：黄灰 2.5Y4/1
207	SK96	甕	16.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
208	SK96	脚形	不明	不明	13.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
209	SK96	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
210	SK96	高杯	不明	不明	15.0	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：灰白 10YR7/1 外面：褐灰 7.5YR6/2
211	SK96	壺	不明	不明	6.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：黒 10YR2/1 外面：灰黄褐 10YR5/2
212	SK96	甕	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
213	SK96	甕	不明	不明	8.4	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：にぶい橙 5YR7/3
214	SK96	甕	不明	不明	5.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
215	SK97	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰黄 2.5Y7/2 外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：褐灰 10YR4/1
216	SK97	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：黒褐 10YR3/1
217	SK97	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
218	SK97	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい赤褐 5YR5/4 断面：明赤褐 5YR5/6
219	SK97	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：褐灰 10YR4/1 断面：にぶい黄橙 10YR7/3
220	SK97	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
221	SK97	甕	17.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：灰白 10YR8/2
222	SK97	甕	18.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 7.5YR8/2 外・断面：淡赤橙 2.5YR7/3
223	SK97	甕	16.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y8/2 断面：黄灰 2.5Y5/1
224	SK97	甕	24.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：浅黄橙 10YR7/2 外面：にぶい黄橙 7.5YR7/3
225	SK97	蓋	8.4	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR6/3 断面：にぶい橙 7.5YR7/4
226	SK97	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 7.5YR4/1
227	SK97	壺	不明	不明	8.0	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
228	SK97	甕	不明	不明	6.8	外面：不明 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・断面：褐灰 10YR5/1 外面：灰褐 7.5YR5/2
229	SK97	壺	不明	不明	5.6	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：にぶい橙 7.5YR7/3
230	SK99	甕	16.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・断面：橙 2.5YR6/6 外面：灰黄褐 10YR6/2
231	SK106	壺	17.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
232	SK106	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
233	SK106	壺	不明	不明	—	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
234	SK106	鉢	不明	不明	7.6	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
235	SK113	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 5Y7/1 断面：灰 5Y4/1
236	SK113	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
237	SK113	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
238	SK113	壺	18.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
239	SK113	甕	14.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
240	SK113	壺	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
241	SK113	高杯	不明	不明	10.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい橙 5YR6/4 外面：灰黄 2.5Y6/2
242	SK113	高杯	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：黒褐 7.5YR3/1
243	SK114	壺	14.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
244	SK114	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(赤色土粒)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
245	SK114	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：褐灰 10YR4/1
246	SK114	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 5Y7/1 外面：浅黄橙 10YR8/3 断面：黒褐 10YR3/1
247	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
248	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
249	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/4 断面：白灰 2.5Y7/1
250	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
251	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
252	SK114	壺	16.0	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
253	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
254	SK114	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
255	SK114	壺	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
256	SK114	壺	不明	不明	9.0	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
257	SK114	鉢	不明	不明	11.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
258	SK138	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/2
259	SK138	甕	不明	不明	5.9	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒 10YR2/1
260	SK138	鉢	不明	不明	10.6	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR6/1 外面：橙 5YR7/6 断面：灰白 7.5YR8/1
261	SK138	壺	不明	不明	8.2	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：橙 5YR7/6
262	SK138	甕	不明	不明	5.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
263	SK153	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：黒褐 7.5YR3/2 外・断面：にぶい褐 7.5YR5/3
264	SK153	壺	不明	不明	9.0	外面：ナデ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
265	SK155	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR8/2 外・断面：褐灰 10YR4/1
266	SK155	甕	26.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
267	SK155	甕	18.0	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
268	SK155	甕	15.0	不明	不明	外面：不明 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
269	SK155	甕	17.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黄灰 2.5Y6/1
270	SK155	甕	18.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR7/6 断面：黄灰 2.5Y4/1
271	SK155	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
272	SK155	壺	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 10YR3/1
273	SK155	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
274	SK155	甕	不明	不明	6.0	外面：ハケメ，ミガキ 内面：不明	粗砂(金雲母)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい赤褐 5YR5/4
275	SK155	甕	不明	不明	5.0	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
276	SK155	甕	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR5/2
277	SK155	甕	不明	不明	6.5	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
278	SK155	甕	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
279	SK155	甕	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR5/2
280	SK155	甕	不明	不明	6.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR5/2
281	SK155	高杯	不明	不明	15.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
282	SK155	高杯	不明	不明	12.4	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
283	SK155	高杯	不明	不明	16.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
284	SK157	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
285	SK157	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
286	SK157	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：灰黄褐 10YR5/2
287	SK157	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
288	SK158	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
289	SK158	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
290	SK188	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
291	SK188	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
292	SK188	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
293	SK158	甕	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
294	SK158	壺	不明	不明	11.6	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR7/3
295	SK188	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：褐灰 10YR5/1
296	SK188	壺	34.0	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR5/2 断面：黒 10YR2/1
297	SK167	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
298	SK167	甕	17.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
299	SK192	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5YR7/3
300	SK192	柄杓	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5YR7/2
301	SK196	甕	14.0	不明	不明	外面：タタキ，ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5YR7/3
302	SK196	甕	15.2	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：褐灰 10YR4/1
303	SK196	甕	15.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
304	SK196	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/4
305	SK196	鉢	不明	不明	10.0	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：黄灰 2.5Y7/2 断面：暗灰 N3
306	SK196	甕	不明	不明	6.3	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：黒褐 2.5Y3/1 外面：灰黄褐 10YR6/2
307	SK196	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR4/1 外・断面：にぶい黄褐 10YR5/3
308	SK196	鉢	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：黄灰 2.5YR6/1 断面：褐灰 10YR4/1
309	SK202	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
310	SK202	高杯	16.0	7.8	7.3	外面：ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
311	SK202	壺	19.0	36.7	9.6	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3

掲載番号	遺構	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	調整	胎土	
312	SK202	甕	24.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
313	SK203	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外面：褐灰 10YR6/1 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
314	SK203	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
315	SK206	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黄灰 2.5Y4/1
316	SK206	壺	15.8	21.4	6.8	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面：黒 5Y2/1 外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：黄灰 2.5Y6/1
317	SK206	甕	16.0	28.5	5.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
318	SK206	甕	15.6	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
319	SK206	甕	14.0	不明	不明	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：浅黄橙 10YR8/4 断面：黄灰 2.5Y5/1
320	SK206	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：黒褐 10YR3/1
321	SK206	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：褐灰 10YR5/1 断面：褐灰 10YR5/1
322	SK206	甕	15.4	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
323	SK206	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
324	SK206	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR5/1
325	SK206	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
326	SK206	甕	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
327	SK206	甕	不明	不明	5.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
328	SK301	小皿	9.9	1.8	7.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR7/4
329	SK301	小皿	9.3	2.2	5.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
330	SK301	小皿	10.0	1.9	6.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
331	SK301	小皿	9.8	1.8	6.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
332	SK301	小皿	10.0	1.9	6.2	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
333	SK301	小皿	9.7	1.4	6.8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
334	SK301	小皿	不明	不明	6.7	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
335	SK301	小皿	10.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
336	SK301	小皿	10.6	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
337	SK301	小皿	9.0	1.7	5.6	外面：ナデ 内面：ミガキ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
338	SK301	小皿	10.2	1.8	5.1	外面：ナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
339	SK301	小皿	10.5	1.9	6.2	外面：ナデ 内面：ナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
340	SK301	小皿	9.8	1.8	7.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR5/1 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
341	SK301	椀	不明	不明	7.6	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
342	SK301	椀	不明	不明	9.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
343	SK301	杯	16.0	不明	不明	外面：不明 内面：不明	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 7.5YR8/3
344	SK301	杯	15.0	不明	不明	外面：不明 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 7.5YR8/3
345	SK301	台付	不明	不明	6.8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
346	SK301	台付	不明	不明	6.8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
347	SK301	台付	不明	不明	6.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
348	SK301	台付	不明	不明	7.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
349	SK301	台付	不明	不明	7.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
350	SK301	椀	16.6	5.2	8.6	外面：不明 内面：ナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
351	SK301	杯	15.0	4.0	8.0	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
352	SK301	小皿	10.5	2.0	6.3	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
353	SK301	小皿	9.9	2.0	7.5	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
354	SK301	小皿	10.0	1.8	6.8	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
355	SK301	小皿	9.0	2.0	6.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
356	SK301	小皿	8.8	1.4	5.9	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
357	SD94	甕	17.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 2.5YR6/4 断面：黒 2.5Y2/1
358	SD94	壺	16.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
359	SD94	甕	19.3	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
360	SD94	甕	14.2	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
361	SD94	壺	21.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：黄灰 2.5Y6/1
362	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/1
363	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
364	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
365	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 10YR6/1
366	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
367	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
368	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：明褐灰 7.5YR7/2 断面：褐灰 7.5YR4/1
369	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
370	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：灰白 10YR8/1
371	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
372	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
373	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR6/1
374	SD94	壺	22.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 7.5YR4/1
375	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 10YR5/1
376	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黄灰 2.5Y6/1
377	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
378	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR7/1
379	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：浅黄橙 10YR8/3 断面：褐灰 10YR5/1
380	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR6/6 断面：明褐灰 7.5YR7/2
381	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
382	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
383	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
384	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
385	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰褐 7.5YR6/2 断面：褐灰 7.5YR5/1
386	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい褐 7.5YR5/3
387	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
388	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 5YR7/4 断面：灰白 7.5YR8/2
389	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/4
390	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
391	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
392	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：黒褐 2.5Y3/1 外面：黄灰 2.5Y6/1
393	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
394	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
395	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい黄橙 10YR7/4 断面：褐灰 10YR5/1
396	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：橙 5YR6/6
397	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰黄 2.5Y7/2 外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
398	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
399	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR7/1 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
400	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：灰黄褐 10YR6/2
401	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
402	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
403	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR5/4
404	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(金雲母)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
405	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
406	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 2.5Y3/1
407	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：明褐灰 7.5YR7/2 断面：橙 5YR6/6
408	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/4 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
409	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：灰黄 2.5Y6/2 外・断面：にぶい褐 7.5YR5/3
410	SD94	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：暗灰 N3 外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
411	SD94	壺	不明	不明	9.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 2.5YR6/4 断面：赤灰 2.5YR6/1
412	SD94	甕	19.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
413	SD94	甕	11.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
414	SD94	甕	27.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 2.5Y3/1
415	SD94	甕	27.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
416	SD94	甕	23.0	31.7	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
417	SD94	甕	19.4	24.0	8.3	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
418	SD94	甕	23.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
419	SD94	甕	30.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：にぶい橙 5YR7/4
420	SD94	甕	20.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：黄灰 2.5Y6/1 外面：灰黄褐 10YR5/2 断面：黄灰 7.5Y6/1
421	SD94	甕	25.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/4
422	SD94	甕	31.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
423	SD94	甕	23.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
424	SD94	甕	23.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
425	SD94	甕	18.2	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
426	SD94	甕	30.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
427	SD94	甕	18.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
428	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
429	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR5/3
430	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
431	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 2.5YR6/4
432	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
433	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
434	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：にぶい褐 7.5YR6/3
435	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
436	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
437	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
438	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
439	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：褐灰 10YR6/1 外面：にぶい褐 7.5YR6/3
440	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
441	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 10YR7/2
442	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 2.5YR6/6
443	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
444	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：黒褐 10YR3/1
445	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：褐灰 10YR4/1
446	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
447	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
448	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 2.5YR6/4 断面：褐灰 10YR5/1
449	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
450	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
451	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黄灰 2.5Y6/1
452	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
453	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい褐 7.5YR5/3 外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
454	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
455	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
456	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 7.5YR5/1
457	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黄灰 2.5Y6/1
458	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
459	SD94	鉢	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
460	SD94	鉢	44.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
461	SD94	鉢	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR6/1
462	SD94	鉢	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR7/6 断面：にぶい橙 5YR7/3
463	SD94	鉢	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
464	SD94	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
465	SD94	筒形	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
466	SD94	鉢	13.0	6.7	8.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
467	SD94	蓋	20.0	不明		外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y7/1 断面：黄灰 2.5Y4/1
468	SD94	蓋	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR7/2 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
469	SD94	壺	8.1	不明	—	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 2.5Y3/1

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
470	SD94	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
471	SD94	甕	12.8	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰褐 7.5YR6/2
472	SD94	壺	不明	不明		外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:黒 10YR2/1
473	SD94	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい褐 7.5YR6/3 断面:褐灰 10YR5/1
474	SD94	甕	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 2.5Y8/1
475	SD94	高杯	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:灰黄 2.5Y7/2 断面:黄灰 2.5Y5/1
476	SD94	甕	不明	不明	5.3	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
477	SD94	壺	不明	不明	5.0	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:褐灰 10YR5/1 断面:灰黄 2.5Y7/2
478	SD94	壺	不明	不明	6.5	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:黒褐 10YR3/1 外面:にぶい橙 5YR7/4 断面:にぶい黄橙 10YR7/2
479	SD94	壺	不明	不明	8.3	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ミガキ,ナデ	粗砂(長石,石英)	内·断面:にぶい黄橙 10YR7/2 外面:にぶい橙 7.5YR6/4
480	SD94	壺	不明	不明	8.0	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 5YR7/3
481	SD94	甕	不明	不明	6.4	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰褐 10YR4/1
482	SD94	壺	不明	不明	8.8	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR6/3
483	SD94	壺	不明	不明	8.6	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい褐 7.5YR6/3 外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
484	SD94	壺	不明	不明	8.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
485	SD94	甕	不明	不明	8.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 2.5YR6/4
486	SD94	甕	不明	不明	7.2	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·断面:にぶい黄橙 10YR7/3 外面:にぶい橙 5YR7/4
487	SD94	壺	不明	不明	7.3	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
488	SD94	壺	不明	不明	8.4	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:灰白 2.5Y7/1 断面:黒褐 2.5Y3/1
489	SD94	甕	不明	不明	10.0	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
490	SD94	壺	不明	不明	11.8	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·断面:にぶい橙 5YR7/4 断面:にぶい黄橙 10YR6/3
491	SD94	甕	不明	不明	9.2	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 5YR6/4
492	SD94	壺	不明	不明	9.4	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:浅黄 2.5Y7/3
493	SD94	壺	不明	不明	7.6	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:灰黄 2.5Y7/2 外·断面:灰黄褐 10YR6/2
494	SD94	甕	不明	不明	10.3	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:明褐灰 7.5YR7/2 断面:にぶい黄橙 10YR7/3
495	SD94	壺	不明	不明	8.4	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい黄橙 10YR7/3 外面:黒褐 10YR3/1 断面:にぶい黄橙 10YR7/2
496	SD94	甕	不明	不明	11.2	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい黄橙 10YR6/3 外面:橙 5YR7/6 断面:褐灰 7.5YR6/1
497	SD94	壺	不明	不明	12.0	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR7/4
498	SD94	壺	不明	不明	12.8	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 5YR6/3
499	SD94	甕	不明	不明	11.6	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR6/3
500	SD94	壺	不明	不明	11.8	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR7/4
501	SD94	壺	不明	不明	9.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰黄褐 10YR6/2
502	SD94	甕	不明	不明	7.5	外面:ミガキ 内面:ハケメ,ナデ	粗砂(長石,石英)	内面:灰白 10YR7/1 外面:橙 5YR6/6 断面:にぶい黄橙 10YR7/2
503	SD94	壺	不明	不明	9.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
504	SD94	壺	不明	不明	11.0	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
505	SD94	壺	不明	不明	11.8	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:浅黄 2.5Y7/3
506	SD94	甕	不明	不明	10.3	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR6/3
507	SD94	甕	不明	不明	12.0	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 7.5YR6/4
508	SD94	壺	不明	不明	8.0	外面:ハケメ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい赤褐 2.5YR4/4 断面:灰赤 10R5/2
509	SD94	甕	不明	不明	9.2	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 5Y8/1
510	SD94	甕	不明	不明	8.4	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
511	SD94	甕	不明	不明	7.7	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·断面:灰黄褐 10YR6/2 外面:黒 10YR2/1
512	SD94	甕	不明	不明	6.8	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR7/3
513	SD94	甕	不明	不明	6.8	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 7.5YR6/4
514	SD94	甕	不明	不明	6.2	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい赤褐 5YR5/4
515	SD94	甕	不明	不明	8.5	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい褐 7.5YR7/4 断面:橙 5YR7/6
516	SD94	甕	不明	不明	8.4	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
517	SD94	甕	不明	不明	8.8	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
518	SD94	甕	不明	不明	7.4	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR6/3
519	SD94	甕	不明	不明	7.4	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:浅黄 2.5Y7/3
520	SD94	甕	不明	不明	8.5	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR7/4
521	SD94	甕	不明	不明	5.6	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい橙 7.5YR7/4 外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
522	SD145	壺	13.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 2.5Y8/1
523	SD145	壺	12.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰黄褐 10YR6/2
524	SD145	壺	11.4	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·断面:にぶい橙 7.5YR7/4 外面:橙 5YR6/6
525	SD145	甕	11.4	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい橙 7.5YR7/3 断面:灰白 10YR8/2
526	SD145	壺	13.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:灰白 2.5Y7/1 断面:黄灰 2.5Y4/1
527	SD145	壺	18.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
528	SD145	甕	17.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
529	SD145	甕	15.6	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
530	SD145	壺	14.6	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
531	SD145	甕	17.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 2.5Y8/2
532	SD145	甕	18.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰黄褐 10YR6/2
533	SD145	壺	17.4	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい黄橙 10YR7/2 断面:黒褐 10YR3/1
534	SD145	甕	15.2	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 7.5YR6/4
535	SD145	甕	13.0	不明	不明	外面:ナデ 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 5YR7/4
536	SD145	甕	15.8	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 10YR8/2
537	SD145	壺	13.4	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(赤色土粒)	内·外·断面:にぶい褐 7.5YR5/4
538	SD145	甕	17.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
539	SD145	壺	18.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 7.5YR7/3
540	SD145	甕	12.2	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい橙 7.5YR7/4
541	SD145	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい橙 7.5YR7/4 断面:にぶい黄橙 10YR7/2
542	SD145	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外面:にぶい黄橙 10YR7/3 断面:にぶい橙 5YR6/4
543	SD145	甕	34.4	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:橙 7.5YR7/6
544	SD145	壺	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
545	SD145	壺	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/3
546	SD145	壺	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:灰白 10YR8/2
547	SD145	壺	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2
548	SD145	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内·外·断面:にぶい黄橙 10YR7/2

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
549	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y8/2
550	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
551	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
552	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：褐灰 10YR4/1
553	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
554	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい橙 5YR7/4 外面：橙 2.5YR6/6 断面：黒褐 5YR3/1
555	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：褐灰 7.5YR5/1
556	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
557	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：褐灰 7.5YR4/1 外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR6/1
558	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：褐灰 10YR4/1 外面：にぶい黄橙 10YR7/2
559	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
560	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
561	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
562	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
563	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
564	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
565	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい橙 10YR6/4 断面：灰黄褐 10YR6/2
566	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
567	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 5YR6/3 断面：褐灰 5YR4/1
568	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい赤褐 5YR5/4
569	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：灰白 2.5Y8/1 外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：黄灰 2.5Y5/1
570	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
571	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：明褐灰 5YR7/2
572	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：灰黄 2.5Y7/2 外面：にぶい黄橙 10YR6/3
573	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
574	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：灰黄褐 10YR5/2
575	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
576	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：にぶい橙 7.5YR7/4
577	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：赤 10R5/6
578	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
579	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：灰白 10YR8/2
580	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
581	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
582	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
583	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
584	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
585	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
586	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
587	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
588	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：にぶい褐 7.5YR6/3 外面：褐灰 10YR4/1
589	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
590	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：灰褐 7.5YR5/2 外面：褐灰 7.5YR5/1 断面：にぶい橙 5YR6/4
591	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：灰黄褐 10YR5/2 断面：浅黄橙 10YR8/3
592	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：黄灰 2.5Y6/1 外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：灰白 2.5Y7/1
593	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石, 石英)	内・断面：暗褐灰 2.5YR3/1 外面：明赤褐 2.5YR5/6
594	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
595	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
596	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：黒褐 10YR3/1 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
597	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：褐灰 10YR4/1 外面：灰黄 2.5Y6/2 断面：灰 N4
598	SD145	甕	22.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 2.5YR6/4 断面：灰黄 2.5Y7/2
599	SD145	甕	27.6	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 2.5Y6/4 断面：灰黄 2.5Y7/2
600	SD145	甕	36.8	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/1
601	SD145	甕	16.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
602	SD145	甕	20.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
603	SD145	甕	31.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
604	SD145	甕	32.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
605	SD145	甕	24.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
606	SD145	甕	26.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
607	SD145	甕	24.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
608	SD145	甕	22.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/1
609	SD145	甕	20.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
610	SD145	鉢	10.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：褐灰 10YR5/1
611	SD145	甕	24.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
612	SD145	甕	18.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
613	SD145	甕	14.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
614	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
615	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい橙 7.5Y7/4 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
616	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
617	SD145	甕	20.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：黄灰 2.5Y6/1 外面：灰黄褐 10YR6/2
618	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：黒 10YR2/1 断面：灰白 10YR7/1
619	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい橙 7.5YR7/4
620	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
621	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
622	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
623	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
624	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石, 石英)	内・断面：灰黄 2.5Y7/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/3
625	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
626	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：にぶい橙 7.5YR6/4
627	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石, 石英)	内・断面：黒褐 7.5YR3/1 外面：にぶい橙 7.5YR7/3

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
628	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
629	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
630	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外面：赤橙 10R6/6 断面：暗赤灰 10R4/1
631	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
632	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：褐灰 10YR5/1
633	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい黄橙 10YR7/3
634	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR6/6 断面：黒褐 5YR3/1
635	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：にぶい橙 5YR6/4
636	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
637	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
638	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：橙 5YR6/6
639	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外：灰白 10YR8/2 断面：暗灰 N3
640	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
641	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
642	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：褐灰 7.5YR5/1
643	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：褐灰 10YR4/1 外面：浅黄橙 10YR8/3
644	SD145	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：褐灰 7.5YR5/1 断面：褐灰 7.5YR5/1
645	SD145	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰黄 2.5Y7/2 外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：黄灰 2.5Y4/1
646	SD145	甕	不明	不明	19.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
647	SD145	甕	不明	不明	7.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
648	SD145	甕	不明	不明	6.6	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
649	SD145	壺	不明	不明	15.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
650	SD145	壺	不明	不明	9.4	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
651	SD145	甕	不明	不明	7.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
652	SD145	壺	不明	不明	11.0	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR6/1 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
653	SD145	壺	不明	不明	13.1	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
654	SD145	甕	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
655	SD145	壺	不明	不明	7.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
656	SD145	甕	不明	不明	6.8	外面：ハケメ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
657	SD145	甕	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
658	SD145	壺	不明	不明	9.6	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・断面：灰白 10YR7/1 外面：にぶい橙 7.5YR7/4
659	SD145	甕	不明	不明	9.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：褐灰 5YR4/1 断面：にぶい橙 5YR6/3
660	SD145	甕	不明	不明	7.3	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
661	SD145	壺	不明	不明	12.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：褐灰 10YR6/1
662	SD145	甕	不明	不明	6.7	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
663	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
664	SD145	壺	不明	不明	7.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
665	SD145	壺	不明	不明	7.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 2.5YR6/3
666	SD145	壺	不明	不明	7.6	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
667	SD145	甕	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
668	SD145	壺	不明	不明	7.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 2.5YR6/3
669	SD145	壺	不明	不明	7.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい赤褐 2.5YR6/4
670	SD145	甕	不明	不明	7.3	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR8/2 外・断面：褐灰 10YR6/1
671	SD145	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：淡赤橙 2.5YR7/4 外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
672	SD145	壺	不明	不明	6.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：黄灰 2.5Y5/1
673	SD145	甕	不明	不明	8.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR6/3 外面：にぶい橙 7.5YR6/4
674	SD145	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
675	SD145	壺	不明	不明	7.3	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
676	SD145	甕	不明	不明	9.2	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
677	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
678	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
679	SD145	壺	不明	不明	9.2	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：明褐灰 7.5YR7/2
680	SD145	甕	不明	不明	11.6	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：灰黄 2.5Y7/2 外面：橙 5YR7/6 断面：黄灰 2.5Y5/1
681	SD145	壺	不明	不明	10.5	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
682	SD145	壺	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
683	SD145	甕	不明	不明	9.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
684	SD145	壺	不明	不明	7.4	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄 2.5Y7/3
685	SD145	壺	不明	不明	10.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
686	SD145	甕	不明	不明	10.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：黒褐 2.5Y3/1 外面：灰白 10YR7/1 断面：明褐灰 5YR7/2
687	SD145	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
688	SD145	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
689	SD145	甕	不明	不明	10.4	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
690	SD145	壺	不明	不明	9.0	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR6/4 断面：灰褐 7.5YR6/2
691	SD145	壺	不明	不明	7.5	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
692	SD145	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
693	SD145	壺	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 5YR7/4 断面：橙 2.5YR6/6
694	SD145	壺	不明	不明	8.9	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
695	SD145	甕	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
696	SD145	甕	不明	不明	6.5	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 7.5YR4/2 外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
697	SD145	壺	不明	不明	8.4	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
698	SD145	甕	不明	不明	6.2	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
699	SD145	壺	不明	不明	5.8	外面：不明 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
700	SD145	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR6/4
701	SD145	甕	不明	不明	9.0	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
702	SD145	壺	不明	不明	7.4	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
703	SD145	壺	不明	不明	7.2	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
704	SD145	甕	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：褐灰 7.5YR5/1 外面：橙 5YR6/6
705	SD145	甕	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
706	SD145	甕	不明	不明	7.2	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/3

挿図番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
707	SD145	甕	不明	不明	8.8	外面:ハケメ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内面:褐灰7.5YR5/1 外-断面:にぶい橙7.5YR6/4
708	SD145	甕	不明	不明	7.8	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-断面:にぶい黄橙10YR7/2 外面:褐灰7.5YR5/1
709	SD145	甕	不明	不明	6.6	外面:不明 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰褐7.5YR6/2
710	SD145	甕	不明	不明	7.2	外面:ミガキ 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙5YR6/4
711	SD145	甕	不明	不明	7.2	外面:不明 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰褐7.5YR6/2
712	SD145	甕	不明	不明	6.8	外面:不明 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内-断面:にぶい黄橙10YR7/2 外面:にぶい橙5YR6/4
713	SD145	甕	不明	不明	7.0	外面:不明 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
714	SD145	甕	不明	不明	8.0	外面:ミガキ 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内面:黄灰2.5Y6/1 外面:にぶい褐7.5YR6/3 断面:にぶい橙5YR7/4
715	SD145	甕	不明	不明	7.6	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR7/3
716	SD145	甕	不明	不明	6.7	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい橙7.5YR7/2 外-断面:褐7.5YR4/3
717	SD145	蓋	26.0	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい褐7.5YR6/3
718	SD145	蓋	19.2	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:明褐灰5YR7/2
719	SD145	甕	不明	不明	6.2	外面:不明 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:にぶい黄橙10YR7/2 外-断面:にぶい橙2.5YR6/3
720	SD145	蓋	26.0	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい褐7.5YR6/3
721	SD145	蓋	15.0	4.8	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい赤褐5YR5/4
722	SD145	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
723	SD145	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
724	SD145	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
725	SD145	蓋	不明	不明		外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
726	SD145	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR7/4
727	SD145	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:灰黄褐10YR6/2 外面:灰黄褐10YR6/2
728	SD145	蓋	不明	不明		外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR6/4
729	SD145	鉢	8.9	6.9	5.8	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
730	SD145	鉢	6.8	6.6	4.8	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR6/4
731	SD145	鉢?	不明	不明	5.4	外面:不明 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:褐灰10YR6/1 外面:にぶい橙7.5YR6/4 断面:にぶい黄橙10YR7/3
732	SD145	鉢?	不明	不明	4.5	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-断面:にぶい黄橙10YR7/2 外面:褐灰10YR4/1
733	SD145	高杯	不明	不明	9.7	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:黒褐10YR3/1
734	SD152	壺	18.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ナデ,ハケメ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
735	SD152	壺	14.2	不明	不明	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい橙7.5YR7/4 断面:にぶい黄橙10YR7/3
736	SD152	甕	20.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR6/3
737	SD152	壺	16.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
738	SD152	甕	不明	不明	不明	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
739	SD152	甕	14.3	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰黄褐10YR6/2
740	SD152	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR7/4
741	SD152	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
742	SD11	甕	18.0	不明	不明	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:明褐灰5YR7/2
743	SD11	甕	19.8	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/4
744	SD11	甕	17.0	不明	不明	外面:ハケメ 内面:ハケメ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
745	SD11	壺	不明	不明	8.0	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内面:灰黄褐10YR5/2 外面:にぶい橙7.5YR7/4 断面:褐灰10YR4/1
746	SD11	壺	不明	不明	14.3	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR6/3
747	SD11	甕	不明	不明	8.2	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい黄橙10YR7/2 断面:褐灰10YR4/1
748	SD11	壺	不明	不明	6.3	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい黄橙10YR7/3 断面:灰褐5YR6/2
749	SD11	甕	不明	不明	5.4	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
750	SD11	甕	不明	不明	8.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:黒N2 外-断面:浅黄2.5Y7/3
751	SD11	甕	不明	不明	5.6	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
752	SD11	甕	不明	不明	5.6	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
753	SD12	皿	9.4	2.0	5.9	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:橙5YR7/6
754	SD11	高杯	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい橙7.5YR7/4 断面:褐灰10YR5/1
755	SD11	高杯	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい黄橙10YR7/2 断面:褐灰10YR5/1
756	SD11	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰黄褐10YR6/2
757	SD11	甕	不明	不明	不明	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
758	SD13	椀	不明	不明	4.6	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内-外-断面:灰N6
759	SD13	杯蓋	不明	不明	—	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内-外-断面:灰白N8
760	SD13	杯蓋	不明	不明	—	外面:ケズリ 内面:ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内-外-断面:灰白N8
761	SD13	高杯	不明	不明	不明	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内-外-断面:灰白N8
762	SD13	甕	11.6	不明	不明	外面:ミガキ 内面:不明	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰白10YR8/2
763	SD13	壺	17.8	不明	不明	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
764	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰褐7.5YR5/2
765	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰黄褐10YR6/2
766	SD13	壺	13.5	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR6/4
767	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:浅黄橙10YR8/3
768	SD13	壺	14.0	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
769	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰黄褐10YR6/2
770	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
771	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR7/4
772	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい橙7.5YR7/4
773	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
774	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
775	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ハケメ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
776	SD13	壺	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/2
777	SD13	鉢	不明	不明	不明	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内-外面:にぶい黄橙10YR7/3 断面:褐灰10YR5/1
778	SD13	蓋	不明	不明	—	外面:ミガキ 内面:ハケメ	粗砂(長石,石英)	内面:黒7.5Y2/1 -外断面:にぶい褐7.5Y5/3
779	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:灰黄褐10YR5/2
780	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ハケメ 内面:ハケメ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄橙10YR7/3
781	SD13	甕	不明	不明	不明	外面:ナデ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい黄2.5Y6/3
782	SD13	壺	不明	不明	不明	外面:ハケメ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-断面:灰白10YR8/1 外面:にぶい黄橙10YR7/4
783	SD13	壺	不明	不明	8.0	外面:ハケメ,ミガキ 内面:ナデ	粗砂(長石,石英)	内-外-断面:にぶい赤褐5YR5/3
784	SD13	甕	不明	不明	8.0	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面:褐灰10YR5/1 外-断面:にぶい黄橙10YR6/3
785	SD13	柄杓	不明	不明	不明	外面:ミガキ 内面:ミガキ	粗砂(長石,石英)	内-外面:灰黄2.5Y7/2 断面:黄灰2.5Y4/1

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
786	SD13	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
787	SD13	手捏土器	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
788	SD13	壺	不明	不明	14.3	外面：ナデ 内面：不明	粗砂(赤色土粒)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
789	SD13	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
790	SD13	壺	不明	不明	8.4	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
791	SD13	甕	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：黒 10YR2/1 外面：灰黄褐 10YR6/2 断面：褐灰 10YR5/1
792	SD13	壺	不明	不明	10.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR5/3
793	SD13	壺	不明	不明	3.7	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
794	SD13	壺	不明	不明	7.2	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
795	SD13	壺	不明	不明	8.0	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
796	SD13	壺	不明	不明	8.3	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：灰褐 7.5YR5/2
797	SP14	壺	24.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
798	SP14	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
799	SP15	壺	不明	不明	12.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外面：灰褐 7.5YR6/2 断面：褐灰 10YR4/1
800	SP15	甕	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR5/2
801	SP15	壺	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
802	SP15	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10YR8/2
803	SP24	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10YR4/1
804	SP24	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：浅黄橙 10YR8/4 外面：褐灰 10YR4/1
805	SP24	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/3 断面：黒褐 7.5YR3/1
806	SP25	甕	37.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(金雲母)	内・外・断面：灰褐 5YR4/2
807	SP25	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：にぶい黄橙 10YR7/6
808	SP26	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR5/2
809	SP27	高杯	9.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
810	SP30	甕	24.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内面：灰白 10YR8/2 外・断面：褐灰 10YR4/1
811	SP30	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
812	SP31	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：橙 5YR6/6 断面：橙 5YR6/6
813	SP31	甕	不明	不明	8.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：橙 7.5YR6/6 断面：にぶい赤褐 5YR4/4
814	SP35	壺	12.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR6/3
815	SP35	壺	19.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
816	SP35	壺	不明	不明	8.0	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
817	SP36	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 5YR7/3
818	SP36	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 7.5YR6/2
819	SP37	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/4 外面：橙 5YR6/6
820	SP37	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR6/6 断面：にぶい黄橙 10YR7/3
821	SP37	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：橙 5YR6/6 断面：にぶい黄橙 10YR7/3
822	SP37	甕	不明	不明	6.6	外面：ハケメ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
823	SP38	高杯	24.8	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
824	SP38	高杯	不明	不明	13.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
825	SP46	甕	30.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
826	SP46	甕	12.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：褐灰 7.5YR4/1
827	SP49	甕	15.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/4 外面：橙 5YR6/6
828	SP49	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
829	SP49	甕	不明	不明	6.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：黒 10YR2/1 外・断面：灰黄褐 10YR6/2
830	SP49	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 5YR5/3
831	SP50	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
832	SP50	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
833	SP50	高杯	不明	不明	13.8	外面：ミガキ 内面：ケズリ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：灰白 10YR7/1 断面：褐灰 10YR5/1
834	SP56	台付甕	不明	不明	8.7	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい褐 7.5YR6/3 断面：褐灰 7.5YR4/1
835	SP56	高杯	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
836	SP56	甕	不明	不明	5.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい褐 7.5YR5/3
837	SP56	壺	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 7.5YR5/2
838	SP60	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：褐灰 10YR4/1 外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
839	SP67	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
840	SP67	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
841	SP68	壺	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
842	SP79	鉢	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
843	SP83	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：浅黄橙 10YR8/3 外面：にぶい橙 7.5YR7/4 断面：褐灰 7.5YR4/1
844	SP83	高杯	16.0	不明	不明	外面：不明 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
845	SP90	壺	16.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/2 断面：黒 10YR2/1
846	SP90	壺	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ケズリ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
847	SP90	甕	16.0	29.6	5.2	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
848	SP115	甕	22.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
849	SP120	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ，ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
850	SP122	壺	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y7/1 断面：灰白 2.5Y8/1
851	SP122	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：褐灰 10YR5/1 断面：灰黄 2.5Y7/2
852	SP123	甕	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：暗灰黄 2.5Y5/2
853	SP130	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：褐灰 10Y4/1
854	SP139	甕	不明	不明	4.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
855	SP139	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
856	SP146	甕	19.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
857	SP146	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
858	SP146	高杯	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3
859	SP146	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒 2.5Y2/1
860	SP146	壺	不明	不明	9.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい褐 7.5YR6/3 外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
861	SP146	甕	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
862	SP146	高杯	不明	不明	11.0	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/4 断面：にぶい黄橙 10YR7/2
863	SP146	壺	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄 2.5Y7/2
864	SP147	甕	14.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/3

掲載番号	遺構	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	調整	胎土	
865	SP147	甕	不明	不明	不明	外面：指おさえ 内面：指おさえ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
866	SP147	壺	不明	不明	8.0	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：灰黄 2.5Y7/5
867	SP147	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・断面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/4
868	SP183	甕	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR7/2
869	SP183	甕	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：暗灰黄 2.5Y5/2
870	SP183	甕	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：にぶい橙 2.5YR6/4 断面：黒褐 10YR3/1
871	SP199	壺	不明	不明	不明	外面：不明 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄褐 10YR5/2 断面：にぶい褐 7.5YR6/3
872	包含層	壺	10.0	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 2.5Y8/1 断面：黄灰 2.5Y4/1
873	包含層	壺	不明	不明	不明	外面：ミガキ 内面：ハケメ	粗砂(金雲母)	内・外・断面：にぶい黄橙 10YR6/3
874	包含層	壺	不明	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：黒褐 10YR2/1
875	包含層	壺	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
876	包含層	甕	不明	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：浅黄橙 10YR8/3
877	包含層	壺	19.4	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
878	包含層	壺	16.0	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：黒褐 2.5Y3/1
879	包含層	甕	17.2	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：浅黄橙 10YR8/3 断面：褐灰 10YR4/1
880	包含層	壺	21.8	不明	不明	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外面：にぶい黄橙 10YR7/3 断面：黒褐 10YR3/1
881	包含層	筒形	不明	不明	9.6	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
882	包含層	高杯	17.4	13.0	9.8	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：浅黄 2.5Y7/3 断面：黄灰 2.5Y4/1
883	包含層	壺	不明	不明	8.8	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい黄褐 5YR5/4
884	包含層	高杯	不明	不明	7.0	外面：ミガキ 内面：ケズリ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰黄褐 10YR6/2
885	包含層	壺	11.0	不明	—	外面：ミガキ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR6/4
886	包含層	壺	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰白 10YR7/1 断面：褐灰 10YR5/1
887	包含層	壺	不明	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	粗砂(長石,石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：暗灰黄 2.5Y5/2
888	包含層	壺	不明	不明	—	外面：ナデ 内面：ナデ	粗砂(長石,石英)	内面：にぶい黄橙 10YR7/4 外・断面：にぶい黄橙 10YR7/4
889	包含層	壺	不明	不明		外面：ナデ 内面：指押さえ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：褐灰 10YR5/1
890	包含層	甕	16.0	不明	不明	外面：ハケメ，ミガキ 内面：ケズリ，ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/3
891	包含層	杯	12.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N7
892	包含層	杯	11.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N6
893	包含層	杯	14.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N7
894	包含層	杯	不明	不明	6.9	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N7
895	包含層	壺	22.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N5
896	包含層	壺	19.6	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 10Y7/1
897	包含層	壺	16.0	不明	—	外面：ミガキ 内面：ミガキ	微砂(長石,石英)	内・外面：灰黄 2.5Y7/2 断面：黄灰 2.5Y4/1
898	包含層	高杯	不明	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰白 2.5Y7/1
899	包含層	杯蓋	不明	不明	—	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N6
900	包含層	壺	9.0	不明	不明	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	微砂(長石,石英)	内・外・断面：灰 N6
901	包含層	甕	20.0	不明	不明	外面：ハケメ 内面：不明	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
902	包含層	甕	21.6	不明	不明	外面：ハケメ 内面：ハケメ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：にぶい橙 7.5YR7/4
903	包含層	甕	不明	不明	1.2	外面：ハケメ 内面：指押さえ	粗砂(長石,石英)	内・外・断面：灰褐 5YR5/2

土製品観察表

掲載番号	器種	遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	完・欠	備考
D1	紡錘車	SI158	2.5	4.8	0.55	1/2	土器転用　甕胴部
D2	紡錘車	SK71	3.8	3.8	0.40	完	土器転用　甕胴部
D3	紡錘車	SK71	3.6	3.9	0.40	完	土器転用　甕胴部　両面穿孔途中
D4	土製円盤	SK72	8.3	8.7	0.90	完	土器転用　甕胴部
D5	紡錘車	SK72	4.4	4.4	0.65	完	土器転用　壺胴部
D6	紡錘車	SK96	3.3	3.3	0.60	完	土器転用　壺胴部　片面穿孔途中
D7	紡錘車	SK96	3.2	2.2	0.50	1/2	土器転用　壺胴部
D8	土製円盤	SK203	4.2	4.6	1.20	ほぼ完	土器転用　甕胴部
D9	紡錘車	SD145	3.0	2.0	0.80	1/4	
D10	紡錘車	SD11	5.4	5.4	1.90	完	
D11	土製円盤未成品	SP07	4.5	4.0	0.70	完	土器転用　壺胴部
D12	紡錘車	SP123	0.7	5.3	0.70	1/2	土器転用　壺胴部
D13	分銅形土製品	包含層	4.7	3.8	1.00	小片	
D14	紡錘車	包含層	3.9	3.9	0.60	ほぼ完	土器転用　甕胴部
D15	紡錘車	包含層	3.4	2.0	0.50	1/2	土器転用　甕胴部　両面穿孔途中
D16	分銅形土製品	包含層	3.5	2.0	1.50	小片	
D17	紡錘車	包含層	2.1	4.2	0.60	1/2	土器転用　甕胴部
D18	紡錘車	包含層	2.7	3.1	0.40	1/4	土器転用　甕胴部
D19	紡錘車	包含層	2.3	3.0	0.40	1/4	土器転用　甕胴部
D20	紡錘車	包含層	2.5	3.1	0.45	3/4	土器転用　甕胴部　片面穿孔途中
D21	紡錘車	包含層	5.1	5.1	1.60	完	
D22	紡錘車	包含層	5.5	5.9	1.00	完	

石器観察表

掲載番号	石器番号	遺構ほか	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
S1	S001	SH53	石包丁	サヌカイト	106.8	51.8	14.3	86.77	摩滅、自然面あり
S2	S003	SH58	石鏃	サヌカイト	16.3	12.2	2.1	0.39	平基式
S3	S004	SH58	砥石	流紋岩	70.1	35.6	21.2	97.22	全面（1面）使用
S4	S005	SH142	石包丁	サヌカイト	83.3	47.4	9.9	38.20	舟形
S5	S006	SH142	石錐	サヌカイト	54.9	28.8	5.7	4.07	
S6	S007	SH144	石鏃	サヌカイト	30.2	12.9	2.8	1.12	凸基2式
S7	S011	SH151A	石鏃	サヌカイト	25.0	19.0	5.2	1.63	平基式
S8	S012	SH151C	打製石剣	サヌカイト	57.9	28.0	10.5	25.51	基部の破片
S9	S148	SH151B	擦切石器	サヌカイト	25.8	42.5	5.0	4.61	自然面あり
S10	S073	SP1	石錐	サヌカイト	33.2	18.5	4.8	3.14	
S11	S074	SP3	石錐	サヌカイト	29.1	10.3	5.2	1.16	
S12	S013	SK48	加工痕ある剥片	サヌカイト	27.2	31.3	6.5	6.13	摩滅あり
S13	S014	SK51	石錐	サヌカイト	25.0	6.9	4.0	0.73	
S14	S015	SK63	擦切石器	サヌカイト	36.4	70.3	7.9	20.30	摩滅あり
S15	S017	SK70	使用痕ある剥片	サヌカイト	44.5	79.7	14.0	32.57	自然面あり
S16	S016	SK70	使用痕ある剥片	サヌカイト	24.6	39.5	5.6	6.12	
S17	S018	SK71	石錘	砂岩	127.5	42.5	27.9	208.37	棒状
S18	S020	SK72	使用痕ある剥片	サヌカイト	42.5	75.6	16.3	33.30	
S19	S019	SK72	砥石	アプライト	79.5	54.0	28.3	174.76	3面使用
S20	S021	SK76	石鏃	サヌカイト	26.1	17.8	4.9	1.40	平基式
S21	S022	SK97	加工痕ある剥片	サヌカイト	48.5	37.1	7.3	14.25	
S22	S023	SK99	使用痕ある剥片	サヌカイト	22.5	29.5	6.1	4.53	
S23	S065	SD106	加工痕ある剥片	サヌカイト	14.6	39.8	6.0	5.06	抉りあり
S24	S064	SD106	剥片	サヌカイト	56.8	64.0	17.8	45.85	自然面あり
S25	S024	SK113	擦切石器	サヌカイト	29.5	52.5	11.6	18.68	石包丁転用
S26	S025	SK113	使用痕ある剥片	サヌカイト	35.8	77.9	6.8	19.74	
S27	S026	SK114	スクレイパー	サヌカイト	39.0	76.9	10.6	21.87	摩滅あり
S28	S027	SK114	使用痕ある剥片	サヌカイト	42.0	50.8	7.3	17.03	
S29	S029	SK155周辺	砥石	流紋岩質凝灰岩	130.8	60.0	48.7	596.87	1面使用
S30	S030	SK167	叩き石	流紋岩	158.3	73.5	65.6	1,218.27	
S31	S031	SK167	加工痕ある剥片	サヌカイト	28.0	32.8	5.9	7.80	
S32	S032	SK203	台石	砂質岩	132.5	98.5	23.5	478.80	
S33	S054	SD94	加工痕ある剥片	サヌカイト	52.5	68.2	7.7	30.35	自然面あり
S34	S055	SD94	加工痕ある剥片	サヌカイト	55.5	52.3	5.5	25.01	摩滅あり
S35	S053	SD94	磨製石包丁	片岩	113.0	45.1	9.0	71.62	不明製品の可能性もあり
S36	S049	SD94	石包丁	粘板岩	75.0	42.0	10.4	46.24	一部研磨
S37	S063	SD94	石核の調整剥片	サヌカイト	69.0	66.0	30.4	115.10	自然面あり
S38	S062	SD94	石核	サヌカイト	35.5	64.5	26.0	58.34	
S39	S052	SD94	磨石	流紋岩	111.0	89.4	56.7	782.00	1面使用
S40	S048	SD94	蛤刃石斧	ハンレイ岩	63.0	75.8	54.7	444.07	
S41	S051	SD94	叩き石	安山岩	77.0	69.5	17.6	148.65	
S42	S050	SD94	叩き石	石英安山岩	106.5	59.2	33.5	319.10	蛤刃石斧の転用
S43	S066	SD145	抉り入り柱状片刃石斧	泥質片岩	84.9	13.0	59.0	104.30	基部の破片
S44	S071	SD145	加工痕ある剥片	サヌカイト	60.0	41.1	9.0	23.19	
S45	S069	SD145	使用痕ある剥片	サヌカイト	49.0	30.8	13.3	18.21	
S46	S068	SD145	加工痕ある剥片	サヌカイト	48.6	45.0	10.0	20.23	
S47	S070	SD145	使用痕ある剥片	サヌカイト	30.8	44.0	8.9	7.75	自然面あり
S48	S067	SD145	石匙	サヌカイト	65.0	43.2	6.1	16.40	自然面あり
S49	S076	SD11	石鏃	サヌカイト	15.3	16.1	2.1	0.37	円基式
S50	S077	SD11	石鏃	サヌカイト	20.1	16.9	3.0	0.82	凹基式
S51	S078	SD11	石鏃	サヌカイト	26.7	24.2	3.9	2.48	平基式
S52	S079	SD11	打製石剣	サヌカイト	48.0	30.4	8.7	10.52	
S53	S088	SD13	小型方柱状片刃石斧	粘板岩	113.0	16.2	19.0	61.75	
S54	S089	SD13	扁平片刃石斧	安山岩	42.5	27.7	11.2	20.63	円礫利用
S55	S091	SD13	使用痕ある剥片	サヌカイト	74.0	53.0	16.0	47.63	自然面あり　摩滅あり
S56	S092	SD13	石錘	安山岩	50.0	45.0	33.4	116.49	両側に浅い溝
S57	S090	SD13	石鏃	サヌカイト	16.2	15.1	3.8	0.90	平基式
S58	S093	SD13	加工痕ある剥片	サヌカイト	59.0	93.7	7.5	38.99	
S59	S099	SD13	スクレイパー	サヌカイト	47.5	61.5	10.2	24.26	自然面あり
S60	S094	SD13	使用痕ある剥片	サヌカイト	41.0	45.8	5.9	14.41	自然面あり
S61	S095	SD13	使用痕ある剥片	サヌカイト	28.8	53.7	6.0	8.16	
S62	S160	SD13	使用痕ある剥片	安山岩	61.0	60.0	19.5	77.43	刃部・表面に摩滅あり
S63	S101	SD13	石核	サヌカイト	41.5	44.6	19.3	54.13	
S64	S100	SD13	石核	サヌカイト	48.6	71.8	16.8	58.00	自然面あり
S65	S102	SD13	使用痕ある剥片	安山岩	85.0	78.5	16.2	110.86	刃部・表面に摩滅あり
S66	S034	SP27	石鏃	サヌカイト	21.5	11.6	2.5	0.67	凹基式
S67	S035	SP31	石鏃	サヌカイト	40.8	12.0	6.2	3.13	凸基2式
S68	S036	SP37	磨製石包丁	泥質片岩	81.0	41.2	12.0	51.52	
S69	S156	SP49	擦切石器	安山岩	27.8	43.0	9.0	10.82	自然面あり
S70	S038	SP52	石鏃未成品	サヌカイト	40.1	21.5	5.2	4.04	
S71	S039	SP101	石鏃	サヌカイト	19.5	15.5	3.7	0.77	平基式
S72	S040	SP117	石鏃	サヌカイト	24.9	19.1	3.5	1.73	円基式
S73	S041	SP119	石鏃	サヌカイト	27.8	16.3	3.1	0.98	凹基式
S74	S043	SP132	加工痕ある剥片	サヌカイト	27.3	40.0	4.5	5.89	

掲載番号	石器番号	遺構ほか	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
S75	S045	SP169	砥石	ホルンフェルス	41.5	69.5	42.4	151.84	3面使用
S76	S146	SP216	砥石	アプライト	40.0	51.5	37.2	106.72	5面使用
S77	S109	包含層	石鏃	サヌカイト	23.1	14.4	3.1	1.02	平基式
S78	S110	包含層	石鏃	サヌカイト	26.0	11.3	2.9	0.91	凸基2式
S79	S111	包含層	石鏃	サヌカイト	17.0	9.9	2.7	0.42	円基式
S80	S112	包含層	石鏃	サヌカイト	13.1	10.2	1.7	0.30	凹基式
S81	S113	包含層	石鏃	サヌカイト	21.7	20.5	3.8	1.37	平基式
S82	S114	包含層	石鏃	サヌカイト	25.9	17.8	3.7	1.76	円基式
S83	S115	包含層	石鏃	サヌカイト	27.1	14.9	3.4	1.20	平基式　自然面あり
S84	S116	包含層	石鏃	サヌカイト	40.8	20.9	4.7	3.36	平基式
S85	S117	包含層	石鏃	サヌカイト	13.7	10.5	3.1	0.39	凹基式
S86	S118	包含層	石鏃	サヌカイト	18.7	11.8	3.8	0.70	平基式　自然面あり
S87	S119	包含層	石鏃	サヌカイト	13.7	14.4	2.1	0.38	円基式
S88	S120	包含層	石鏃	サヌカイト	31.5	27.2	5.3	3.53	平基式
S89	S121	包含層	石鏃	サヌカイト	17.4	12.5	1.9	0.46	平基式
S90	S122	包含層	石鏃	サヌカイト	27.2	21.3	4.7	2.31	円基式
S91	S123	包含層	石鏃	サヌカイト	17.1	16.6	3.6	0.76	凹基式
S92	S124	包含層	石鏃	サヌカイト	16.0	12.8	2.6	0.55	平基式
S93	S129	包含層	石鏃未成品	サヌカイト	23.6	12.8	3.1	1.09	基部未調整
S94	S130	包含層	石鏃未成品	サヌカイト	20.5	14.4	3.4	0.76	凸基1式
S95	S134	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	37.8	57.8	6.8	17.62	自然面あり
S96	S144	包含層	加工痕ある剥片	サヌカイト	32.5	40.3	5.7	7.24	
S97	S141	包含層	加工痕ある剥片	サヌカイト	41.7	57.5	9.1	21.56	摩滅あり
S98	S106	包含層	打製石剣	サヌカイト	48.8	32.8	9.5	17.25	顕著な摩滅あり　自然面あり
S99	S140	包含層	石錐	サヌカイト	67.6	33.0	11.3	24.98	
S100	S108	包含層	打製石剣	サヌカイト	43.5	22.5	9.6	11.90	側縁に研磨あり
S101	S135	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	40.4	51.9	5.0	10.77	
S102	S107	包含層	打製石剣	サヌカイト	42.7	26.8	6.2	8.37	
S103	S145	包含層	加工痕ある剥片	サヌカイト	21.5	48.5	6.8	8.81	
S104	S143	包含層	加工痕ある剥片	サヌカイト	35.0	45.0	9.8	13.99	摩滅あり
S105	S133	包含層	スクレイパー	サヌカイト	47.0	62.0	5.6	20.89	自然面あり
S106	S142	包含層	加工痕ある剥片	サヌカイト	38.0	35.0	8.0	11.49	
S107	S105	包含層	打製石剣	サヌカイト	87.7	30.7	10.7	35.15	摩滅あり
S108	S131	包含層	叩き石	石英安山岩	145.3	66.5	42.8	648.40	蛤刃石斧の転用
S109	S132	包含層	砥石	砂岩	56.8	66.4	58.8	218.70	2面使用
S110	S103	包含層	大型石包丁	サヌカイト	180.0	98.6	16.7	406.27	摩滅あり
	S002	SH53	使用痕ある剥片	サヌカイト	54.2	14.3	13.6	12.72	元は大形石包丁？光沢わずかにあり
	S008	SH144	使用痕ある剥片	サヌカイト	15.2	23.0	5.3	2.46	
	S009	SH144	使用痕ある剥片	サヌカイト	19.8	17.1	4.6	1.64	
	S010	SH144	使用痕ある剥片	サヌカイト	22.4	38.1	8.6	7.36	自然面あり
	S028	SK114	使用痕ある剥片	サヌカイト	34.7	28.6	13.5	19.60	
	S033	SK214	使用痕ある剥片	サヌカイト	32.9	71.5	7.9	20.86	摩滅あり
	S037	SP37	使用痕ある剥片	サヌカイト	26.0	26.6	4.8	3.84	
	S042	SP130	扁平片刃石斧？	粘板岩	22.6	16.3	4.2	3.01	側面を良く磨いている
	S044	SP162	使用痕ある剥片	サヌカイト	33.6	26.9	8.2	8.40	
	S046	SP199	叩き石	流紋岩質凝灰岩	79.4	30.2	21.3	61.96	両端使用
	S047	SP216	使用痕ある剥片	サヌカイト	30.2	15.4	7.1	3.44	
	S056	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	43.5	50.7	7.8	16.03	摩滅・自然面あり
	S057	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	32.8	41.5	7.1	10.56	摩滅あり
	S058	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	73.3	43.4	7.5	32.98	摩滅あり
	S059	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	56.5	25.4	7.9	14.18	摩滅あり
	S060	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	50.1	35.8	10.1	15.06	摩滅あり
	S061	SD94	使用痕ある剥片	サヌカイト	30.8	34.2	8.2	5.72	摩滅あり
	S072	SD152	使用痕ある剥片	サヌカイト	44.2	37.5	9.2	13.57	自然面あり　混入の可能性あり
	S075	SP7	使用痕ある剥片	サヌカイト	25.6	27.7	6.3	5.64	
	S080	SD11	使用痕ある剥片	サヌカイト	23.0	39.0	7.6	6.96	摩滅・光沢あり
	S081	SD11	柱状片刃石斧	凝灰質泥岩	16.9	7.7	36.0	6.45	
	S082	SD11	扁平片刃石斧	粘板岩	27.1	2.7	9.4	1.09	
	S083	SD11	使用痕ある剥片	サヌカイト	25.7	21.3	7.0	4.39	摩滅あり
	S084	SD11	使用痕ある剥片	サヌカイト	20.7	18.0	2.8	1.12	
	S085	SD11	石鏃	サヌカイト	15.0	9.5	2.2	0.32	
	S086	SD12	柱状片刃石斧	センマイ岩	44.2	9.2	18.1	12.44	柱状片刃石斧か？
	S087	SD13	大型石包丁	サヌカイト	66.0	47.8	20.9	85.16	
	S096	SD13	使用痕ある剥片	サヌカイト	28.1	32.3	4.2	4.66	
	S097	SD13	使用痕ある剥片	サヌカイト	29.0	36.8	5.8	7.70	
	S098	SD13	加工痕ある剥片	サヌカイト	38.6	62.7	5.7	15.13	
	S104	包含層	磨製石包丁	粘板岩	40.6	20.6	4.2	3.48	
	S125	包含層	石鏃	サヌカイト	13.0	16.5	2.8	0.65	凹基式
	S126	包含層	石鏃	サヌカイト	22.5	17.1	3.3	1.01	
	S127	包含層	石鏃	サヌカイト	17.2	14.5	3.7	0.83	凹基式
	S128	包含層	石鏃	サヌカイト	13.0	12.4	2.9	0.44	円基式
	S136	包含層	使用痕ある剥片	安山岩	51.6	71.5	12.9	35.93	
	S137	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	34.1	38.2	6.2	11.33	摩滅あり　自然面あり
	S138	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	21.7	31.8	6.6	4.73	自然面あり
	S139	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	19.8	19.5	5.6	2.93	
	S147	SH151A	加工痕ある剥片	サヌカイト	21.4	26.3	2.3	1.86	光沢あり
	S149	SK155	楔形石器	サヌカイト	56.4	49.0	16.0	41.36	自然面あり
	S150	SK64	使用痕ある剥片	安山岩	16.9	28.0	3.0	19.44	
	S151	SK69	使用痕ある剥片	安山岩	44.3	57.0	19.0	43.55	自然面あり

掲載番号	石器番号	遺構ほか	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
	S152	SK106	磨製石斧ノ？	軟質岩	35.2	36.7	5.3	7.05	
	S153	SP125	加工痕ある剥片	サヌカイト	34.5	57.7	5.4	9.24	
	S154	SP136	楔形石器	サヌカイト	32.5	22.8	7.5	8.84	光沢あり
	S155	SP41	楔形石器	サヌカイト	30.9	38.9	7.7	9.29	
	S157	SD145	加工痕ある剥片	サヌカイト	31.3	61.5	7.0	14.81	自然面あり
	S158	SP11	台石	サヌカイト	52.1	40.9	9.3	22.53	
	S159	SP11	石核	サヌカイト	58.0	49.1	11.5	54.24	自然面あり
	S161	包含層	石器未成品	サヌカイト	24.5	11.6	3.3	0.95	
	S162	包含層	楔形石器	サヌカイト	35.4	39.0	9.3	14.31	
	S163	包含層	楔形石器	サヌカイト	29.0	30.9	11.5	11.95	自然面あり
	S164	包含層	石核	サヌカイト	44.2	51.4	20.4	61.98	
	S165	包含層	使用痕ある剥片	サヌカイト	27.5	62.5	9.9	1.50	頁岩石器か？
	S166	SK155 周辺	鉇刃石器	石英安山岩	39.9	56.4	24.9	72.62	
	S167	SE59	楔形石器	サヌカイト	33.2	31.3	6.1	6.68	自然面あり　礫縁あり
	S168	SK71	使用痕のある剥片	安山岩	54.9	76.2	15.9	60.47	自然面あり　礫縁約一部欠損

木製品観察表

掲載番号	遺構ほか	種類	木取り	全長 (cm)	全幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
W1	SK94	さじ	芯持ち	31.9	7.6	5.4	未成品　樹皮付き

骨角器観察表

掲載番号	遺構	器種	材質	残欠長 (cm)	最大幅 (cm)	備考
B1	SD94	刺突具	鹿角	9.2	4.1	分枝部分
B2	SD94	不明	鹿角	11.5	1.7	

図版1

1. 調査区全景
（北から）

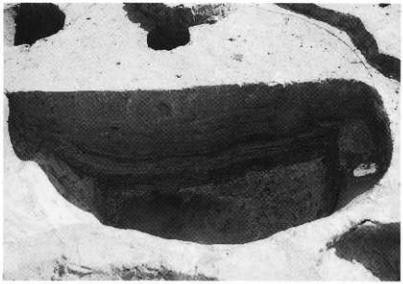
2. 環濠と大型土坑群
（北から）

3. SH58
（東から）

図版2

1. SH141
(北から)

2. SK48
(西から)



3. SK69
(西から)